

科目名	解剖学 I		担当教員	佐々木 博之	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法を学修する上で、人体の構造は最も基本となる知識である。解剖学 I では骨、靭帯、関節および骨格筋から成る運動器系の系統解剖学を学ぶ。講義では板書、スライド提示、カラーリングペーパーなどを用いて運動器の構造を修得していく。また、骨や筋の成り立ちを理解するために、顕微解剖学で骨組織および筋組織構造の特徴を、それを構成する細胞のレベルまで学ぶ。組織学の学習は、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていくことも期待される。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学 I を通して、ヒトの尊厳と生命倫理の重要性を述べることができる。 2. 上肢帯と上肢の構造を説明できる。 3. 下肢帯と下肢の構造を説明できる。 4. 頭頸部と体幹の構造を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	解剖学総論	授業内容	オリエンテーション。人体構造の概要と階層性について学習する。
		予習	人体を構成する器官系や解剖学用語を調べておく。
		復習	人体の構造と階層性について、授業の内容を整理してまとめておく。
2	運動器解剖学の総論	授業内容	人体の運動器を構成する骨、靭帯、関節および骨格筋の概要を学習する。
		予習	運動器の構成について調べておく。
		復習	運動器の概要について授業の内容を整理してまとめておく。
3	運動器の全体像	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、運動器全体の構造を学習する。
		予習	運動器の概要について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
4	上肢の構造	授業内容	上肢帯と自由上肢を構成する骨、関節、靭帯および骨格筋を学習する。
		予習	上肢の構造について調べておく。
		復習	上肢の構造について授業の内容を整理してまとめておく。
5	上肢の骨	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、上肢帯と自由上肢の骨について学習する。
		予習	上肢骨の構成と構造について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
6	上肢の関節と靭帯	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、上肢の関節と靭帯の構造を学習する。
		予習	上肢の関節と靭帯の構造について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
7	上肢の筋	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、上肢帯と自由上肢の骨格筋を学習する。
		予習	上肢の骨格筋について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。

8	下肢の構造	授業内容	下肢帯と自由下肢を構成する骨、関節、靭帯および骨格筋を学習する。
		予習	下肢の構造について調べておく。
		復習	下肢の構造について、授業の内容を整理してまとめておく。
9	下肢の骨	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、下肢帯と自由下肢の骨について学習する。
		予習	下肢骨の構成と構造について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
10	下肢の関節と靭帯	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、下肢の関節と靭帯の構造を学習する。
		予習	下肢の関節と靭帯の構造について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
11	下肢の筋	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、下肢帯と自由下肢の骨格筋を学習する。
		予習	下肢の骨格筋について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
12	頭頸部と体幹の構造	授業内容	頭頸部と体幹を構成する骨、関節、靭帯および骨格筋について学習する。
		予習	頭頸部と体幹の構造について調べておく。
		復習	頭頸部と体幹の構造について、授業の内容を整理してまとめておく。
13	頭頸部と体幹の骨	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、頭頸部と体幹の骨構成と構造を学習する。
		予習	頭頸部と体幹の骨について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
14	頭頸部と体幹の関節と靭帯	授業内容	カラーリングペーパーで、頭頸部と体幹の関節と靭帯の構造を学習する。
		予習	頭頸部と体幹の関節と靭帯の構造について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
15	頭頸部と体幹の筋	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、頭頸部と体幹の骨格筋について学習する。
		予習	頭頸部と体幹の筋について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。

評価法基準	定期試験 80%、提出するカラーリングペーパーの評価 20%
教科書	「標準理学療法・作業療法学基礎分野-解剖学」奈良、鎌倉監修 医学書院 「人体の構造エッセンシャルワークブック」 NPX 社
参考書	「ネッター解剖学アトラス原書第6版」相磯訳 南江堂 「基礎運動学(第6版)」中村、斎藤、長崎 医歯薬出版
履修上の注意	必要に応じて、講義資料とカラーリングペーパーを配布する。
オフィスアワー	月曜日 (12:10~12:50) 、5-2 研究室

科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	佐々木 博之	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法を学修する上で、人体の構造は最も基本となる知識である。解剖学Ⅱでは、神経系、感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系および生殖器系について総論的な内容に絞りこんだ系統解剖学を板書、スライド提示、カラーリングペーパーなどを用いて修得していく。また、諸器官の成り立ちを理解するために、受精から出産までの人体発生学と細胞から組織構築までの顕微解剖学を学ぶ。発生学や顕微解剖学の学習は、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていくことも期待される。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学Ⅱを通して、ヒトの尊厳と生命倫理の重要性を述べることができる。 2. 神経系の構造を説明できる。 3. 内臓器の構造を説明できる。 4. 人体の発生について説明できる。

No.	テーマ		内容
1	神経概説	授業内容	神経系の成り立ちや構成および神経系を構成する細胞について学習する。
		予習	人体の神経系とそれを作る細胞について調べておく。
		復習	神経系の概要について授業の内容を整理してまとめておく。
2	中枢神経系 1	授業内容	脊髄と脳幹の構造と機能について学習する。
		予習	脊髄と脳幹について調べておく。
		復習	脊髄と脳幹の構造と機能について授業の内容を整理してまとめておく。
3	中枢神経系 2	授業内容	大脳半球と間脳の基本的構造と機能局在について学習する。
		予習	大脳と間脳について調べておく。
		復習	大脳と間脳について授業の内容を整理してまとめておく。
4	中枢神経系 3	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、中枢神経系の構造を学習する。
		予習	中枢神経系について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
5	末梢神経系 1	授業内容	脳神経、脊髄神経および自律神経系の分布と機能支配について学習する。
		予習	末梢神経系について調べておく。
		復習	末梢神経系について授業の内容を整理してまとめておく。
6	末梢神経系 2	授業内容	カラーリングペーパーを用いて、末梢神経系の構造を学習する。
		予習	末梢神経系について確認しておく。
		復習	作成したカラーリングを確認して、不足の部分があれば加筆しておく。
7	伝導路	授業内容	下行性と上行性伝導路についてカラーリングペーパーを併用して学ぶ。
		予習	伝導路について調べておく。
		復習	伝導路について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。

8	感覚器	授業内容	感覚器についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	感覚器について調べておく。
		復習	感覚器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
9	循環器系	授業内容	心臓の構造、脈管系についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	循環器について調べておく。
		復習	循環器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
10	呼吸器系	授業内容	呼吸器についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	呼吸器について調べておく。
		復習	呼吸器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
11	消化器系	授業内容	消化管と消化腺についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	消化器について調べておく。
		復習	消化器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
12	泌尿器系	授業内容	泌尿器についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	泌尿器について調べておく。
		復習	泌尿器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
13	内分泌系	授業内容	内分泌器についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	内分泌器について調べておく。
		復習	内分泌器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
14	生殖器系	授業内容	雌雄の生殖器についてカラーリングペーパーを併用して学習する。
		予習	雌雄の生殖器について調べておく。
		復習	生殖器について整理してまとめ、さらにカラーリングを練り上げておく。
15	発生	授業内容	受精から出産までの過程を解剖学的側面から学習する。
		予習	女性生殖器について確認しておく。
		復習	受精から出産までの過程について解剖学的特徴を整理してまとめておく。

評価法基準	定期試験 80%と提出するカラーリングペーパーの評価 20%
教科書	「標準理学療法・作業療法学基礎分野-解剖学」奈良、鎌倉監修 医学書院 「人体の構造エッセンシャルワークブック」 NPX 社
参考書	「ネッター解剖学アトラス原書第6版」相磯訳 南江堂 「基礎運動学(第6版)」中村、斎藤、長崎、医歯薬出版
履修上の注意	必要に応じて、講義資料とカラーリングペーパーを配布する。
オフィスアワー	月曜 (12:10~12:50) 、5-2 研究室 水曜 (12:10~12:50) 、5-2 研究室

科目名	解剖学実習		担当教員	佐々木 博之	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法を学修するにあたり、人体の立体構造を視覚的に理解することは重要である。「解剖学 I および II」で学んだ人体の構造に関する知識を元に、骨、軟骨、関節と靭帯の構造および骨と骨格筋の関係性や中枢神経系について、模型標本や医療画像（CT、MRI など）を観察し、詳細にスケッチする。少人数で構成するグループに分けて、グループごとに実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する骨、関節、筋および中枢神経の三次元的構造を説明できる 2. 骨格筋の起始停止する部位を説明できる。 3. 中枢神経系の構造と機能分布を説明できる

No.	テーマ		内容
1	ガイダンス と全身骨格	授業内容	実習の進め方と評価法について説明し、次いで全身骨格標本を組み立てる。
		予習	解剖学 I で学んだ全身の骨構成を把握しておく。
		復習	全身の骨構成を確認する。
2	脊柱の構造	授業内容	脊柱を観察し、椎骨のスケッチを行う。
		予習	脊柱を構成する椎骨の種類と構造を確認しておく。
		復習	各椎骨の構造的特徴を理解し、スケッチを練り上げる。
3	胸郭の構造	授業内容	胸郭を観察し、肋骨と胸骨の観察とスケッチを行う。
		予習	肋骨と胸骨の構造を確認しておく。
		復習	胸郭を構成する骨について理解し、スケッチを練り上げる。
4	上肢体の構造	授業内容	上肢帯を構成する骨のスケッチとそこに起始停止する筋群の彩色を行う。
		予習	鎖骨と肩甲骨の構造とそこに付着する筋群を確認しておく。
		復習	上肢帯を構成する骨と筋群について理解し、スケッチを練り上げる。
5	自由上肢の構造	授業内容	自由上肢構成骨のスケッチとそこに起始停止する筋群の彩色を行う。
		予習	自由上肢の骨、関節、およびそこに付着する筋群を確認しておく。
		復習	自由上肢を構成する骨と筋群について理解し、スケッチを練り上げる。
6	下肢体の構造	授業内容	下肢帯を構成する骨の観察とそこに起始停止する筋群の彩色を行う。
		予習	寛骨とそこに付着する筋群を確認しておく。
		復習	寛骨と筋群について理解し、スケッチを練り上げる。
7	自由下肢の構造	授業内容	自由下肢構成骨の観察とそこに起始停止する筋群の彩色を行う。
		予習	自由上肢の骨、関節、および筋群を確認しておく。
		復習	自由下肢を構成する骨と筋群について理解し、スケッチを練り上げる。
8	頭蓋 1	授業内容	頭蓋骨の前面観と側面観をスケッチし、骨構成を彩色する。
		予習	頭蓋骨を構成する骨について確認しておく。
		復習	頭蓋骨を構成する骨について理解し、スケッチを練り上げる。

9	頭蓋 2	授業内容	眼窩、鼻腔、内頭蓋底および外頭蓋底をスケッチし、骨構成を彩色する。
		予習	眼窩、鼻腔、頭蓋底を構成する骨について確認しておく。
		復習	眼窩、鼻腔、頭蓋底について理解し、スケッチを練り上げる。
10	中枢神経系 1	授業内容	脳の外側面構造をスケッチし、機能的区分を彩色する。
		予習	中枢神経系の構造について確認しておく。
		復習	中枢神経系の構造について理解し、スケッチを練り上げる。
11	中枢神経系 2	授業内容	脳の正中矢状断面をスケッチする。
		予習	中枢神経系の構造について確認しておく。
		復習	中枢神経系の構造について理解し、スケッチを練り上げる。
12	画像解剖学 1	授業内容	スライドで提示する上肢帯と自由上肢の医療骨画像をスケッチする。
		予習	上肢の構造について確認しておく。
		復習	上肢の構造について理解し、スケッチを練り上げる。
13	画像解剖学 2	授業内容	スライドで提示する下肢帯と自由下肢の医療骨画像をスケッチする。
		予習	下肢の構造について確認しておく。
		復習	下肢の構造について理解し、スケッチを練り上げる。
14	画像解剖学 3	授業内容	スライドで提示する主要な関節の医療骨画像をスケッチする。
		予習	四肢の関節について確認しておく。
		復習	四肢の関節について理解し、スケッチを練り上げる。
15	まとめ	授業内容	1 4 回目までのスケッチで不足部分を加筆・完成させて提出する。
		予習	1 4 回目までのスケッチで不足部分を確認しておく。
		復習	人体の立体構造を視覚的に理解する。

評価法基準	提出するスケッチの評価 80%、スケッチを用いた口頭試問 20%
教科書	「標準理学療法・作業療法学基礎分野-解剖学」奈良、鎌倉監修 医学書院
参考書	「ネッター解剖学アトラス原書第 6 版」相磯訳 南江堂
履修上の注意	A4 のスケッチブックと 4 色以上の色鉛筆を用いる。 必要に応じて、資料を配布する。
オフィスアワー	月曜日 (12:10~12:50) 、5-2 研究室 水曜日 (12:10~12:50) 、5-2 研究室

科目名	機能解剖学		担当教員	佐々木 博之	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	臨床現場で要求されることは、患者の状態が十分に評価することができ、最適なりハビリテーションを提供することです。患者の病態を明確に分析することができるように課題を通して学ぶ科目です。
到達目標	骨と関節運動の仕組みを理解する。 靭帯・筋と関節運動のしくみを理解する。 病態と運動学との関連を理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	講義目的、学習範囲、身体運動の表現方法について
		予習	シラバスの確認。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	体幹	授業内容	頸椎の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	体幹	授業内容	頸部の機能解剖学、胸部の運動（呼吸運動）
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	体幹	授業内容	胸・腰椎の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	下肢	授業内容	腰椎と股関節の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
6	下肢	授業内容	股関節の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	下肢	授業内容	膝関節の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	下肢	授業内容	足関節・足部の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
9	上肢	授業内容	肩複合体の機能解剖学(1)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

10	上肢	授業内容	肩複合体の機能解剖学(2)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
11	上肢	授業内容	肘複合体の機能解剖学(1)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
12	上肢	授業内容	肘複合体の機能解剖学(2)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
13	上肢	授業内容	手関節・手指関節の機能解剖学
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
14	歩行	授業内容	歩行時の関節運動 (1)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
15	上肢	授業内容	歩行時の関節運動 (2)
		予習	解剖学・運動学の教科書を事前に読んでおくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	定期試験（口頭試問）100%
教科書	「標準理学療法・作業療法学基礎分野-解剖学」奈良、鎌倉監修 医学書院
参考書	講義資料を配布します。
履修上の注意	授業時に課題を提示するので、教科書で必ず相当するページを読んでおいて下さい。
オフィスアワー	水曜（12:10～12:50）、5-2 研究室

科目名	生理学 I		担当教員	照井 直人	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	生理学とは生体の正常機能についての学問分野である。生体を持つ調節機能を中心に、各臓器の個体維持における役目を理解する。神経系以外の部分を生理学 I で取り扱う。生体を持つ調節機構の概説に始まり、細胞膜、細胞膜にあるタンパク、興奮性細胞の性質、細胞間の情報伝達、筋収縮機構については分子レベルから、心臓を始めとする循環器、呼吸器、泌尿器、消化器それぞれは器官としての機能について学び、エネルギー消費の観点から代謝についても学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 個体として生存するための個々臓器が果たす役割を理解し説明できる。 ② 細胞膜、イオンチャネル、担体、膜電位、シナプス、筋収縮等が分子レベルで説明できる。 ③ 心臓を含む循環器、呼吸器、消化器、泌尿器のそれぞれの機能と個体維持における役割を説明できる。 ④ 代謝の概念と運動負荷の定義が説明できる。

No.	テーマ		内容
1	生理学序	授業内容	生体を持つ出力の調整方法について具体例をあげて解説する。
		予習	指定教科書の第 1 章を読んでおくこと。
		復習	Negative Feed Back の一例をあげ、フローチャートが描ける。
2	細胞膜	授業内容	細胞膜とこれに付随するタンパクの機能について解説する。
		予習	指定教科書の細胞膜、チャネル、担体について予め読んでおくこと。
		復習	チャネル、担体、ポンプの違いについて説明できる。
3	膜電位	授業内容	興奮性細胞に見られる細胞内電位について、成因と維持の機構、活動電位の発生機構を解説する。
		予習	チャネル、膜電位の種類について予め指定教科書を読んでおくこと。
		復習	活動電位の波形を図示し、波形とイオンチャネルの対応が説明できること。
4	シナプス	授業内容	神経同士、神経と筋の間での情報伝達の仕組みについて解説する。
		予習	シナプスの種類、終板の化学伝達について指定教科書を読んでおくこと。
		復習	シナプスの種類、結合様式を図示、説明できる。
5	筋	授業内容	筋収縮のメカニズムの講義と収縮様式について解説する。
		予習	指定教科書の筋の章を読んでおくこと。
		復習	収縮様式の名前とどのような収縮なのかを図示できる。
6	循環 (心臓)	授業内容	体循環、肺循環、心臓のポンプ機能について解説する。
		予習	指定教科書の循環と心臓の章を読んでおくこと。
		復習	循環器 (動静脈名、心臓の弁等) の名称を図とともに提示できる。
7	循環 (心電図)	授業内容	正常心電図と成り立ちの学習と異常心電図の原因について解説する。
		予習	記録方法、異常心電図について指定教科書の該当章を読んでおくこと。
		復習	刺激伝導系が説明できる。

8	循環（血圧調節）	授業内容	血圧を一定に保つ機構を学ぶ。指定された仕組みについて解説する。
		予習	指定教科書の循環の調節機構の章を読んでおくこと。
		復習	動脈圧受容器反射の説明図を書き説明できる。
9	呼吸器	授業内容	呼吸器とこれを構成する組織について解説する。
		予習	特に呼吸生理学の用語について指定教科書の呼吸の章を読んでおくこと。
		復習	肺気量分画について図示し説明できる。
10	呼吸調節	授業内容	呼吸運動の調節機構とヘモグロビンの働きについて解説する。
		予習	指定教科書の呼吸運動調節とヘモグロビンの章を読んでおくこと。
		復習	血液のガス分圧、酸素解離曲線が説明できる。
11	泌尿器系 I	授業内容	腎循環、尿細管の機能の解説とクリアランスについて解説する。
		予習	指定教科書の泌尿器系の前半の章を読んでおくこと。
		復習	尿細管の各部の機能が説明できる。
12	泌尿器系 II	授業内容	尿濃縮についての講義と腎臓が関与するホルモンについて解説する。
		予習	指定教科書の泌尿器系の後半の章を読んでおくこと。
		復習	腎臓が関与するホルモンを列挙しそれぞれの機能が説明できる。
13	消化器系 I	授業内容	消化管の構造と運動様式について解説する。
		予習	指定教科書の消化管の構造と機能の章を読んでおくこと。
		復習	運動様式を、その運動がよく発生する部位とともに説明できる。
14	消化器系 II	授業内容	化学的消化と吸収の仕組みについて解説する。
		予習	指定された教科書の消化酵素の章を読んでおくこと。
		復習	各消化酵素がどこで分泌されどのように働くのかが説明できる。
15	代謝と体温調節	授業内容	代謝の概念と体温調節、運動負荷について解説する。
		予習	指定教科書の代謝の章を予め読んでおくこと。
		復習	基礎代謝や運動負荷の単位が説明できる。

評価法基準	定期試験は 100 問のマークシート式試験を実施する。60 点以上が合格。再試験を実施する場合、再試験は記述式となり、60 点未満を不合格とする。再試験は本試験より難しくなる。
教科書	「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」 照井直人編 羊土社 ISBN 978-4-7581-2029-6
参考書	「トートラ 人体の構造と機能 第 4 版」 桑木共之他編訳 丸善出版 ISBN 978-4-621-08576-9
履修上の注意	生理学は解剖学と並んで医学の基礎である。配布された資料には諸君がこれにさらに書き込むようにする。こうしてできた諸君のノートは生理学 II のノートとともに高学年、あるいは卒業してからも教科書として有用になるので、毎回きちんとまとめておくこと。
オフィスアワー	火曜～木曜（12:10～12:50）、6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORT のメールで予約すること。

科目名	生理学Ⅱ		担当教員	照井 直人	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	生理学とは生体の正常機能についての学問分野である。生理学Ⅰで学んだことを踏まえて主に神経系が関与する部分を理解する。末梢神経から中枢神経系に至る経路や、その途中での情報処理、大脳皮質や小脳での情報処理機構を学ぶ。内分泌（ホルモン）や血液・免疫系についても学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 神経系を構成する部分（感覚器、末梢神経系、中枢神経系）を列挙することができる。 ② 感覚器の違いとそれぞれがどのように活動電位を発生するかを説明できる。 ③ 中枢神経系内の神経結合が情報処理を行う機構を説明できる。 ④ 血液・免疫細胞の種類を列挙し、それぞれの役割を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	神経系概論	授業内容	神経系を構成するニューロン、グリア細胞について解説する。
		予習	指定教科書の神経系に関する最初の章を読んでおくこと。
		復習	末梢神経系の分類、脳血液関門が説明できる。
2	体性感覚	授業内容	皮膚感覚、深部感覚、痛覚の感覚器とその情報処理機構について解説する。
		予習	指定教科書の体性感覚の章を読んでおくこと。
		復習	感覚器と感覚器から大脳皮質に至る経路が説明できる。
3	視覚Ⅰ	授業内容	視器と視覚情報処理機構について解説する。
		予習	指定教科書の視覚の章を読んでおくこと。
		復習	網膜から第一次視覚野までの経路と各部での情報処理が説明できる。
4	視覚Ⅱ	授業内容	視覚の高次情報処理機構を錯視等も交えて解説する。
		予習	指定教科書の視覚の章、大脳の章を読んでおくこと。
		復習	2つの視覚情報処理経路の違いについて説明できる。
5	嗅覚・味覚	授業内容	嗅覚器、味覚器とそれぞれの中枢情報処理機構を解説する。
		予習	指定教科書の嗅覚・味覚の章を読んでおくこと。
		復習	体性感覚の情報処理機構と何処が同じで何処が違うのかを説明できる。
6	聴覚・平衡感覚	授業内容	聴覚と平衡感覚の器官とそれぞれの中枢情報処理機構を解説する。
		予習	指定教科書の聴覚と平衡感覚（内耳）の章を読んでおくこと。
		復習	聴覚の情報処理機構と、バランスを保つ仕組みが説明できる。
7	脊髄	授業内容	脊髄レベルでの反射について解説する。
		予習	指定教科書の脊髄、運動の章を読んでおくこと。
		復習	Ia, Ib 反射、 γ 運動ニューロンの役割が説明できる。
8	脳幹	授業内容	脳幹レベルでの反射について解説する。
		予習	指定教科書の脳幹、自律神経反射の章を読んでおくこと。
		復習	対光反射、前庭動眼反射、頸反射を説明できる。

9	大脳・小脳	授業内容	機能局在、錐体路、錐体外路、大脳基底核、運動学習について解説する。
		予習	指定教科書の大脳、小脳の章を読んでおくこと。
		復習	自律神経を構成する神経線維と伝達物質を列挙し説明できる。
10	自律神経系	授業内容	交感神経系と副交感神経系の解剖と機能を解説する。
		予習	指定教科書の自律神経の章を読んでおくこと。
		復習	自律神経を構成する神経線維と伝達物質を列挙し説明できる。
11	睡眠・記憶	授業内容	レム睡眠、脳波、記憶の分類、記憶の場について解説する。
		予習	指定教科書の睡眠の章を読んでおくこと。
		復習	覚醒-レム睡眠-ノンレム睡眠の違いを説明できる。
12	内分泌 I	授業内容	ホルモンの概要と各ホルモンの作用、フィードバックについて解説する。
		予習	指定教科書の内分泌の章を読んでおくこと。
		復習	性ホルモン以外のホルモンの種類と作用を列挙し説明できる。
13	内分泌 II	授業内容	性ホルモンと生殖活動について解説する。
		予習	指定教科書の内分泌の性ホルモンの章を読んでおくこと。
		復習	性ホルモンの種類と作用を列挙し説明できる。
14	血液	授業内容	血液の組成、血漿、血球、血液凝固、線溶系について解説する。
		予習	指定教科書の血液の章を予め読んでおくこと。
		復習	血球の分化と血液凝固のシーケンスが説明できる。
15	免疫	授業内容	免疫の仕組みを概説する。
		予習	免疫というキーワードでネットで検索し専門用語について慣れておく。
		復習	細胞免疫、液性免疫、アレルギーについて説明できる。

評価法基準	定期試験は 100 問のマークシート式試験を実施する。60 点以上が合格。再試験を実施する場合、再試験は記述式となり、60 点未満を不合格とする。再試験は本試験より難しくなる。
教科書	「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」照井直人編 羊土社 ISBN 978-4-7581-2029-6
参考書	「トートラ 人体の構造と機能 第 4 版」桑木共之他編訳 丸善出版 ISBN 978-4-621-08576-9
履修上の注意	生理学は解剖学と並んで医学の基礎である。配布された資料には諸君がこれにさらに書き込むようにする。こうしてできた諸君のノートは生理学 I のノートとともに高学年、あるいは卒業してからも教科書として有用になるので、毎回きちんとまとめておくこと。
オフィスアワー	火曜～木曜 (12:10～12:50) 6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORT のメールで予約すること。

科目名	生理学実習		担当教員	照井 直人	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	ヒトの生体の調節機能を、様々な実験を介して理解する。そのため、実際に手を動かし、被験者からデータを取得し、実験結果を客観的に記述し、解析し、表・グラフにまとめ、統計処理を行い、先行研究（教科書）を正しく理解し引用して、論理的に考察したレポートを作成するトレーニングである。そのため、データの取得方法、統計処理の方法を具体的に学ぶ。これらの方法は、高学年の実習や卒業にも必要となる。班を構成して実施するのでチームとしてのコミュニケーションの訓練でもあり、個人としての報告書を書く訓練でもある。
到達目標	(1) 実習書を読み理解し、(2) データを採取し、(3) 結果を表・グラフ等にまとめ、(4) 先行研究・教科書の記載を読み理解し、(5) 実験結果を説明（考察）できるようになる。年度末には、目的（背景）に始まって考察、引用文献一覧までの、科学的な形式を踏んだレポートが書けるようになる。

No.	テーマ		内容
1	レポートの書き方	授業内容	レポートの書き方の講義
		予習	特に必要ない。
		復習	配布されたレポートの書き方を読む。
2	統計処理 I	授業内容	生理学で用いる統計処理のうち、平均値の差の検定について演習を行う。
		予習	配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
3	統計処理 II-1	授業内容	生理学で用いる統計処理のうち、平均値の差の検定について演習を行う。
		予習	前回配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
4	統計処理 II-2	授業内容	統計処理 II-1 の続きを行う。
		予習	あらかじめ配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
5	筋疲労-1	授業内容	データ収集装置の使い方を理解し、全員の握力を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	クラス全員から取得した最大握力値の統計処理を行いレポートする。
6	筋疲労-2	授業内容	筋の疲労過程を記録し、収縮様式による違いを解析する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	筋疲労の原因を調べ、実習結果を考察する。
7	筋電図と発生張力-1	授業内容	上腕の拮抗筋の筋電図の測定を行う。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	拮抗筋の相互の活動を比較し運動様式と合わせて考察する。

8	筋電図と発生張力-2	授業内容	肘を曲げ重りを持ったときの上腕の拮抗筋の筋電図の測定を行う。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	発揮する張力と筋電図の大きさについて考察する。
9	尺骨神経伝導速度-1	授業内容	尺骨神経を電気刺激し、小指外転筋の誘発筋電図から神経伝導速度を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	ヒト運動神経の伝導速度を調べ測定結果と比較検討しレポートする。
10	尺骨神経伝導速度-2	授業内容	尺骨神経伝導速度-1の続きを別の被験者を選び実施する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	神経伝導速度を誘発筋電図で測定する意味を考察する。
11	M波H波-1	授業内容	神経電気刺激で誘発される下肢筋の誘発筋電図を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	誘発筋電図に2種類あることを確認する。
12	M波H波-2	授業内容	M波H波-1を引き続き別の被験者で測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	2種類の誘発筋電図、M波、H波の成因を調べ、実験結果を説明する。
13	眼電図-1	授業内容	眼球運動を眼電図で記録し眼球運動の様式、前庭動眼反射を記録測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	眼球回転角度と眼電図の大きさ、ターゲットが見えるとき・見えないときの眼球運動を比較検討する。頭部回転に伴う前庭動眼反射の結果を考察する。
14	眼電図-2	授業内容	頭部回転と同一回転のターゲットをみているときの前庭動眼反射を記録する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	頭部回転に伴う前庭動眼反射の結果を考察する。
15	心電図	授業内容	標準肢誘導による心電図を計測する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	各自が記録した心電図からパラメータを計測し正常値と比較する。

評価法基準	出欠とレポートで評価する。どちらかあるいは両方が欠けた場合は0点とし、15回のレポートの平均点が60点以上を合格とする。
教科書	実習書、エクセルによる統計計算という冊子を学期の始めに配布するのでこれを利用する。各実習項目の考察に必要な文献・教科書を図書館でさがし、レポートに引用する。
参考書	”生理学”がタイトルにある教科書。
履修上の注意	レポートの提出がないと評価されない。毎回ランダムに組み合わせられた数名からなる班を構成して実験が行われる。班内で役割分担を決めて効率よく実施しないと結果が得られないので、班内でのコミュニケーションが重要である。
オフィスアワー	火曜～木曜（12:10～12:50）、6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORTの授業Q&Aで予約すること。

科目名	運動学 I		担当教員	坂本 俊夫	
実務経験	担当講師は、大学病院をはじめリハビリテーションセンター、リハビリテーション専門病院にて発達障害、身体障害、精神障害および老年期の対象者に急性期から回復期、維持期、終末期における作業療法実践をした経験を持っています。本講義においてはこれらの経験を十分に加味した内容を提供する予定です。				
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	人間や動物の運動を観察、記録することは有史以前から人々の関心事のひとつであったが、学問として運動を取り上げたのは「運動学の父」と呼ばれるアリストテレス (Aristoteles) である。運動学 (kinesiology) は、運動を研究する学問であり、「作業療法」の主要な基礎学問として位置づけられている。本科目は、上肢(帯)、下肢、体幹、顔面の骨格および筋とその特徴を中心に講義を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 筋の起始、停止、作用、神経支配が説明できる。 各関節における運動の特徴が説明できる。

No.	テーマ		内容
1	運動学とは	授業内容	オリエンテーション：なぜ、運動学を学ぶのか？
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
2	総論	授業内容	総論（身体の基本面と基本肢位、身体部位の名称、筋と関節の基礎、関節運動の表し方）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
3	上肢帯の筋	授業内容	上肢帯の筋（肩甲骨の動き、腕神経叢：5本の主要な枝、筋とその特徴）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
4	肩関節の筋	授業内容	肩関節の筋（肩関節の動き、筋とその特徴、回旋筋腱板：rotator cuff）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
5	肘関節の筋	授業内容	肘関節の筋（肘角：運搬角 carrying angle、前腕回内外の仕組み、筋とその特徴）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
6	手関節と手指の筋	授業内容	手関節と手指の筋（手の特有な機能、手根管と Guyon 管、筋とその特徴）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
7	上肢のまとめ	授業内容	上肢のまとめ
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること

8	股関節の構造	授業内容	股関節構造（骨盤の構造と性差、頸体角と前捻角、靭帯とその働き）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
9	股関節の筋	授業内容	股関節の筋（筋とその特徴、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザー・ネラトン線）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
10	膝関節の構造	授業内容	膝関節構造（PF 関節と FT 関節、2つの半月と4つの主要な靭帯）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
11	膝関節の筋	授業内容	膝関節の筋（転がり運動と滑り運動、screw-home movement、筋とその特徴）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
12	足関節と足指の筋	授業内容	足関節と足指の筋（足関節の構造、2つのアーチ、筋とその特徴：単関節筋と二関節筋）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
13	下肢のまとめ	授業内容	下肢のまとめ
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
14	体幹と顔面の筋、総括	授業内容	体幹と顔面の筋（脊柱と胸郭の構造、筋とその特徴：表情筋）、総括
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
15	総合討議	授業内容	運動学のまとめ
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること

評価法基準	定期試験 60%、授業内中間テスト 30%、授業内小テスト 10%
教科書	「運動学, 15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト」小島悟責任編集 中山書店 「PT・OT 基礎から学ぶ 運動学ノート 第2版」中島雅美他編 医歯薬出版.
参考書	「基礎運動学（第6版補訂）」中村隆一ら著 医歯薬出版 「ネッター解剖学アトラス原書第6版」, F.H.Netter（相磯貞和訳） 南江堂 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学（第4版）」野村巖編 医学書院 「触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢」医学書院 「触診解剖アトラス 下肢」医学書院
履修上の注意	講義のはじめ、前回の内容について5分程度の小テスト（および中テスト）を行うので準備をしておくこと。各回の復習および次回に必要と思われる内容の予習（各30分程度）をしておくこと。積極的な発言を望む。
オフィスアワー	木曜（12:10～12:50）、3-10 研究室

科目名	運動学Ⅱ	担当教員	近野 智子		
実務経験	高齢者の急性期病院及び県立のリハビリテーションセンターに勤務し、身体障害領域における急性期・回復期のリハビリテーションに従事しました。また、更生援護施設における身体障害者の就労・地域生活支援に携わりました。運動学Ⅱでは、1年次で学修した解剖学・生理学・運動学の基礎的知識をベースとして、ひとの正常な運動のしくみを理解し、正常から逸脱した運動・現象について論理的に説明できる力を養います。				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	人間の関節は骨格筋の収縮によって随意的に動かすことができ、各関節は解剖学的な特徴だけではなく、機能的な特徴も兼ね備えている。この機能的特徴によって効率よく動かすことができ、人間の運動を理解するためにも各関節運動の特徴を知る必要がある。また、移動手段として重要な歩行に加えて、姿勢や運動の学習についても理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各関節における運動の特徴が説明できる。 2. 正常と異常について運動学的な説明ができる。 3. 姿勢と動作、運動学習の特徴が説明できる。

No.	テーマ		内容
1	肩関節	授業内容	肩関節（解剖学的・機能的特徴、第2肩関節、rotator cuffの役割、肩関節と肩甲骨の連動）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
2	肘関節	授業内容	肘関節（Huter線とHuter三角、生理的外反肘：肘角、前腕の向きと筋活動）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
3	手関節	授業内容	手関節（手のアーチと2つの肢位、橈骨の形態的特徴と運動、テノデーシス作用）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
4	上肢のまとめ	授業内容	上肢のまとめ
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
5	股関節	授業内容	股関節（靭帯とその働き、頸体角、二関節筋とその作用）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
6	膝関節	授業内容	膝関節（靭帯とその働き、screw-home movement、大腿四頭筋と膝蓋骨の作用）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること

7	足関節	授業内容	足関節（距骨滑車の幅と joint laxity、アーチの2つの機構、ヒラメ筋と腓腹筋の役割の違い）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
8	体幹	授業内容	体幹（脊柱の構造と椎間板、頸部の側屈と回旋のしくみ）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
9	胸郭と呼吸運動	授業内容	胸郭と呼吸運動（胸椎と胸郭の運動、肺気量分画、呼吸の種類と筋活動）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
10	下肢、体幹のまとめ	授業内容	下肢、体幹のまとめ
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
11	歩行の基礎	授業内容	歩行の基礎（walking と gait、歩行速度とエネルギー、小児と高齢者の歩行の特徴）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
12	歩行	授業内容	歩行（筋活動のタイミング、歩き方のくせ、疾患別の異常歩行）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
13	姿勢と動作	授業内容	姿勢と動作（人体の重心と重心線、姿勢の理想的なアライメント、姿勢戦略）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
14	運動学習	授業内容	運動学習（学習とは何か、学習の諸理論とその特徴、フィードバック、KR と KP）
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること
15	総括	授業内容	運動のためのエネルギー供給機構・統括
		予習	次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと
		復習	毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること

評価法基準	定期試験 80%、授業内小テスト 10%、中間テスト 10%
教科書	「運動学（15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト）」石川朗、種村留美 中山書店 「PT・OT 基礎から学ぶ 運動学ノート 第2版」中島雅美、中島喜代彦編 医歯薬出版
参考書	「基礎運動学（第6版補訂）」中村隆一ら著 医歯薬出版 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学（第4版）」野村 巖・編 医歯薬出版

履修上の注意	各回に必要なと思われる解剖学および運動学 I (基礎) の内容を復習 (各 30 分程度) しておくこと。 講義のはじめ、前回の内容について 5 分程度の小テストを行うので準備をしておくこと。 積極的な発言を望む。
オフィスアワー	水曜 (12:10~12:50)、3-3 研究室

科目名	運動学実習	担当教員	佐藤 淳矢、畠山 久司、 井川 大樹		
実務経験	<p>(佐藤)</p> <p>作業療法士として急性期の身体障害領域において 19 年の臨床経験があります。疾患においては中枢神経疾患をはじめ、神経筋疾患、骨関節疾患、循環器疾患、呼吸器疾患と多岐にわたり関わってきています。また、実際の臨床現場での患者さんとの関わりだけでなく、臨床研究も行ってきています。作業療法に必要な医学的根拠に基づいた実践を伝えていきたいと考えています。</p> <p>(井川)</p> <p>回復期リハビリテーション病院で身体障害・老年期障害のリハビリテーションを経験し、その後、訪問看護ステーションで生活維持期におけるリハビリテーションに携わりました。対象疾患は、脳血管障害・整形疾患・呼吸器疾患・神経難病・小児疾患など、幅広い疾患の患者さんへの作業療法を行いました。学生さんが、自分の力で考えて、一人一人の患者さんに合わせた作業療法を行えるよう、知識と技術を伝えていきたいと思えます。</p> <p>(畠山)</p> <p>私は、療育センター、児童発達支援、放課後等デイサービス、教育センター、特別支援学校外部専門家など、10 年以上、子どもを対象に作業療法を実施してきました。対象としてきた疾患も、肢体不自由、発達障害、知的障害、難病など、多岐に渡っています。運動学実習は、運動学で学んだ知識を基に、実習を通じて運動の知識を深めていきます。臨床現場の話も交えることで、運動学の重要性の理解を深め、臨床現場で活用できる運動学の知識・技術の獲得を目指します。</p>				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	運動学実習は、これまで学んだ解剖学・生理学・運動学の理論を基に、作業療法を展開する上で必要な運動の知識を得ることを目的とする。各動作を客観的かつ定量的に評価し、観察・測定・記録・分析を行うことにより、データの分析・解析方法と評価の流れを学習する。生体力学の基礎の講義を行った上で、生体観察と動作分析、筋力測定と筋電図、床反力計による動作解析、各種の測定から得られるデータの分析各種動作の観察と分析を実習で行う。実習の取り組みとして、少数人数の学生によってグループを形成し実習を進行していく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動作分析を行う上で重要な生体力学を理解する。 2. 上肢・下肢・体幹の運動器と動作を説明することができる。 3. 日常生活動作上で重要な動作を相に区分し、説明することができる。 4. 各種検査機器から得られるデータを分析し、考察を行うことができる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	講義目的、実習計画、評価法基準について
		予習	なし
		復習	授業内容の振り返り

2	生体力学の基礎	授業内容	運動の表現、力の概念について
		予習	教科書 LECTURE8,9,11,12 の内容を確認
		復習	授業の内容の再確認
3	上肢の運動学①	授業内容	肩・肘・手関節・手指の構造について
		予習	教科書 LECTURE 3 の内容を確認. 運動学 I(第 3,4,6,7 回)の見直し
		復習	上肢の構造について再確認
4	上肢の運動学②	授業内容	肩・肘・手関節・手指の働きについて
		予習	教科書 LECTURE 4,5 の内容を確認. 運動学 I(第 3,4,6,7 回)の見直し
		復習	上肢の運動, 働きについて再確認. 課題の遂行
5	下肢の運動学①	授業内容	股関節・膝関節・足関節の構造について
		予習	教科書 LECTURE 1 の内容を確認. 運動学 I(第 9-13 回)の見直し
		復習	下肢の構造について再確認
6	下肢の運動学②	授業内容	股関節・膝関節・足関節の役割について
		予習	教科書 LECTURE 2 の内容を確認. 運動学 I(第 9-13 回)の見直し
		復習	下肢の運動, 役割について再確認. 課題の遂行
7	体幹の運動学	授業内容	体幹の構造とその役割について
		予習	教科書 LECTURE 6,7 の内容を確認. 運動学 I(第 5 回)の見直し
		復習	体幹の構造, 役割について再確認
8	姿勢の分析	授業内容	姿勢の分類、評価基準等の学習・姿勢分析の実践
		予習	教科書 LECTURE 10、11,の内容を確認
		復習	姿勢について再確認. 課題の遂行
9	寝返り動作の分析	授業内容	寝返り動作の評価基準等の学習・寝返り動作の分析の実践
		予習	事前配布プリントの内容を確認
		復習	寝返り動作について再確認. 課題の遂行
10	立ち上がり動作の分析	授業内容	立ち上がり動作の評価基準等の学習・立ち上がり動作の分析の実践
		予習	事前配布プリントの内容を確認
		復習	立ち上がり動作について再確認. 課題の遂行
11	歩行動作の分析①	授業内容	歩行動作の評価基準等の学習・歩行動作の分析の実践
		予習	教科書 LECTURE14 の内容を確認
		復習	歩行動作の評価や分析方法の再確認
12	歩行動作の分析②	授業内容	歩行の運動の力学について
		予習	運動学実習 (第 2,11 回) の内容を見直し
		復習	歩行の運動の力学についての再確認

13	ADL の分 析①	授業内容	ADL の評価基準等の学習
		予習	事前配布プリントの内容を確認
		復習	ADL の評価方法の再確認
14	ADL の分 析②	授業内容	ADL の分析の実践
		予習	事前配布プリントの内容を確認
		復習	ADL の分析方法の再確認
15	総括	授業内容	総括
		予習	今まで学習した内容等を確認
		復習	動作分析について再確認. 課題の遂行

評価法基準	<p>定期試験 50%、授業内レポート 50%</p> <p>基準：講義・実習から学んだ知識を、定期試験レポートにて評価する。</p> <p>フィードバック：講義ならびに実習での疑問に対し、随時、フィードバックを実施する。</p>
教科書	「総編集,理学療法作業療法テキスト 運動学実習」石川朗、種村留美総編集 中山書店
参考書	「総編集,理学療法作業療法テキスト 臨床運動学」石川朗、種村留美総編集 中山書店
履修上の注意	実習においては動きやすい服装で参加すること。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	運動生理学	担当教員	草野 修輔		
実務経験	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床において各種運動器疾患、神経内科疾患における運動学的観点からの適切な運動処方を行ってきた。また大学において、作業療法学科の学生に、運動生理学に関連する講義も行ってきた。その経験を活かし、運動生理学における、解剖・生理に関する理解はもちろん、それを臨床に活かせるように運動生理学についてわかりやすく講義する。				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	運動生理学では、運動に関係する解剖と、運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する。また、解剖・生理学の理解を基盤とし、さらに運動による生理学的変化、トレーニングによる生理学的変化についても理解を図る。運動生理学の知識を身に付けることにより、リハビリテーション医療での、障害評価・訓練・生活指導に活かすことをねらいとする。
到達目標	①運動に関係する機能解剖、運動及びトレーニングに伴う骨格筋系、呼吸循環器系、代謝系、神経系、内分泌系の生理応答を説明できる。 ②各種疾患、病態に応じた運動療法、トレーニング方法について説明できる。 ③加齢、不活動に伴う骨格筋系、呼吸循環器系、代謝系、神経系の生理応答を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	神経系の構造と働き	授業内容	運動に関与する神経系の解剖と機能
		予習	各種神経系の解剖と機能に関して理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	神経系と運動	授業内容	神経系と運動
		予習	運動に関与する神経系の働きを理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	筋構造と働き	授業内容	筋の構造と働き
		予習	運動に関与する筋の構造と働きについて理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	筋収縮のエネルギー	授業内容	筋収縮のエネルギー
		予習	筋収縮に関与するエネルギー供給系について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	筋収縮活動による筋変化	授業内容	運動様式と筋の適応変化
		予習	筋力トレーニングの違いによる筋の構造・機能変化について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	筋疲労と筋損傷	授業内容	運動に伴う筋疲労と筋損傷
		予習	運動に伴う筋疲労と筋損傷について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと

7	呼吸器系の構造と機能	授業内容	呼吸器系の構造と機能
		予習	運動に関与する呼吸器系の構造と機能について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	呼吸器系と運動	授業内容	呼吸器系と運動
		予習	運動に関与する呼吸器系の働きについて理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
9	循環器系の構造と機能	授業内容	循環器系の構造と機能
		予習	運動に関与する循環器系の構造と機能について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
10	循環器系と運動	授業内容	循環器系と運動
		予習	運動に関与する循環器系の働きについて理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
11	運動と栄養	授業内容	運動と栄養、代謝、ホルモン
		予習	運動に関与する栄養、代謝、ホルモン動態について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
12	運動と環境	授業内容	運動と体温調整、運動環境
		予習	運動に関与する体温調整機能、運動環境要因などについて理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
13	運動耐容能	授業内容	運動生理学に基づいた運動パフォーマンス評価
		予習	運動耐容能について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
14	運動処方	授業内容	運動生理学に基づいた運動処方
		予習	各種疾患における運動処方について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
15	生活習慣病と運動	授業内容	生活習慣病と運動療法
		予習	生活習慣病の病態と運動療法について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	定期試験 90%、授業内小テスト 10% 基準：定期試験をメインの評価基準とするが、各講義後の小テストについても、講義のまとめをかねて、評価する。
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意	運動生理学については、その理解の基礎となる筋構造、神経系の解剖と生理、呼吸器系・循環器系の構造と働きの理解が重要である。さらにリハビリテーション医療に生かすためには、運動生理学に基づき、運動が筋活動、呼吸器系、循環器系、代謝系へどのように関与するかと、それをどのようにリハビリテーション医療に生かしていけるかを絶えず考えながら講義に臨むこと。
オフィスアワー	

科目名	人間発達学	担当教員	佐々木 清子		
実務経験	長年にわたり、肢体不自由児施設、重症心身障害施設、地域の発達センターに勤務し、発達領域の作業療法支援を行ってきました。また、学校、保育園など地域における作業療法支援も行ってきました。				
学科	作業療法学科	学年	1 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	人間を発達的な視点からとらえ、生涯発達の視点で展望できることを目指す。人間を発達的な視点でとらえることで、その後に学ぶ臨床的知識の理解を助けることができる。人間を身体と精神両面から環境と相互作用しながら生涯発達する存在としてとらえ、前半は各々の時期における発達過程と発達課題を学ぶ。後半は目と手の協調・日常生活動作・遊び・社会性の発達を深く掘り下げて学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各発達期の特徴を述べることができる。 運動発達、精神発達の関連性をのべることができる。 人間を発達的な視点からとらえ、生涯発達の視点で展望できる。 人間を発達的な視点でとらえることで、その後に学ぶ臨床的知識の理解を助けることができる。

No.	テーマ		内容
1	人間発達の概要	授業内容	人間発達学の定義、発達の原則、発達の順序、発達段階、環境との関係について学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
2	運動の発達(胎生期)	授業内容	胎生期の発達の特徴を、動画を通して学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
3	運動の発達(0～3か月)	授業内容	0～3か月の運動発達の特徴を学び、実際に実技体験し分析できる視点を学ぶ。原始反射・反応の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
4	運動の発達(4～6か月)	授業内容	4～6か月の運動発達の特徴を学び、実技体験し分析できる視点を学ぶ。原始反射・反応の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
5	運動の発達(7～10か月以降)	授業内容	7～10か月以降の幼児期の運動発達の特徴を学び、実際に実技体験し分析できる視点を学ぶ。原始反射・反応の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入

6	運動の発達 (11か月以降)	授業内容	実技を通して11か月以降の幼児期の運動発達の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
7	目と手の協調性の発達	授業内容	乳幼児期における目と手の働き、目と手の協調性の発達特徴について学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
8	認知の発達	授業内容	乳幼児期から青年期までの認知機能の発達の概要を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
9	遊びの発達	授業内容	遊びの意義、種類、発達段階における遊びを学ぶ。
		予習	グループで玩具の分析(運動や認知機能、遊びの発達段階)
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
10	言語、社会性の発達	授業内容	乳幼児期から青年期までの言語・社会性の発達の概要を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
11	日常生活動作と食事動作の発達	授業内容	日常生活における諸活動の分類、仕事、遊び、ADLについて学ぶ。仕事をする能力の発達を学ぶ。後半は、動画を通して、食事機能の発達の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
12	食事動作の発達	授業内容	食事のプロセスや機能を分析し、発達の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
13	排泄行動の発達	授業内容	排泄行動の発達を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
14	更衣整容動作の発達	授業内容	乳幼児期からの更衣動作の発達過程を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入
15	青年期から老年期の特徴/各期の特徴	授業内容	青年期の身体と心の発達の特徴、成人期の身体と心の発達の特徴、老年期の心と身体の変化、老化の諸問題などについて学ぶ。各期の特徴を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく
		復習	テーマに沿ったワークシートの記入

評価法基準	定期試験 80%、ワークシートの作成 20%
教科書	「イラストでわかる人間発達学」上杉雅之監修 医歯薬出版
参考書	「標準理学療法学・作業療法学・人間発達学第2版」
履修上の注意	詳細は講義初日に伝達する。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	病理学		担当教員	村井 達哉	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	病理学は、疾病と症候の意義と分類、病因となる内因と外因を踏まえ、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫疾患、アレルギー疾患、腫瘍、先天異常などに含まれる主要疾患について理解することを目的とする。具体的には疾病の原因、発生メカニズム、経過と転帰などについて細胞、組織、臓器などの形態の変化の点から学ぶ。
到達目標	1) 進行性・退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、奇形などの疾患群を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる。

No.	テーマ		内容
1	病理学の概要 病因論(1)	授業内容	病理学の目的、医療における病理の役割、疾病の原因（外因・内因）を理解する
		予習	病理診断科とは何をする診療科か調べておく。メンデルの法則を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
2	病因論(2)	授業内容	疾病の原因（外因・内因）を理解する
		予習	物理学、化学、生物学の知識を整理しておく
		復習	授業内容をまとめておく
3	進行性病変 退行性病変	授業内容	退行性病変・進行性病変について学ぶ
		予習	人体の正常な構造・機能について復習しておく
		復習	萎縮・変性・壊死・肥大・過形成・再生・化生の定義を見直しておく
4	循環障害(1)	授業内容	血液循環の基礎、循環障害の病因・病態について理解する
		予習	解剖・生理学で学んだ体液循環の内容を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
5	循環障害(2) 炎症(1)	授業内容	循環障害の病因・病態について理解する。炎症の意義・徴候を理解する
		予習	生理学で学んだ免疫機構の内容を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
6	炎症(2) 腫瘍(1)	授業内容	アレルギー、炎症仲介物質について理解する。腫瘍の定義や特徴を理解する
		予習	解剖学で学んだ上皮性組織・非上皮性組織について復習しておく
		復習	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを比較して理解する
7	腫瘍(2)	授業内容	腫瘍の形態、悪性腫瘍の進展形式、がんの発生原因を学ぶ
		予習	代表的な発がん物質を調べておく
		復習	授業内容をまとめておく
8	先天奇形	授業内容	先天奇形について学ぶ
		予習	人体の発生の概要について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

評価法基準	定期試験の成績を基本とするが、授業への取り組み姿勢を加味することがある。
教科書	「疾病のなりたち 第14版」 医学書院
参考書	なし
履修上の注意	本講座で学ぶ医学用語・病理学用語につき、その定義や概念を確実に習得して欲しい。
オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて対応。 E-mail : duo280c@nifty.ne.jp

科目名	臨床心理学		担当教員	小野寺 哲夫	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	臨床心理学は、医療専門職として臨床実践する際の基礎（コア）となる学問である。患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼されるためには、臨床心理学の知識と対人援助スキルは必要不可欠である。具体的には、フロイト精神分析学の基礎や認知行動療法、医療実践において必須であると考えられるロジャーズの対人援助技法としての傾聴技法や共感技法などのカウンセリング技法から各種心理検査法、各種心理療法の基本的な考え方や実践法までについて、座学と演習を通して学ぶ。
到達目標	・臨床心理学では、患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼される医療専門職になるために必要不可欠な対人援助理論、心理検査法、各種心理療法の理論と実際について説明できる。また、対人援助スキルについては模倣できるようになる。

No.	テーマ	内容	
1	臨床心理学 の総論	授業内容	臨床心理学とは何か？心理学と臨床心理学の違いは何か？などについての総論について講義する。
		予習	前期に学習した「心理学」の講義内容を復習すること。
		復習	講義内容をまとめること。
2	精神分析学 ①	授業内容	フロイトの精神分析理論の基本的な考え方について、講義を通して学ぶ。特に、フロイトが提唱した心の構造論と葛藤などに焦点を当てる。
		予習	ジグムント・フロイトの概要について教科書等で調べること。
		復習	フロイトの業績や精神分析理論の概要についてまとめること。
3	精神分析学 ②	授業内容	フロイトの精神分析における自我防衛機制についてと、対象関係論、およびアタッチメント理論について、講義を通して学ぶ。
		予習	フロイト精神分析における防衛機制について調べること。
		復習	国試に頻出する单元なので、それぞれの防衛機制についてまとめること。
4	心理アセス メント論①	授業内容	心理学および臨床心理学分野で開発されてきた心理テストを紹介する。具体的に、いくつかの性格テスト（質問紙法）を体験しながら心理テストについて学ぶ。
		予習	心理テストの種類とその概要について調べること。
		復習	心理テストの3分類について、まとめること。
5	心理アセス メント論②	授業内容	心理学および臨床心理学分野で開発されてきた心理テストを紹介する。具体的に、いくつかの投影法テスト（描画法）を体験しながら心理テストについて学ぶ。
		予習	心理テストの「投影法テスト」について調べること。
		復習	投影法テストの特徴と目的などについてまとめること。
6	カウンセリ ング理論	授業内容	カール・ロジャーズの業績と自己理論について学びながら、専門職業人として必要なカウンセリングマインドについて、講義を通して学ぶ。
		予習	教科書等で、ロジャーズの業績について概要を調べること。
		復習	ロジャーズの自己理論についてまとめること。

7	カウンセリング技法① ロジャーズ 法	授業内容	カール・ロジャーズのカウンセリング理論と傾聴技法の知識をベースにして傾聴訓練等を学ぶ。
		予習	ロジャーズが提唱した「傾聴技法」について調べること。
		復習	実習を通して学んだ傾聴技法の要点についてまとめること。
8	心理療法論 ①：認知行 動療法 (CBT)	授業内容	現在、臨床心理学分野で中心的な心理療法として認められている認知行動療法（CBT）、特に、CBTの基本原則について、講義を通して学ぶ。
		予習	認知行動療法（CBT）の基本的な考え方について調べること。
		復習	認知行動療法（CBT）の基本原則についてまとめること。
9	心理療法論 ②：認知行 動療法 (CBT)	授業内容	認知行動療法（CBT）のスキーマなどの基礎理論の講義をベースにししながら、CBT アセスメントシートの記入法からロールプレーまで学ぶ。
		予習	CBT アセスメントシートの記入法について調べること。
		復習	CBT アセスメントシートの活用法についてまとめること。
10	心理療法論 ③：森田療 法と内観療 法	授業内容	日本で生まれ、世界で高く評価されている心理療法としての森田療法と内観法について、講義を通して学ぶ。
		予習	森田正馬の生涯と思想について概要を調べること。
		復習	森田療法の特徴と強みについてまとめること。
11	心理療法論 ④：森田療 法・内観療 法	授業内容	森田療法と内観療法の基本概念とその要点について、講義を通して学ぶ。加えて、臨床的応用についても学習する。
		予習	森田療法の中の感情の法則、精神交互作用、とらわれ、あるがままの受容、生の欲望、および入院森田療法における4期について調べること。
		復習	森田療法と内観療法の概要についてまとめること。
12	心理療法論 ⑤：交流分 析	授業内容	医療現場における対人コミュニケーションを分析するための交流分析の基礎理論について、講義を通して学ぶ。
		予習	交流分析の開発者であるエリック・バーンについて調べること。
		復習	交流分析の概要についてまとめること。
13	心理療法論 ⑥：交流分 析	授業内容	交流分析の基礎理論をベースにして、エゴグラム、OK グラムストローク分析、心理ゲーム、人生脚本について学ぶ。
		予習	交流分析の各論について調べること。
		復習	実施したエゴグラム等の結果をまとめること。
14	心理療法論 ⑦：家族療 法	授業内容	個人療法よりも広いシステム思考をベースにした家族療法の〈ものの見方〉、および基礎理論について学ぶ。特に、ジェノグラムの作成法と多世代家族システムズ理論を中心に、講義を通して学ぶ。
		予習	家族療法の特徴であるシステム思考について調べること。
		復習	家族療法に固有の〈ものの見方〉についてまとめること。
15	カウンセリング技法⑧ 動機づけ面 接法	授業内容	ロジャーズのカウンセリング技法の応用である「動機づけ面接法（MI）」についての基本原則に加えて、モチベーションを引き出すための技法について学ぶ。
		予習	動機づけ面接の基本理念について調べること。
		復習	動機づけ面接の具体的な応用法についてまとめること。

評価法基準	定期試験 80%、授業内小レポート 20%を総合して評価を行う。小レポートは毎回行われる。
教科書	「PT・OTのための臨床心理学テキスト（改訂）」小野寺哲夫 JFA パブリッシング
参考書	「ロジャーズ クライアント中心療法」佐治守夫ほか 有斐閣新書 「はじめてまなぶ行動療法」三田村仰 金剛出版 「伊藤絵美の認知行動療法入門講義 上・下」伊藤絵美 公益財団法人 矯正協会 「解決のための面接技法 第4版」ピーター・ディヤング&インスー・キム・バーグ 金剛出版 「森田療法を学ぶ 最新技法と治療の進め方」北西憲二 金剛出版
履修上の注意	毎回、授業の最後に「小レポート」を実施する。また、自己分析や自己理解を促すための心理テスト等を、できる限り多く実施していく予定である。
オフィスアワー	金曜（12:10～12:50） 研究室 4-8

科目名	精神医学		担当教員	佐々 毅	
実務経験	精神科病院および精神科クリニックで各 10 年以上の実務経験から、基本的な診断と治療に加え、「生活者」として患者を支える視点を持つことを方針とする。また、職域や災害メンタルヘルスにかかわった経験から、メンタルヘルスの問題はいつ、だれにでも生じるものであることを卒業後も念頭に置いて行動できる人材育成を行う。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	精神医学における面接の仕方、症候学、各種疾患を理解することで精神障害の有無や程度を把握し、適切な治療につなげられる知識や技術を学ぶ。精神障害者の処遇の歴史を学習することで、偏見を取り除き、共生社会の一員として活躍できる学生をはぐくむ。また、アスリートの身体疾患に伴うメンタル不調、精神障害者がスポーツを通じ社会参加を図るスポーツ精神医学を学ぶ。
到達目標	①精神科的面接法の内容を理解し、それに従って面接を実施できる。 ②精神科症候学に基づき精神症状を測定でき、各種疾患を鑑別できる。 ③精神障害の特性を理解し配慮できる。 ④身近な場面で起きるメンタルヘルスの問題へのプライマリーケアができる。

No.	テーマ		内容
1	精神医学総論	授業内容	精神の異常・正常とは、精神科の治療とは何かを学び、精神医学の領域を理解する。
		予習	予習の必要はありません。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	精神科面接法・診断学	授業内容	精神科の面接法、症候の見方について学ぶ。
		予習	テキスト1を読んでおくこと（必須）。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	統合失調症	授業内容	統合失調症の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	うつ病・双極性障害①	授業内容	うつ病・双極性障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	うつ病・双極性障害②	授業内容	認知行動療法を理解し、実践する（ワークショップ）。
		予習	テキスト2を見ておくこと（必須）
		復習	ワークショップで行った内容を実践する。
6	神経症性障害及び不眠症	授業内容	パニック障害・強迫性障害等の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

7	発達障害	授業内容	発達障害や知的障害、児童青年期の精神障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	薬物関連障害	授業内容	薬物関連障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
9	摂食障害	授業内容	摂食障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
10	認知症	授業内容	認知症の疫学、病態、予後、治療、対応について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
11	器質性精神障害	授業内容	身体疾患に伴う精神障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
12	法と精神医学	授業内容	精神疾患の治療に必要な法律、及び法を通じた精神障害者処遇の歴史を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
13	集団や状況による精神医学的問題	授業内容	職場等の集団や災害場面におけるメンタルヘルスの問題とその対処を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
14	スポーツ精神医学	授業内容	アスリートの精神障害、精神障害者スポーツの有用性を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
15	まとめ	授業内容	あらためて精神障がいとは何かを考える（ワークショップ）。
		予習	予習の必要はありません。
		復習	個人として、職業人として精神障がい者にどう相對するか、社会における精神障がい者の処遇から見たおよびダイバーシティについて考えてください。

評価法基準	講義内で教える基本的知識の評価（定期試験）60% ワークショップで得た課題の抽出と解決のプロセスを論理的思考で展開できるかの評価（レポート）40%
教科書	「新訂 方法としての面接」土居健郎 医学書院 1992年
参考書	こころのスキルアップ・トレーニング https://www.cbtjp.net/
履修上の注意	具体的な予習項目は各授業の最後に提示します。復習については各授業の最初に振り返りを行います。授業内で得た個人情報は他者に話さないようにお願いします。
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT の授業 Q&A で受け付ける E-mail : saspsyc@fa2.so-net.ne.jp

科目名	整形外科学		担当教員	松井 彩乃、三島 初、 半谷 美夏、原 友紀、西田雄亮	
実務経験	担当者5名はいずれも整形外科専門医で現在も所属先医療機関等で外来診療、手術など臨床を担っている。それぞれが整形外科の中でも関節診、脊椎診など専門性の高い領域のエキスパートであり、実臨床を踏まえた上で理学療法士に必要な知識を提供するに最適な講師陣である。				
学科	理学療法学科，作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	本科目では、整形外科領域における外傷学等の総論と各身体部位等による各論により、理学療法の対象となりやすい運動器疾患の診断治療の概要を学ぶ。またロコモティブ・シンドロームの概念について学ぶ。診断学については各種検査の見方、考え方や観血的治療、保存治療などの治療方法について理解を深める。
到達目標	理学療法士が遭遇しやすい運動器疾患について疾患概念，診断，治療，リハビリテーションの一連の流れについて説明ができる。

No.	テーマ		内容
1	筋骨格系感染症と対応	授業内容	筋骨格系の感染症の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
2	頸椎・腰椎障害と対応	授業内容	脊椎の構造と機能，脊椎疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
3	運動器の構造と機能	授業内容	骨，関節，神経，筋，腱，靭帯等の運動器の基本構造を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
4	関節障害と対応	授業内容	関節の障害の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
5	骨折・脱臼・捻挫の特性と対応	授業内容	骨折，脱臼，捻挫の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
6	救急・外傷処置の特性と対応	授業内容	救急・外傷処置の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める
7	下肢障害の特性と対応	授業内容	下肢の構造と機能，下肢疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み，疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し，解説を読んで理解を深める

8	下肢外傷と対応	授業内容	下肢の外傷と対応の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
9	四肢循環障害と対応	授業内容	四肢の循環障害の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
10	神経・筋疾患と対応	授業内容	神経疾患、筋疾患の整形外科的対応の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
11	脊椎・脊髄損傷と対応	授業内容	脊椎損傷、脊髄損傷の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
12	上肢障害の特性と対応	授業内容	上肢の構造と機能、上肢疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
13	上肢外傷と対応	授業内容	上肢の外傷と対応の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
14	まとめ	授業内容	整形外科疾患の概略について復習する
		予習	教科書全体で学んだ点、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題全般を復習する
15	筋骨格系腫瘍と対応	授業内容	筋骨格系の腫瘍の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める

評価法基準	定期試験 100%
教科書	「新版 筋骨格障害学—理学療法学科・作業療法学科の整形外科学」 和田野安良監修、六崎裕高著 理工図書 メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ
参考書	なし
履修上の注意	履修順序がシラバス及び教科書の順番と異なるため、日程をよく確認しておくこと。(順番は初日にガイダンスを行う。) 章末問題をまんべんなく回答できるよう熟読すること。中途半端な知識で臨床に臨むと、患者の状態を悪化させる。臨床上即戦力となれるよう真摯に学んでほしい。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	神経内科学	担当教員	草野 修輔		
実務経験	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床において神経内科疾患に関するリハビリテーション医療を行ってきた。また大学において、理学療法学科の学生に神経内科の講義も行ってきた。その経験を活かし、解剖・生理に関する理解はもちろん、臨床におけるリハビリテーションでも活用できるよう各種神経疾患についてわかりやすく講義する				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	リハビリテーション医療の対象疾患としては、脳卒中、変性性疾患、感染性疾患、腫瘍性疾患など、多くの神経系疾患があるため、リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の疾患の知識だけでなく、解剖学的基礎知識、画像診断学、診療技術について理解を深める
到達目標	①神経疾患の理解の基礎となる神経系解剖と働きについて説明できる ②神経疾患の診断に必要な画像診断について、その働きと実際の画像診断について説明できる ③各種神経疾患について、病態、症状、診断法、治療法などについて説明できる ④神経疾患の診断、障害の評価などについての診療技術を習得できる

No.	テーマ		内容
1	神経解剖	授業内容	神経系のマクロ解剖学、ミクロ解剖学
		予習	神経系統の解剖について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	神経診断学 その①	授業内容	脳神経系、自律神経系の働き、反射
		予習	各種神経機能について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	神経診断学 その②	授業内容	運動機能・感覚機能と運動障害・感覚障害
		予習	運動機能・感覚機能とその障害について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	神経診断学 その③	授業内容	各種高次脳機能とその障害
		予習	各種高次脳機能について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
5	神経診断学 その④	授業内容	画像診断学、電気生理学的診断法
		予習	各種画像検査機器・電気生理学的機器について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
6	脳血管疾患 その①	授業内容	分類、診断、評価法
		予習	脳血管疾患の分類、診断などについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
7	脳血管疾患 その②	授業内容	脳血管疾患に伴う各種障害評価と急性期リハビリテーション
		予習	脳血管疾患に伴う各種障害やリハビリテーションについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

8	感染症 腫瘍性疾患	授業内容	神経系の感染症、神経系の腫瘍性疾患
		予習	神経系の感染症・腫瘍性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
9	変性性疾患	授業内容	パーキンソン病、その他の神経変性性疾患
		予習	各種変性性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
10	脱髄性疾患 ニューロパ チー	授業内容	多発性硬化症、視神経脊髄炎、各種末梢神経疾患など
		予習	脱髄性疾患、ニューロパチーについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
11	ミオパチー	授業内容	筋ジストロフィー、多発性筋炎など
		予習	各種ミオパチーについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
12	運動ニュー ロン疾患	授業内容	筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症など
		予習	各種運動ニューロン疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
13	機能性疾患	授業内容	てんかん、頭痛、めまい、ナルコレプシーなど
		予習	各種機能性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
14	先天性疾患	授業内容	進行性筋ジストロフィー、脳性麻痺、二分脊椎など
		予習	進行性筋ジストロフィー、脳性麻痺、二分脊椎について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
15	認知症	授業内容	認知症の分類、診断、症状、予防
		予習	認知機能障害、認知症について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

評価法基準	定期試験 90%、授業内小テスト 10% 基準：定期試験をメインの評価基準とするが、各講義後の小テストについても、講義のまとめをかねて、評価する。
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意	神経疾患については、その理解の基礎となる神経系の解剖と生理、画像診断などが重要である。さらにリハビリテーション医療に生かすためには、神経疾患から生ずる障害に対する理解も重要である。このため、単に神経疾患の理解だけではなく、障害の理解とそれをどのようにリハビリテーション医療に生かしていけるかを絶えず考えながら講義、実習に臨むこと。
オフィスアワー	

科目名	小児科学		担当教員	江添 隆範	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>小児科が対象とする 0 歳から 16 歳までを中心とした年齢期に発症等による疾患疾病の発現機序等の診断（検査含む）等の総論と感染、代謝、神経・筋等の疾患疾病の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。</p> <p>内容としては、診断学のうち各種検査の結果の考え方（X 線、CT や MRI、その他の発達学的諸検査を含む）や投薬等の治療方法について理解する。</p> <p>なお、新生児期に関連する周産期や胎児期からの染色体異常等、また年齢に因らず治療を必要とする場合の青年期や成人期等の対象についても、可能な限り取り扱う。</p>
到達目標	<p>① 小児の特性を理解する（発達、発育、成熟）</p> <p>② 小児の診方、小児の診療（検査や治療）</p> <p>③ 小児特有の検査</p>

No.	テーマ		内容
1	小児の特性 発達	授業内容	胎児期から始まる小児の発育、発達 反射の変化
		予習	小児発達に関する知識に触れておく
		復習	授業内容のまとめ
2	小児の発達 小児保健 小児科診療	授業内容	小児の発達・成長 ワクチンなどの社会保健 小児診断、検査、治療
		予習	前回の講義のまとめ
		復習	授業内容のまとめ
3	新生児学	授業内容	新生児の特性、新生児疾患（早産、仮死、呼吸障害など）
		予習	可能であれば、自分の母子手帳を見る
		復習	授業内容のまとめ
4	臨床遺伝学	授業内容	遺伝に関する知識 遺伝性疾患の特徴 染色体異常
		予習	基礎医学で遺伝に関する知識を確認
		復習	授業のまとめ
5	神経・筋疾 患	授業内容	5, 6 にわたり先天性脳奇形、脳炎・脳症 てんかん 筋疾患 発達障害を解説
		予習	発達の復習 既に習っていれば筋疾患（筋ジストロフィーなど）の復習
		復習	授業内容のまとめ
6	神経・筋疾 患	授業内容	5 回と同じ
		予習	発達の復習 既に習っていれば筋疾患（筋ジストロフィーなど）の復習
		復習	授業内容のまとめ
7	神経・筋疾 患	授業内容	発達障害に関する講義（自閉スペクトラム症 ADHD など）
		予習	診断の定義を調べておく（DSM-5 など）
		復習	授業内容のまとめ

8	小児循環器疾患	授業内容	先天性心疾患 川崎病
		予習	心臓の解剖、生理の知識の確認
		復習	授業内容のまとめ
9	感染症	授業内容	小児に多い感染症 ワクチンで予防できる感染症
		予習	ワクチンの知識の復習
		復習	授業内容の、まとめ
10	消化器疾患	授業内容	先天性消化器疾患や小児で注意が必要な消化器疾患
		予習	消化器や肝臓の解剖、生理学の復習
		復習	授業内容のまとめ
11	内分泌・代謝	授業内容	小児のホルモン異常疾患（成長ホルモン異常、甲状腺ホルモン異常）糖尿病
		予習	ホルモンの生理学
		復習	授業内容のまとめ
12	血液腫瘍疾患	授業内容	小児の血液疾患（白血病、貧血、止血異常） 腫瘍性疾患
		予習	血液細胞の確認
		復習	授業のまとめ
13	アレルギー膠原病	授業内容	小児アレルギー疾患（喘息、アトピー性皮膚炎） 若年性関節リウマチ
		予習	アレルギー関連の生理、免疫学
		復習	授業のまとめ
14	腎疾患心身症	授業内容	小児腎疾患（腎炎、ネフローゼ等） 心身症
		予習	腎臓の解剖や生理
		復習	授業のまとめ
15	重症心身障害 小児科まとめ	授業内容	重症心身障害とは 医ケア児とは 身体的特性や治療
		予習	神経疾患の確認 これまでの講義の資料の確認
		復習	授業内容のまとめ

評価法基準	評価法：定期試験
教科書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 医学書院
参考書	講義で関連学会のホームページ等を紹介いたします。また講義資料に教科書の補足情報をお話します。
履修上の注意	可能な限り講義時間内に理解し、講義を最大限に活かして下さい。 講義の進行は、内容により若干のずれが生じる可能性があります。
オフィスアワー	授業の前後で受付ける

科目名	内科学		担当教員	佐久間 肇	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	リハビリテーション医学は、当初、肢体不自由を中心に発展してきたが、今やリハビリテーションの対象は肢体不自由にとどまらず、視覚障害、聴覚障害、嚥下・言語機能障害、高次脳機能障害、さらには内部障害、がんなどにも広がっている。内科学では、内部障害の原因となる内科疾患やがん、他の障害にも合併することが多い内科疾患について、作業療法士として必須の知識を習得する。
到達目標	内科疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、血液疾患、腎臓疾患、膠原病）について以下を目標にする。 ① 疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 ② 代表的な疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 ③ 代表的な疾患の治療と予後について概説できる。

No.	テーマ		内容
1	総論 1	授業内容	診察の流れ、身体診察法、疾病の要因、障害に対する細胞の反応
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
2	総論 2	授業内容	内科疾患の症候（発熱、動悸、咳・痰、呼吸困難、胸痛と腹痛、浮腫など）
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
3	総論 3	授業内容	尿・便・血液、生理機能検査、画像検査
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
4	循環器 1	授業内容	虚血性心疾患、不整脈
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
5	循環器 2	授業内容	心不全、弁膜症、心筋・心膜疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
6	循環器 3	授業内容	高血圧、脈管疾患、先天性心疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
7	呼吸器 1	授業内容	慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍、胸膜疾患など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること

8	呼吸器 2	授業内容	肺感染症、間質性肺炎、ARDS、肺血栓塞栓症など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
9	消化器 1	授業内容	消化管疾患（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸疾患）
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
10	消化器 2	授業内容	肝臓・胆道系・すい臓疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
11	内分泌・代謝	授業内容	下垂体、副腎疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、糖尿病など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
12	血液	授業内容	貧血、多血症、血小板異常・凝固系異常、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
13	腎臓	授業内容	腎不全、CKD、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
14	膠原病 1	授業内容	SLE、SSc、多発性筋炎/皮膚筋炎、MCTD
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
15	膠原病 2	授業内容	RA、SJS、ベーチェット病、結節性多発血管炎
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること

評価法基準	期末試験を基本（100%）にして、授業内レポート成績を加味して総合的に判定する。
教科書	なし
参考書	病気がみえる（シリーズ）、メディックメディア
履修上の注意	なし
オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付ける

科目名	老年医学		担当教員	佐久間 肇	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>老年医学が対象とする加齢に伴う機能的変化を主変とする疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と内科疾患を中心とするほか、認知症を含めた診断と治療の各論について、またフレイルなど健康寿命の延伸の阻害要因なども、講義を通じて学ぶ。</p> <p>内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（認知機能評価、CT や MRI 等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。</p> <p>なお、がんに限らず、終末期や緩和ケアの考え方や見取り、健康寿命の延伸についても本科目で取り扱う。</p>
到達目標	<p>①加齢に伴う心身の変化について説明できる</p> <p>②老年期にみられる疾患の診断・治療について説明できる</p> <p>③高齢者をとりまく医療・介護の環境・制度について説明できる</p>

No.	テーマ		内容
1	老年医学とは、加齢と老化	授業内容	老年医学とは、加齢と老化
		予習	教科書 1～48 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
2	高齢者へのアプローチ	授業内容	高齢者へのアプローチ
		予習	教科書 51～96 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
3	老年症候群	授業内容	老年症候群
		予習	教科書 99～127 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
4	循環器疾患	授業内容	循環器疾患
		予習	教科書 128～146 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
5	呼吸器疾患	授業内容	呼吸器疾患
		予習	教科書 147～162 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
6	消化器疾患	授業内容	消化器疾患
		予習	教科書 163～175 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
7	神経疾患	授業内容	神経疾患
		予習	教科書 176～187 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと

8	認知症と精神疾患	授業内容	認知症と精神疾患
		予習	教科書 188～204 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
9	糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患	授業内容	糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患
		予習	教科書 205～246 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
10	骨粗鬆症と運動器疾患	授業内容	骨粗鬆症と運動器疾患
		予習	教科書 247～261 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
11	皮膚・口腔疾患、感染症	授業内容	皮膚・口腔疾患、感染症
		予習	教科書 262～282 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
12	耳鼻咽喉疾患、眼疾患	授業内容	耳鼻咽喉疾患、眼疾患
		予習	教科書 283～306 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
13	高齢者の外科治療	授業内容	高齢者の外科治療
		予習	教科書 307～312 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
14	高齢者を取りまく環境、人生の最終段階における医療	授業内容	高齢者を取りまく環境、人生の最終段階における医療
		予習	教科書 323～394 ページ
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと
15	老年医学の要点	授業内容	老年医学の要点
		予習	教科書 395～419 ページの問題を自分で解き、正誤を確認しておくこと
		復習	授業中に復習を指示した箇所と返却した小テストを再確認しておくこと

評価法基準	定期試験（筆記試験）44%、授業内小テスト 56%（4%×14回）
教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学 第5版, 医学書院,2020 (ISBN978-4-260-03947-5)
参考書	なし
履修上の注意	将来の臨床や国家試験でポイントになる部分を小テストに集約しています。小テストは教科書とノートの参照を許可しますが、他人とのやりとりを禁止します。定期試験も小テストの内容を改変したものから出題します。
オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付ける

科目名	救急救命の基礎		担当教員	陶山 哲夫、草野 修輔	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	災害や屋外の公衆の出入りする場所において生じた事故、又はそれらに準ずる事故などの原因にて傷病者となった方を、医療機関その他の場所へ緊急に搬送する必要がある場合、全身状態と局所状態を速やかに評価・判定して救命・救急および必要となる処置を行えるような教育を行うものである。
到達目標	災害や事故の発生に伴う局所反応および呼吸・循環・代謝・その他の機能の評価・判定を理解して、迅速な処置を行い、救急搬送に至る流れを理解し、実行できる能力を獲得することを目標とする。

No.	テーマ		内容
1	救命の連鎖 (1)	授業内容	救助者が守ること、状況の観察と傷病者の観察、傷病者の安静法と搬送法
		予習	受傷現場の状況、傷病者の状況の把握法
		復習	全身状態の評価と搬送
2	救命の連鎖 (2)	授業内容	状況の観察と傷病者の観察、傷病者の安静法と搬送法
		予習	傷病者の状況の把握
		復習	全身・局所状態の評価と搬送
3	急性中枢疾患と頭部外傷 (1)	授業内容	急性中枢性神経疾患および頭部外傷の病態、原因、救急処置について理解する。
		予習	急性中枢神経疾患および頭部外傷について神経内科授業内容を復習しておく。
		復習	中枢神経疾患および頭部外傷の緊急度、重症度の判断、救急処置
4	急性中枢疾患と頭部外傷 (2)	授業内容	脳神経のフィジカルアセスメントについて理解し、実施できるようにする。
		予習	脳神経の解剖・機能について神経内科授業資料を見ておく。
		復習	脳神経のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
5	呼吸困難・胸痛 (1)	授業内容	呼吸困難および胸痛の病態、原因、救急処置について理解する。
		予習	呼吸器・循環器疾患について内科学授業内容を復習しておく。
		復習	呼吸器・循環器疾患の緊急度、重症度の判断、救急処置
6	呼吸困難・胸痛 (2)	授業内容	呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメントについて理解、実施できるようにする。
		予習	呼吸器および循環器のフィジカルアセスメントについて内科学授業資料を見る。
		復習	胸部のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
7	急性腹症 (1)	授業内容	内臓痛と体性痛、急性腹症の病態と原因、救急処置について理解する。
		予習	消化器疾患について内科学授業内容を復習しておく。
		復習	急性腹症の原因と診断について
8	急性腹症 (2)	授業内容	腹部のフィジカルアセスメントについて理解し、実施できるようにする。
		予習	腹部のフィジカルアセスメントについて内科学授業資料を見ておく。
		復習	腹部のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
9	小児救急法 (1)	授業内容	小児の呼吸・循環・代謝の理解、および救急疾患と外傷
		予習	小児の特徴を知る
		復習	起こりやすい救急疾患と外傷の発生

10	小児救急法 (2)	授業内容	小児の救急疾患と外傷、搬送までの救急対処法
		予習	小児の特徴と輸液
		復習	救急搬送と脱水予防
11	高齢者の骨折 (1)	授業内容	高齢者の易骨折部と診断、および救急対処法
		予習	高齢者の骨折部の治療
		復習	全身状態と輸液法
12	高齢者の骨折 (2)	授業内容	高齢者の全身状態の把握と輸液法、骨折部の応急処置
		予習	高齢者の易骨折部位を知る
		復習	骨折の予防
13	熱傷・熱中 症・中毒	授業内容	熱傷の病態像と処置法、熱中症の予防と輸液法、農薬中毒・一酸化炭素中毒・金属中毒の病態と救急処置法
		予習	熱中症・熱傷・中毒の種類を知る
		復習	救急処置法を知る
14	心肺機能停 止状態 (1)	授業内容	心肺停止の病態と原因、蘇生処置に伴う循環動態の変化について理解する。
		予習	心肺停止に至る病態について調べておく。
		復習	心肺停止の病態と原因、診断
15	心肺機能停 止状態 (2)	授業内容	心肺停止状態に対する蘇生術(AED(自動体外式除細動器)使用を含む)の手順を理解し、実施できるようにする。
		予習	心肺蘇生術について調べておく
		復習	AED 使用を含む心肺蘇生術の手順

評価法基準	講義のテスト 80%, 授業後の提出課題 20%で評価する。
教科書	なし
参考書	福井大学医学部附属病院 総合診療部 教授 林 寛之、今井明秀 著、メディカ出版 「Dr. 林&今の外来でも病棟でもバリバリ役立つ！ 救急・急変対応」 介護と医療の研究会 河村雅明 監修 翔泳社 「介護現場で使える 急変時対応便利帖」
履修上の注意	全身状態の基本的な評価法(脈拍・血圧・意識状態など)を充分理解して実際に実行できるようにしておくこと。また急性期疾患・外傷や各種外傷を知っておくことがポイントである。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	薬理学	担当教員	草野 修輔		
実務経験	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医・内科医として、臨床において神経内科や一般内科的疾患に対して、適切な薬物治療を行ってきた。また大学および大学院において、リハビリテーション関連学科の学生に、リハビリテーション治療の一環として薬物治療に関連する講義も行ってきた。その経験を活かし、薬理学における、薬物の効果・臨床的応用・副作用などの他、各種疾患の治療に直結した治療薬の作用機序・臨床応用・副作用等についてわかりやすく講義する。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	薬剤の体内動態、薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。また、各種疾患治療薬の作用、副作用についても理解を深める。特に、作業療法士の実地臨床上、重要である神経・筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬、抗がん薬等について、その薬物療法の有用性と副作用について理解し、臨床に活かせるように学習する。
到達目標	①薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。 ②代表的な神経・筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬、抗がん薬などについて説明できる。

No.	テーマ		内容
1	薬理学総論	授業内容	薬理学総論
		予習	薬物の生体に対する作用や副作用などの基礎知識を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	神経疾患と薬物 (1)	授業内容	自律神経系・神経筋接合部疾患に対する薬物
		予習	自律神経系・神経筋接合部に作用する薬物について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	神経疾患と薬物 (2)	授業内容	てんかん・パーキンソン病・認知症・精神疾患など治療薬に対する薬物
		予習	てんかん・パーキンソン病・認知症・精神疾患などに作用する薬物について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	循環器疾患・血液疾患と薬物	授業内容	循環器系疾患・血液疾患に対する薬物
		予習	循環器系・血液疾患に作用する薬物について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	呼吸器疾患・消化器疾患と薬物	授業内容	呼吸器系疾患・消化器系疾患に対する薬物
		予習	呼吸器系・消化器系に作用する薬物について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	代謝・内分泌疾患と薬物	授業内容	代謝性疾患・内分泌系疾患に対する薬物
		予習	代謝系・内分泌系に作用する薬物について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと

7	感染症薬 炎症治療薬	授業内容	感染症・炎症・免疫疾患に対する薬物
		予習	感染症・炎症性疾患治療薬について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	免疫治療薬 抗がん薬	授業内容	免疫疾患・悪性腫瘍に対する薬物
		予習	免疫疾患治療薬・抗がん薬について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	<p>評価法：定期試験 90%、授業内小テスト 10%</p> <p>基準：定期試験をメインの評価基準とするが、各講義後の小テストについても、講義のまとめをかねて評価する。</p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意	<p>リハビリテーション医療を学ぶためには、神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の評価、治療のために、使用されている治療薬の作用・副作用などの薬理学的知識が必要である。特に、リハビリテーション医療上で重要である神経・筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬、抗がん薬等については十分に理解し、それをどのようにリハビリテーション医療に活かしていけるかを絶えず考えながら講義に臨むこと。</p>
オフィスアワー	

科目名	栄養学	担当教員	齋野 容子		
実務経験	管理栄養士免許取得後、急性期病院で17年間臨床栄養管理業務に従事。栄養サポートチームや摂食嚥下チームなどの一員として、多職種連携による栄養管理に携わる。慢性疾患を有する高齢者では、疾患治療と生活機能維持・改善の両方が重要であり、リハビリテーションと栄養管理のコラボレーションが欠かせない。将来リハビリテーション専門職となる本学生に多職種連携とリハビリテーション栄養の重要性について教育を行う。				
学科	作業療法学科	学年	1 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	生命維持に必要な栄養学について学ぶ。リハビリテーションが必要な対象者に対する栄養状態について注目し、対象者の身体機能・日常生活活動・社会参加・QOLを最大限高める栄養管理方法について学ぶ。医療機関で実際に実施されている食事療法や栄養指導方法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 健康な対象者に必要な栄養素について説明できる ② リハビリテーションが必要な対象者の栄養状態を理解することができる ③ リハビリテーションが必要な対象者の身体機能・日常生活活動・社会参加・QOLを最大限高める栄養管理方法について理解することができる ④ 多職種と対象者の機能回復や機能維持ができる栄養管理方法について議論ができる

No.	テーマ	内容	
1	栄養学について	授業内容	栄養学の基本について学ぶ
		予習	生命維持に必要な栄養素について調べておく
		復習	健康な対象者に必要な栄養素について説明できるよう講義内容を復習
2	栄養学について	授業内容	疾患別の栄養学について学ぶ
		予習	疾患と栄養素の関係について調べておく（例：糖尿病と食事）
		復習	疾患と栄養素摂取の関係について説明できるよう講義内容を復習
3	栄養評価方法について	授業内容	対象者別によって用いられる栄養評価法について学ぶ
		予習	実臨床で用いられる栄養評価法について調べておく
		復習	講義内容を復習
4	高齢者の栄養管理について	授業内容	高齢者の栄養管理上の問題点と方法について学ぶ
		予習	高齢者の栄養に関する問題点について調べておく
		復習	講義内容を復習
5	サルコペニア・フレイルについて	授業内容	身体機能との関連性が強いサルコペニア、フレイルについて学ぶ
		予習	サルコペニア、フレイルについて説明できるように調べておく
		復習	サルコペニア、フレイルのある対象者に対する栄養管理法について復習
6	リハビリテーション栄養について	授業内容	リハビリテーションが必要な対象者に対する栄養管理法について学ぶ
		予習	リハビリテーションが必要な対象者の栄養管理上の問題点について調べておく
		復習	リハビリテーションが必要な対象者の栄養管理上の問題点について説明できるよう講義内容を復習

7	リハビリテーション栄養について	授業内容	リハ栄養ケアプロセスについて学ぶ、模擬症例を用いて実際にリハ栄養ケアプロセスを実施する
		予習	リハ栄養ケアプロセスについて調べておく
		復習	リハ栄養ケアプロセスについて説明できるよう講義内容を復習
8	チーム医療について	授業内容	実際の急性期病院で行われている多職種連携について学ぶ
		予習	入院患者に関わる職種名と役割について調べておく
		復習	講義内容を復習

評価法基準	<p>期末課題レポート 50%、授業内課題レポート 50%</p> <p>基準：課題レポートは授業内容を踏まえ、専門職として自己に必要な知識・スキルの習得に関連した内容であるかを評価する。</p>
教科書	「リハベーシック 生化学・栄養学」内山靖、藤井浩美、立石雅子 医歯薬出版
参考書	<p>「リハビリテーション栄養ポケットマニュアル」日本リハビリテーション栄養学会 医歯薬出版</p> <p>「日本人の食事摂取基準 2020 版」(厚生労働省 HP よりダウンロード可)</p> <p>その他授業当日に資料配布</p>
履修上の注意	レポート提出日は厳守のこと
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	リハビリテーション医学		担当教員	草野 修輔	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	障害を治療対象とした医学として、リハビリテーション医学は発展してきた。リハビリテーション医学の概要、リハビリテーション医学に基づく診察・評価、障害の病態生理や治療などについて学修し、リハビリテーション医学の基本的理解を目指す。またその基本的理解に基づき、主要な疾患や障害に対するリハビリテーション医学的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① リハビリテーション医学の概要を理解する。 ② リハビリテーション医学に基づく診察・評価の基礎を学習する。 ③ 主な障害の病態生理について理解する。 ④ 主な障害の治療について理解する。 ⑤ 主要な疾患に対するリハビリテーション医学的知識を学習する。

No.	テーマ		内容
1	リハビリテーション医学総論	授業内容	リハビリテーション医学の概要
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	障害とその分類	授業内容	疾病・障害の概要と分類
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	脊髄疾患	授業内容	脊髄疾患の評価、脊髄疾患・障害とその治療・リハビリテーション
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	中枢神経系疾患	授業内容	中枢神経系疾患の症候とその検査・評価、治療とリハビリテーション
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	内部障害 (循環器・呼吸器系)	授業内容	循環器系・呼吸器系内部障害の評価、治療・リハビリテーションとリスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	内部障害 (代謝系他)	授業内容	代謝障害系内部障害の評価、治療とリハビリテーションとリスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	骨関節系疾患	授業内容	骨・関節系疾患の評価、治療とリハビリテーション、リスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

8	リハビリテーションに関する評価法	授業内容	チーム医療、ADL 他リハビリテーションの評価法
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	定期試験 70%、中間試験 30%
教科書	授業ごとに参考資料を配布する。
参考書	なし
履修上の注意	事前に指定された授業の予習をして該当課題の参考資料をよく読んでおくこと。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	リハビリテーション概論	担当教員	大塚 幸永		
実務経験	長年、医療機関に勤務して医療保険・介護保険事業の業務を行い、リハビリテーション部門の管理者として組織のマネージメントと人材の育成を行なってきました。 その経験を生かして、リハビリテーション概論では、作業療法にかかせない基礎的知識を伝えていきます。				
学科	作業療法学科	学年	1 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	リハビリテーションの歴史の変遷、WHO 他が提示したリハビリテーションの定義、ノーマライゼーション、リハビリテーションに関連する社会制度などについて学習する。また、障害の国際分類(ICIDH、ICF)、障害評価法、リハビリテーション治療アプローチ、チーム医療の意義と関連職種の種類や役割についても学習する。
到達目標	リハビリテーション理念・定義・障害の捉え方を理解し、作業療法に生かせるリハビリテーションの基礎的知識を身に付ける。

No.	テーマ		内容
1	概念、理念、定義	授業内容	オリエンテーション・リハビリテーションの概念・理念・定義、障害の概念と分類
		予習	テキスト第 1 章、第 2 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
2	心理と発達	授業内容	障害の心理的・社会的視点、人の発達とリハビリテーション
		予習	テキスト第 3 章、第 4 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
3	過程と評価	授業内容	リハビリテーションの過程と評価について
		予習	テキスト第 5 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
4	リハビリの諸段階	授業内容	リハビリテーションの諸段階
		予習	テキスト第 6 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
5	関連職種、チーム医療	授業内容	リハビリテーション関連職種とその役割、チームアプローチ
		予習	テキスト第 7 章、第 8 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
6	ADL,QOL の概念、地域リハ	授業内容	ADL、QOL の概念、地域リハビリテーション
		予習	テキスト第 9 章、第 10 章、第 11 章および関連事項の予習
		復習	講義内容についてまとめる
7	高齢化対策、制度や法律	授業内容	医療福祉制度、関係法規
		予習	テキスト第 13 章、第 14 章および関連事項の予習する
		復習	講義内容についてまとめる

8	高齢化への支援	授業内容	高齢化と認知症について理解する（認知症サポーター講座含む）
		予習	テキスト第12章および関連事項の予習する
		復習	講義内容についてまとめる

評価法基準	期末試験 70%、授業内小テスト 30%
教科書	「医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版」 上好昭孝、田島文博編 永井書店
参考書	なし
履修上の注意	リハビリテーション概論は、作業療法にかかせない基礎的知識を身に付ける科目であり、今後の学修に必要なリハビリテーションに関わる幅広い知識を学ぶ科目です。その内容を十分に理解し、知識を身に付けられるよう努力することを求めます。 この授業の中で、認知症サポーターの講座を開催しますが、日程が変更になる場合があります。
オフィスアワー	火曜（12:10～13:00） 3-13 研究室

科目名	公衆衛生学		担当教員	佐久間 肇	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	公衆衛生学・予防医学の概念と方法を理解し、また現状の問題点を把握する。そして、さらに将来、医療人として公衆衛生の向上、予防医学活動を実践できるようにするために必要な知識と国家試験に対応するための十分な知識を身につける。授業内容には我が国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生などの衛生学の基礎知識に関する内容も含み、また環境と生活の健康の視点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 用語の定義を正確に述べることができる。 2) 発生原因を列挙できる。 3) 機序や病態を説明できる。 4) 管理の実際について具体的に説明できる。 5) 予防法を具体的に述べることができる。 6) 関連する法規を列挙し、その内容を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	公衆衛生学 序論	授業内容	公衆衛生学の考え方と目的、主な健康指標の定義と意味、生活と健康の関連、公衆衛生活動の基本と分類、生命倫理と保健医療福祉の倫理について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
2	地域保健と 衛生行政	授業内容	地域保健・地域医療と医療従事者の役割、地域保健活動と行政の役割、地域における保健・医療・福祉活動の連携について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
3	産業保健	授業内容	産業疲労の原因と検査法、産業疲労に起因する疾病と予防法、産業災害の現状、産業災害の予防対策について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
4	食品保健	授業内容	食品衛生学の定義、食品の安全性確保と安全基準、食品・栄養に起因する疾病の成因と病態について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
5	高齢者保 健、医療制 度	授業内容	老人の生活と健康の現状と問題点、老人保健法の役割、介護保険制度の現状と問題点、老人福祉対策の現状と問題点、医療保険制度の現状と問題点について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。

6	母子保健	授業内容	母子保健指標の定義と意味、母子保健の現状と動向、母子保健指標からわかる現状の問題点、母子保健活動における行政の役割と母子保健対策について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
7	学校保健	授業内容	学齢期児童の健康状況、学校保健の組織と運営、学校保健管理、保健教育・保健指導の現状について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
8	環境保健	授業内容	大気汚染の原因と発生源、大気汚染物質とその健康影響、大気汚染対策、上・下水道の種類と普及状況、浄水法と下水処理法、水質汚濁の現状と対策、水質汚濁により発生した公害事件について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。

評価法基準	定期試験期間に行う筆記試験により評価する（100%）。
教科書・参考書	わかりやすい公衆衛生学（三共出版）、国民衛生の動向（最新版）（厚生労働統計協会）
参考書	なし
履修上の注意	予習・復習を欠かさずに行ってください。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	地域福祉論		担当教員	菊地 みほ	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	地域福祉の基本的な構成要素、コミュニティ論、地域福祉の歴史的展開、地域福祉を推進する様々な組織・機関について学ぶ。古代から現代までの地域福祉について概観することで、わが国の地域福祉の課題を政治・経済・文化の歴史的展開という視点から理解する。地域福祉を推進する様々な機関や人材について学び、現在の地域福祉の課題について考える。また受講生の地域福祉への関心を高めるため、NPO 法人設立（模擬）の事例研究を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 「地域」「コミュニティ」とは何かについて、説明することができる。 ② 地域福祉の歴史的展開と現代との関係性について、説明することができる。 ③ 自分なりの視点で現在の地域福祉の課題について論じることができる。 ④ ワークショップを通じて NPO 法人への理解を深め、設立方法について説明することができる。

No.	テーマ		内容
1	地域福祉と コミュニティ論	授業内容	講義概要、履修上の留意点、地域福祉コミュニティ論
		予習	「地域」「福祉」「コミュニティ」についてまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	地域福祉の 歴史（古代 ～中世）	授業内容	古代～中世における地域福祉の歴史的展開
		予習	「奈良時代の鰥寡条」「鎌倉時代の一遍聖絵」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	地域福祉の 歴史（近代 ～現代）	授業内容	近代～現代における地域福祉の歴史的展開
		予習	「江戸時代における救貧制度」「地域包括支援センター」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	地域福祉の 課題（行 政・民間）	授業内容	地域福祉行政の現状と課題、社会福祉法人、社会福祉協議会の現状と課題
		予習	「福祉行政の問題点」「社会福祉協議会」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	地域福祉の 課題 (その他)	授業内容	共同募金、民生委員の現状と課題、NPO、NGO の現状と課題、
		予習	「民生委員」「NPO と NGO の違い」について調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	NPO と NGO	授業内容	NPO 法人設立事例研究（演習）
		予習	NPO20 活動分野について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	発表と評価	授業内容	NPO 法人設立事例研究（演習）
		予習	発表の準備を行うこと。
		復習	各発表と総評から得られたことをまとめておくこと。

8	総まとめ	授業内容	全ての授業を通した振り返りとまとめ
		予習	これまでの授業のまとめを読み直しておくこと。
		復習	授業内容をまとめ、試験に向けて整理すること。

評価法基準	期末レポート 100%
教科書	なし。講義については毎回レジメと資料を配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	グループワークに関して、主体的・積極的に参加すること。
オフィスアワー	木曜（12:10～12:50）、6・8 研究室

科目名	地域共生のための連携活動Ⅰ	担当教員	熊本 圭吾、齋藤 久恵		
実務経験	(齋藤) 大学病院の精神科医局に所属して、様々な精神疾患を抱える若年層の方々の急性期の作業療法に従事し、退院促進支援、復学・復職・就労支援なども多職種と連携しながら実践、経験してきました。その後、精神科病院のデイケア立ち上げ、メンタルクリニックにおいて就労支援事業所の立ち上げに携わり、現在はクリニックのデイケア、その併設の就労支援事業所に勤務し、成人の発達障害・精神障害者に対するの地域生活支援、就労支援を実施しています。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	2025 年の地域包括ケアシステム構築のために、各自治体は、様々な取り組みを試行している。その人が住み慣れた地域でその人らしい生活を送るといった、保健医療等の生活支援にかかわる諸サービス・諸活動を一体的かつ有機的・効果的に展開していくためには、当事者である本人とその家族を中心として関連する専門職間の連携・協働と地域住民のネットワーキングが不可欠なものとなる。この講義では特に、本人とその家族が生活するための地域社会における専門職の役割、地域住民の主体的参加、関連専門職の連携・協働と地域住民との相互的関係づくりを通して、いかにしたら地域共生の実現に向けての礎ができていくのか、多面的かつ具体的・実践的に学ぶことを目標とする。
到達目標	<p>一般目標 (GIO)</p> <p>地域共生、関連専門職の連携を理解し、作業療法士として何をすべきか説明ができる</p> <p>行動目標 (SBO)</p> <p>①地域包括ケアシステムの概要を理解し、説明できる</p> <p>②地域における関連する各専門職の役割を説明できる</p> <p>③当事者である本人とその家族を中心とした連携・協働について概要を理解し、説明できる</p> <p>④リハビリテーション専門職に求められる知識・技能を説明できる</p>

No.	テーマ		内容
1	地域共生社会の理念の実現	授業内容	地域共生社会の理念を明確化し、地域包括ケアシステムの意味と意義を把握する。
		予習	地域包括ケアシステムの概要をネット及び関連文献で調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
2	地域包括ケアシステムについて	授業内容	地域包括ケアシステムの法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	地域医療介護確保法、介護保険法、地域保健法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
3	高齢者支援のための連携・協働①	授業内容	地域における高齢者支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	高齢者支援の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。

4	高齢者支援 のための連 携・協働②	授業内容	要介護高齢者の支援事例を通して関連専門職の役割を明確にする。
		予習	精神科病院の概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
5	高齢者の支 援事例研究 ①	授業内容	要介護高齢者・認知症高齢者の支援事例を通して関連専門職の役割を明確にする。
		予習	高齢者支援施設・精神科病院の概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
6	障害者支援 のための連 携・協働	授業内容	地域における障害者支援・ケアの法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
7	障害者の支 援事例研究 ①	授業内容	身体障害者の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	身体障害者更生相談所の概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
8	障害者の支 援事例研究 ②	授業内容	精神障害者の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	保健所の概要、地域活動支援センターの概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
9	児童・家庭 支援のため の連携・協 働	授業内容	地域における児童・家庭支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
10	児童・家庭 支援の事例 研究①	授業内容	心身障害児の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	関連行政機関（福祉事務所、保健所、児童相談所）の連携・協働について調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
11	児童・家庭 支援の事例 研究②	授業内容	児童虐待事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	児童相談所、児童家庭支援センターの概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
12	貧困者支援 のための連 携・協働	授業内容	貧困者支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	生活保護法、ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
13	貧困者支援 の事例研究	授業内容	ホームレス支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	福祉事務所、社会福祉協議会の役割と機能について調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
14	リハビリテ ーション専 門職の役割	授業内容	地域共生社会における当事者とその家族、リハビリテーション専門職の役割を理解する。
		予習	リハビリテーション専門職の地域展開支援事例を調べておく。
		復習	前回までの講義を振り返り、リハビリテーション専門職にできること（可能性を含む）をリストアップしておく。

15	作業療法士の役割	授業内容	地域共生社会における当事者とその家族、作業療法士の役割を理解する。
		予習	作業療法士の地域展開支援事例を調べておく。
		復習	15回の講義を振り返り、作業療法士にできること（可能性を含む）をリストアップしておく。
評価法基準	評価方法：学期末レポート、リアクションペーパーの内容と提出回数 (成績評価比率：学期末レポート70%、リアクションペーパー30%)		
教科書	資料配布		
参考書	医療福祉をつなぐ関連職種連携 南江堂 よくわかる地域包括ケア ミネルヴァ書房		
履修上の注意	事例研究の際は、グループ討論、プレゼンテーション、ロールプレイ等を織り交ぜながら、教員と学生の相互主体的学習方法を展開することもある。 毎回の復習時に、講義内容のポイントを自分なりの言葉で整理しまとめておくこと。		
オフィスアワー	授業開講日の昼休み（12:10～12:50）		

科目名	地域共生のための連携活動Ⅱ		担当教員	里村 恵子、大塚 幸永、齋藤 久恵	
学科	作業療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>地域共生社会の創造や地域包括ケアシステムの構築に当たっては、それぞれの地域の特性に応じた職種間の連携・協働、また、対象者とその家族とのつながりが重要である。</p> <p>この科目では、「チームワーク概論」で修得した基礎的な知識、「地域共生のための連携活動Ⅰ」による課題への解決能力を基盤として、学科を横断した小グループで地域実習での経験を検討することを通じて保健医療の現状やニーズの把握や抽出の方法等について学ぶ。</p> <p>グループワークの結果については、発表のためのプレゼンテーションを行うために内容を整理すると共に、他の症例や事例を共有することで広く実践に資する関連職種との連携や協働、対象者とその家族とのつながりをもつ能力を養う。</p>
到達目標	<p>① 地域住民や地域で実践を行うさまざまな人々と連携協働するための基礎力を養成する。</p> <p>② 地域での保健医療に関する現状やニーズの把握、課題抽出ができるようになる。</p> <p>③ 地域における保健医療分野に対して自らの専門性を活かした包括的支援体制について考察できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	当該科目で学ぶ内容、授業の進め方、学生に期待する点等についてのオリエンテーション、評価の方法等のガイダンス、グループ（チーム）編成。
		予習	なし
		復習	「チームワーク概論」や「地域共生のために連携活動Ⅰ」の資料等を読み返してくる。
2	連携における課題の明確化 その①	授業内容	チームビルディング、連携における課題の明確化
		予習	なし
		復習	チームへの参加等に関するリフレクションを行ってくる。
3	連携における課題の明確化 その②	授業内容	連携における課題の明確化とその発表
		予習	発表できるように準備してくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
4	コミュニティワーク（課題研究）	授業内容	地域実習施設本学周辺の地域での保健医療の現状やニーズ把握や課題の抽出方法について学び、グループごとに取り組む課題を決定する。
		予習	地域実習施設について調べてくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。

5	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
6	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
7	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
8	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	中間報告、スーパービジョン
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	スーパービジョンを受けて、自分自身とチームの課題についてリフレクションし、レポートを作成する。
9	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
10	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
11	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
12	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
13	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	発表、総括
		予習	前回までの取り組みを振り返り、必要な資料などを読んでくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
14	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	発表、総括
		予習	前回までの取り組みを振り返り、必要な資料などを読んでくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。

15	コミュニ ィワーク (課題研 究)/振り 返り	授業内容	授業の振り返り
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	レポートを作成し、期日までに提出する。

評価法基準	レポート：60%、口頭発表：40%
教科書	1) 大嶋伸雄『ラーニングシリーズ IP 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践 ③はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP 入門』(協同医書出版社、2018年) 2) 埼玉県立大学『IPWを学ぶ—利用者中心の保健医療福祉連携』(中央法規出版、2009年)
参考書	なし
履修上の注意	この科目は、チームを形成し行動する力や専門性・志向を柔軟に発揮する力、自己とチームでリフレクションをする力を醸成することを、演習を通じて行います。自らの言葉で発言、考察し、チームとして行動する積極的な態度が求められます。
オフィスアワー	水曜日 12時10分より13時 (里村) 火曜日 12時10分より13時 (大塚) 木曜日 12時10分より13時 (齋藤)

科目名	作業療法学概論		担当教員	佐藤 章	
実務経験	身体障害領域のリハビリテーションセンター、デイサービス、障害者更生相談センター等に勤務してきました。これらの勤務で経験した作業療法の対象疾患・病気の経過の時期（病期）等の変化、これらに伴い変化する作業療法の流れ、作業療法士の役割、作業の捉え方、関わる職種等に触れ、これらに影響を及ぼしていると考えられる医療技術・制度、社会的変化等との関係性を学生と共に考え、今後の作業療法（士）の役割等について、学生と共に考察していく授業を展開する予定です。				
学科	作業療学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法における「作業」を多角的に捉えることが出来るように、リハビリテーション及び作業療法の歴史や現在の作業療法を取り巻く社会状況のほか、作業療法の基本的な理論・考え方並びに一連の実践過程（流れ）について、講義を通じて学ぶ。特に、作業療法にとって重要な「作業分析」の理論・考え方を通して、「作業」の意味づけや作業療法として「作業」が治療・アプローチにつながることや作業療法を行なう上で必要な職業倫理などを学び、作業療法士としての資質向上について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① リハビリテーション及び作業療法の歴史の要点を説明できる ② 医学的リハビリテーションの流れと関係職種の役割の要点を説明できる ③ 作業療法の実践過程（流れ）の要点を説明できる ④ 作業療法における「作業」の意味と治療的活用の要点を説明できる ⑤ 作業療法に関連する法規と倫理の要点を説明できる

No.	テーマ		内容
1	リハビリテーションの歴史	授業内容	欧米等におけるリハビリテーションの歴史と4領域について学ぶ
		予習	主にアメリカのリハビリテーションの歴史の概観を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
2	作業療法の歴史(1)	授業内容	欧米及び日本における作業療法の歴史について学ぶ
		予習	欧米及び日本の作業療法の歴史の概略を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
3	作業療法の歴史(2)	授業内容	日本における作業療法の歴史について学ぶ
		予習	日本における作業療法の歴史の概略を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
4	作業療法の定義と「作業」の意味	授業内容	作業療法の定義と「作業」の意味について学ぶ
		予習	作業療法の定義と「作業」の意味の概略を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
5	医学的リハビリテーションの過程	授業内容	医学的リハビリテーションの過程と関連職種の役割について理解する
		予習	医学的リハビリテーションの過程と関連職種の役割を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと

6	作業療法と ICF	授業内容	作業療法の基本的考え方と ICF（国際生活機能分類）との関係性を理解する
		予習	ICFの基本的考え方とその特徴について調べておくこと
		復習	作業療法と ICFとの共通的事項を整理しまとめておくこと
7	作業療法の過程（1）	授業内容	作業療法の過程で行われる情報収集、面接、評価の方法と内容を学ぶ
		予習	作業療法の上記過程に含まれる内容や事項を調べ整理しておくこと
		復習	作業療法の上記過程について留意点を含めて整理しまとめておくこと
8	作業療法の過程（2）	授業内容	作業療法の過程で行われる計画、実施、再評価、帰結の方法と内容を学ぶ
		予習	作業療法の上記過程に含まれる内容や事項を調べ整理しておくこと
		復習	作業療法の上記過程について留意点を含めて整理しまとめておくこと
9	作業療法の対象（1）	授業内容	身体障害及び精神障害の作業療法の基本的事項について学ぶ
		予習	身体障害及び精神障害の作業療法の基本的事項を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
10	作業療法の対象（2）	授業内容	発達障害及び高次脳機能障害の作業療法の基本的事項について学ぶ
		予習	発達障害及び高次脳機能障害の作業療法の基本的事項を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
11	作業療法の対象（3）	授業内容	高齢期作業療法及び地域作業療法の基本的事項について学ぶ
		予習	高齢期作業療法及び地域作業療法の基本的事項を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
12	作業療法に関する理論（1）	授業内容	身体機能面及び心理・精神機能面からみた理論の基本的事項を学ぶ
		予習	身体機能面及び心理・精神機能面からみた理論の基本的事項を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
13	作業療法に関する理論（2）	授業内容	発達理論及び作業行動面並びに対象者中心主義からみた理論の基本的事項を学ぶ
		予習	上記理論の基本的事項を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
14	「作業」の捉え方と作業分析	授業内容	作業療法における「作業」の捉え方と作業分析の基本的考え方について学ぶ
		予習	「作業」の種類や基本的な治療的活用方法を調べまとめておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
15	作業療法と倫理	授業内容	作業療法を実践する上で必要かつ基本的な倫理等について学ぶ
		予習	作業療法を行う上での倫理やハラスメント等を調べ整理しておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと

評価法基準	定期試験 80%、授業内小テスト 20%。 小テストは、予習・復習を含めた授業内容に関する小テストを複数回実施します。
教科書	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第 3 版」 長崎重信監修、里村恵子編集 株式会社メジカルビュー社 2021 年

<p>参考書</p>	<p>「標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版」 矢谷令子監修、能登真一編集 株式会社医学書院 2021年 「作業療法学全書（改訂第3版）第1巻 作業療法概論」 社団法人 日本作業療法士協会監修 株式会社 協同医書出版社 2010年 「作業療法の世界」鎌倉矩子著 株式会社 三輪書店 2006年 「作業療法管理学入門（第2版）」大庭潤平編 医歯薬出版株式会社 2021年</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>予習・復習をきちんと行うことを前提に授業を展開していきます。そのため、予習・復習に約1時間の授業外学習時間を想定しています。今後の作業療法の学習の基本となる科目ですので、確実に学習し理解を深めるように授業に臨んで下さい。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜（12:20～12:50）、6-1 研究室</p>

科目名	作業療法学各論		担当教員	山田 孝	
学科・専攻	作業療学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法に必要な作業の体系や治療・アプローチに用いる基本的な理論体系を、講義を通じて学ぶとともに、演習を通じて体験する。目標は主体的な課題解決ができることとする。特に、近年では注目されている「生活行為向上マネジメント(MDTLP)」は、作業療法の実践として、理論と同様に扱うものとする。
到達目標	① 理論のそれぞれを簡単に説明することができる。 ② 例示する事例にあった理論をあげて問題解決ができる。

No.	テーマ		内容
1	作業療法の 理論の歴史 ①	授業内容	教科書①の第 1 章、第 2 章
		予習	教科書①の第 1 章、第 2 章を読んでくる
		復習	教科書①の第 1 章、第 2 章を簡潔にまとめる
2	作業療法の 理論の歴史 ②	授業内容	教科書①の第 3 章
		予習	教科書①の第 3 章を読んでくる
		復習	教科書①の第 3 章を簡潔にまとめる
3	作業療法の 理論の歴史 ③	授業内容	教科書①の第 4 章、第 5 章
		予習	教科書①の第 4 章、第 5 章を読んでくる
		復習	教科書①の第 4 章、第 5 章を簡潔にまとめる
4	現代におけ る作業療法 の理論①	授業内容	教科書②の第 1 章
		予習	教科書②の第 1 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 1 章を簡潔にまとめる
5	現代におけ る作業療法 の理論②	授業内容	教科書②の第 2 章
		予習	教科書②の第 2 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 2 章を簡潔にまとめる
6	現代におけ る作業療法 の理論③	授業内容	教科書②の第 4 章
		予習	教科書②の第 4 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 4 章を簡潔にまとめる
7	現代におけ る作業療法 の理論④	授業内容	教科書②の第 5 章
		予習	教科書②の第 5 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 5 章を簡潔にまとめる
8	現代におけ る作業療法 の理論⑤	授業内容	教科書②の第 6 章
		予習	教科書②の第 6 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 6 章を簡潔にまとめる
9	現代におけ る作業療法 の理論⑥	授業内容	教科書②の第 7 章
		予習	教科書②の第 7 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 7 章を簡潔にまとめる

10	現代における作業療法の理論⑦	授業内容	教科書②の第 8 章
		予習	教科書②の第 8 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 8 章を簡潔にまとめる
11	現代における作業療法の理論⑧	授業内容	教科書②の第 12、15 章
		予習	教科書②の第 12、15 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 12、15 章を簡潔にまとめる
12	現代における作業療法の理論⑨	授業内容	教科書②の第 16、17 章
		予習	教科書②の第 16、17 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 16、17 章を簡潔にまとめる
13	現代における作業療法の理論⑩	授業内容	教科書②の第 17 章
		予習	教科書②の第 17 章を読んでくる
		復習	教科書②の第 17 章を簡潔にまとめる
14	MTDLP の実際①	授業内容	MTDLP に関する資料を前週までに配布する
		予習	配布された MTDLP の資料を読んでくる
		復習	配布資料をまとめる
15	MTDLP の実際②	授業内容	MTDLP に関する資料を前週までに配布する
		予習	配布された MTDLP の資料を読んでくる
		復習	配布資料をまとめる

評価法基準	最終レポート 60%、授業内小レポート 40%、
教科書	① 「作業療法実践の理論 第 4 版」 Kielhofner, G、山田孝監訳 医学書院 2014. ② 「人間作業モデル 理論と応用 改定第 5 版」 Kielhofer, G、山田孝監訳 協同医書出版社 2019.
参考書	「作業療法実践の 6 つの理論—理論の形成と発展」 Miller, BRJ, et al、岩崎テル子監訳 協同医書出版社 1995.
履修上の注意	理論は難しいという先見を捨てて、楽しみながら理論を学びましょう。
オフィスアワー	木曜日 (12:10~13:00)、6-9 研究室

科目名	基礎作業学演習 I		担当教員	齋藤 久恵、河邊 宗知	
実務経験	大学病院の精神科医局に所属し、様々な精神疾患を抱える主に若年層の方々への急性期の作業療法、多職種連携を実施することで、退院促進支援、復学・復職・就労支援などの実践、経験を重ねてきた。その後、精神科病院でのデイケア立ち上げ、クリニックにおいて就労支援事業所の立ち上げに携わり、現在はクリニックのデイケア、併設の就労支援事業所に勤務し、成人の発達障害・精神障害者に対しての生活支援、就労支援を実践している。				
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法で用いられる諸活動を体験し、生物的、心理的、社会的、文化的関係の知識と技術の体系を習得する。製作など様々な活動を通して、活動の特質や知識、技術、応用工夫、指導法を学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動の工程を説明できる。 2 活動に必要な道具を列挙し、その使用法を説明できる。 3 活動に必要な材料を列挙し、その使用法を説明できる。 4 各工程の留意事項を列挙できる。 5 課題に出された作品を完成させることができる。 6 材料・道具・作品の扱いに責任を持ち手入れ及び保管ができる。 7 工程を通して作業分析を行い治療的意味を理解する。 8 終了に際し作業の後始末と作品の管理について責任をもって行うことができる。 9 活動を通じて、制作、創造、自己を表現ができる。 10 自分で課題を指導する時に必要な材料、道具等の購入先、購入方法を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション
		予習	教科書の内容の予習
		復習	授業内容の復習
2	革細工 1	授業内容	オリエンテーション 革細工① 裁断, トレース・図案カット
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
3	革細工 2	授業内容	制作と分析 革細工② カービング・スタンピング・染色
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
4	革細工 3	授業内容	制作と分析 革細工③ 仕上げ
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備

5	革細工 4	授業内容	制作と分析 革細工④ 作業分析とまとめ
		予習	作業活動の分析
		復習	作業活動の分析
6	マクラメ 1	授業内容	制作と分析 マクラメ① 編み方練習・糸切断
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
7	マクラメ 2	授業内容	制作と分析 マクラメ② 結ぶ
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
8	マクラメ 3	授業内容	制作と分析 マクラメ③ 結ぶ
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
9	マクラメ 4	授業内容	制作と分析 マクラメ④ 作業分析
		予習	作業活動の分析
		復習	作業活動の分析
10	マクラメ 5	授業内容	制作と分析 マクラメ⑤ 作業分析とまとめ
		予習	作業活動の分析
		復習	作業活動の分析
11	籐細工 1	授業内容	制作と分析 籐細工① 竪芯の準備・底組み
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
12	籐細工 2	授業内容	制作と分析 籐細工② 胴編み・縁編み
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
13	籐細工 3	授業内容	制作と分析 籐細工③ 胴編み・縁編み
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
14	籐細工 4	授業内容	制作と分析 籐細工④ 作業分析
		予習	作業活動の分析
		復習	作業活動の分析
15	籐細工 5	授業内容	制作と分析 籐細工⑤ 作業分析とまとめ
		予習	作業活動の分析
		復習	作業活動の分析

評価法基準	作品レポート・課題作品提出 100%
教科書	「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 (第 3 版)」医学書院 「ひとと作業・作業活動 第 2 版」三輪書店 「つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル」 医歯薬出版株式会社

参考書	「作業 その治療的応用 第2版」協同医書出版社 「作業療法全書 改訂第3版 第2巻 基礎作業学」共同医書出版社
履修上の注意	長い髪は結ぶ、爪は短く切る、アクセサリーははずす、作業しやすい安全な服装（ヒール、サンダルは不可）で参加すること。塗装等の作業時には必要に応じてマスクを着用すること。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	基礎作業学演習Ⅱ		担当教員	秋元 美穂、河邊 宗知	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	基礎作業学演習Ⅰで学んだ知識と体験実習Ⅰ、Ⅱで得た経験を基に、より臨床的な視点から作業活動を学ぶ。基礎作業学演習Ⅰとは異なり、作業活動を行う際に教員が（講義形態での）詳細な教示を行わない。各自が創意工夫しながら主体的に作業活動に取り組むことを期待する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法が実施されている主な対象・目的・内容・方法等について、説明できる。 2. それぞれの作業活動が治療・援助としてどのように利用できるか理解する。 3. 対象者の疾患特性に合わせた作業活動の利用を学ぶ。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション
		予習	教科書の内容の予習
		復習	教科書の内容の復習
2	木工	授業内容	制作と分析 木工① 木工の有用性および木工道具の基礎知識について学ぶ
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
3	木工	授業内容	制作と分析 木工② 製作作品の計画（設計、資材検討、作業手順等）立案及びその妥当性の確認をする
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
4	木工	授業内容	制作と分析 木工③ 部材への墨付け、加工
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
5	木工	授業内容	制作と分析 木工④ 部材の加工，組み立て
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
6	木工	授業内容	制作と分析 木工⑤ 仕上げ加工
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
7	木工	授業内容	制作と分析 木工⑥ 作業活動の分析，発表
		予習	発表に向けての分析や資料準備
		復習	自己の分析内容の修正や他者の発表のまとめ
8	木工	授業内容	制作と分析 木工⑦ 作業活動の分析，発表
		予習	発表に向けての分析や資料準備
		復習	自己の分析内容の修正や他者の発表のまとめ

9	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動①
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
10	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動②
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
11	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動③
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
12	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動④
		予習	作業活動の製作準備
		復習	作業活動の製作準備
13	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動⑤ 作業活動の分析, 発表
		予習	発表に向けての分析や資料準備
		復習	自己の分析内容の修正や他者の発表内容のまとめ
14	調理活動	授業内容	制作と分析 調理活動⑥
		予習	発表に向けての分析や資料準備
		復習	自己の分析内容の修正や他者の発表内容のまとめ
15	総括	授業内容	総括 調理活動, 木工の作業活動についてのまとめ
		予習	調理活動, 木工の作業分析を中心にまとめる
		復習	他者の調理活動, 木工の作業分析を中心にまとめる

評価法基準	授業内レポート・課題作品提出 100%
教科書	「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版」 医学書院 「ひとと作業・作業活動 第2版」 三輪書店 「つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル」 医歯薬出版株式会社
参考書	「作業 その治療的応用 第2版」 協同医書出版社 「作業療法全書 改訂第3版 2 基礎作業学」 協同医書出版社
履修上の注意	作業活動を実際に体験して学習する。 各自が真剣に作業と向き合う姿勢を期待する。 講義までに指示された道具・材料の準備を行う。 製作の進行により自習が必要なことがある。自習を行う場合は教員の指示を仰ぐこと。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	作業療法管理学 I		担当教員	佐藤 章	
実務経験	身体障害領域のリハビリテーションセンター、デイサービス、障害者更生相談センター等の勤務経験を通して得た備品や設備等の管理・運営方法、対象者のリスク管理等について触れ、関連する医療・福祉・介護の制度等との関係性や個人保護法やハラスメントの防止等の重要性等を含め、できるだけ事例を通して、適切な作業療法の管理運営及び組織人としての作業療法士の役割等について、学生と共に考察していく授業を展開する予定です。				
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法がどのような場面で展開され、どのような人々を対象として、どのように作業が用いられているのかについて、講義を通じて学ぶ。また、前期で体験する「体験実習」の準備や振り返りを通じて、実際の作業療法場面で「作業」がどのように活用されているのかについて、発表等の演習形式を通じて他学生の経験を共有し、自身の体験と合わせて作業療法の目的や意義についての理解を深め、さらに、作業療法を行う上での管理・運営的視点並びに倫理的視点につなげることができるとを目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 作業療法が実施されている主な施設の種類等について、説明できる ② 作業療法が実施されている主な環境や設備等について、説明できる ③ 作業療法が実施されている主な対象・目的・内容・方法等について、説明できる ④ 作業療法を実施する上で、留意すべき管理・運営的な事項等について、説明できる ⑤ 作業療法を実施する上で、関連する法規等について、その概略を説明できる

No.	テーマ		内容
1	作業療法と組織	授業内容	作業療法を行う上で必要な組織に関する事項を学ぶ
		予習	一般的な組織の目的、機能、役割等について調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
2	理学療法士及び作業療法士法	授業内容	「理学療法士及び作業療法士法」と作業療法業務との関係を学ぶ
		予習	「理学療法士及び作業療法士法」について調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
3	医療保険法と作業療法(1)	授業内容	医療保険制度の概略を理解し、作業療法の対象者、役割、実施施設等を学ぶ
		予習	医療保険、特に身体障害者のリハビリテーションに関する事項を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
4	医療保険法と作業療法(2)	授業内容	医療保険制度の概略を理解し、作業療法の対象者、役割、実施施設等を学ぶ
		予習	医療保険、特に精神障害者のリハビリテーションに関する事項を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと
5	介護保険法と作業療法	授業内容	介護保険制度の概略を理解し、作業療法の対象者、役割、実施施設等を学ぶ
		予習	介護保険、特に作業療法(士)に関する事項を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめておくこと

6	障害者総合支援法と作業療法	授業内容	障害者総合支援制度の概略を理解し、作業療法の対象者、役割、実施施設等を学ぶ
		予習	障害者総合支援法、特に作業療法（士）に関する事項を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめること
7	診療情報と記録	授業内容	リハビリテーション医療及び作業療法に関する診療情報及び記録等を学ぶ
		予習	診療情報の種類や記録の方法等を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめること
8	作業療法と個人情報保護法	授業内容	医療及び作業療法に関わる個人情報の保護に関する基本的事項を学ぶ
		予習	一般的な個人情報保護について調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめること
9	インシデントとアクシデント	授業内容	作業療法を実施する上でのインシデント、アクシデント及びその対策等を学ぶ
		予習	作業療法を実施する上で考えられる事故やその対策等を調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめること
10	作業療法と職業倫理	授業内容	作業療法を実施する上での職業倫理等を学ぶ
		予習	作業療法士としての職業倫理とは何かについて調べておくこと
		復習	予習した内容と授業で学んだ内容とを整理してまとめること
11	作業療法の体験（1）	授業内容	体験実習で経験した内容について、情報交換を行い、学生相互に理解する
		予習	体験実習での作業療法の実施施設、環境、設備等をまとめること
		復習	自分の経験と他の学生の経験とを整理しまとめること
12	作業療法の体験（2）	授業内容	体験実習で経験した内容について、情報交換を行い、学生相互に理解する
		予習	体験実習での作業療法の実施施設、環境、設備等をまとめること
		復習	自分の経験と他の学生の経験とを整理しまとめること
13	作業療法と関連法規	授業内容	作業療法を実施する上で関連する法規や制度等の概略を学ぶ
		予習	作業療法を実施する上で関連する法規や制度等の概略を調べておくこと
		復習	予習と授業を踏まえ関連する法規や制度等の概略をまとめること
14	作業療法部門の管理と運営	授業内容	作業療法を実施する上で必要な管理・運営の基本的事項を学ぶ
		予習	作業療法を実施するにあたり、管理・運営上必要な事項を調べておくこと
		復習	予習と授業を踏まえ管理・運営の基本的視点を整理しまとめること
15	課題の把握と解決の視点	授業内容	作業療法を実施する上での課題把握と解決法の視点について学ぶ
		予習	PDCA サイクルについて調べておくこと
		復習	予習と授業内容を踏まえ課題把握と解決法の視点を整理しまとめること

評価法基準	定期試験 80%、授業内小テスト 20% 小テストは、予習・復習を含めた授業内容に関する小テストを複数回実施します。
教科書	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第3版」 長崎重信監修、里村恵子編集 株式会社メジカルビュー社 2021年

参考書	<p>「標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版」 矢谷令子監修、能登真一編集 株式会社医学書院 2021年</p> <p>「作業療法学全書（改訂第3版）第1巻 作業療法概論」 社団法人 日本作業療法士協会監修 株式会社 協同医書出版社 2010年</p> <p>「作業療法の世界」鎌倉矩子著 株式会社 三輪書店 2006年</p> <p>「作業療法管理学入門（第2版）」大庭潤平編 医歯薬出版株式会社 2021年</p>
履修上の注意	<p>予習・復習をきちんと行うことを前提に授業を展開していきます。その為、予習・復習に約1時間の授業外学習時間を想定しています。今後の実践的な学習の基本となる科目ですので、学生自らの意見や考えを、学生相互に発信する過程を通して理解を深めるように、授業に臨んで下さい。</p>
オフィスアワー	<p>金曜（12:20～12:50）、6-1 研究室</p>

科目名	作業療法管理学Ⅱ		担当教員	里村 恵子	
学科	作業療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	対象者に、質の高い作業療法を提供する為、作業療法の実施過程及び作業療法と関連職種との関係を始め、作業療法・作業療法士に関連する保健・医療・福祉の法規や制度等（医療保険制度、介護保険制度、障害者福祉制度等）との関係について理解を深めると共に、作業療法部門の管理・運営に関するマネジメントについて学ぶ。また、臨床教育・生涯教育を含めた作業療法教育に必要な能力を培い、作業療法士としての職業倫理を高める態度を養い、作業療法士としての必要な管理・運営に関する基本的能力や職業倫理に関する基本的態度を身につけることを目標とする。
到達目標	① 作業療法の実践過程（流れ）と関連職種との関係について説明できる ② 作業療法・作業療法士と関連する法規や制度等との関係について、その概略を説明できる ③ 作業療法に関連する診療報酬及び記録・報告の要点等を説明できる ④ 記録と報告や職種間連携を踏まえ、作業療法・作業療法士と関係する倫理について説明できる ⑤ 作業療法教育を含め、作業療法部門の管理・運営について、その要点を説明できる

No.	テーマ		内容
1	作業療法の 実践過程と 関連職種	授業内容	作業療法の実践過程と関連職種との関係及び関連する制度等を理解する
		予習	作業療法の実践過程と関連職種との関係及び関連する制度等を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ関連職種及び関連する制度等を整理しまとめる
2	作業療法と 医療保険法	授業内容	作業療法を行う上で必要な医療保険制度との関係について学ぶ
		予習	作業療法を行う上で必要な医療保険制度について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ関係する医療保険制度の概略を整理しまとめる
3	作業療法と 介護保険法	授業内容	作業療法を行う上で必要な介護保険制度との関係について学ぶ
		予習	作業療法を行う上で必要な介護保険制度について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ関係する介護保険制度の概略を整理しまとめる
4	作業療法と 障害者総合 支援法	授業内容	作業療法を行う上で必要な障害者福祉制度との関係について学ぶ
		予習	作業療法を行う上で必要な障害者福祉制度について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ関係する障害者福祉制度の概略を整理しまとめる
5	作業療法と 関連する他 の法規等	授業内容	作業療法と関連するその他の法規や制度等との関係について理解する
		予習	作業療法と関連するその他の法規や制度等との関係について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ関連するその他の法規や制度等の概略をまとめる
6	身体障害領 域の診療報 酬	授業内容	作業療法と関係する身体障害領域の診療報酬について理解する
		予習	作業療法と関係する身体障害領域の診療報酬について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ身体障害領域の診療報酬の概略を整理しまとめる
7	精神障害領 域の診療報 酬	授業内容	作業療法と関係する精神障害領域の診療報酬について理解する
		予習	作業療法と関係する精神障害領域の診療報酬について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ精神障害領域の診療報酬の概略を整理しまとめる

8	作業療法と記録・報告	授業内容	作業療法に関するインシデント等を含めた記録・報告等について学ぶ
		予習	作業療法に関するインシデント等について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえインシデント等の記録・報告等を整理しまとめる
9	職種間連携	授業内容	対象者中心のリハビリテーションを行う為の職種間連携を理解する
		予習	対象者中心のリハビリテーションを行う為の職種間連携を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ対象者が中心となる職種間連携を整理しまとめる
10	作業療法部門における臨床実習	授業内容	作業療法部門における学生の臨床実習の目的、内容、方法等を理解する
		予習	作業療法部門における学生の臨床実習の目的、内容、方法等を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ臨床実習の目的、内容、方法等を整理しまとめる
11	作業療法教育	授業内容	作業療法部門における職員の作業療法教育の目的、内容、方法を理解する
		予習	作業療法部門における職員の作業療法教育の目的、内容等を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ職員の作業療法教育の目的等を整理しまとめる
12	作業療法士と倫理	授業内容	作業療法士に関する職業倫理、研究倫理、対象者の権利等を理解する
		予習	作業療法士に関する職業倫理、研究倫理、対象者の権利等を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ職業・研究倫理や対象者の権利等をまとめる
13	作業療法士とハラスメント	授業内容	作業療法、作業療法士に関するハラスメントについて理解する
		予習	作業療法、作業療法士に関するハラスメントについて調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえハラスメントの概略を整理しまとめる
14	作業療法部門の管理・運営	授業内容	作業療法部門の管理・運営の意義や目的、内容、方法等について学ぶ
		予習	作業療法部門の管理・運営の意義や目的、内容、方法等を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ管理・運営の意義や目的等を整理しまとめる
15	作業療法部門における課題と解決	授業内容	作業療法部門における課題の把握と解決に関する視点等について学ぶ
		予習	作業療法部門における課題の把握と解決に関する視点等について調べる
		復習	予習と授業内容を踏まえ課題の把握と解決に関する視点を整理しまとめる

評価法基準	評価法及び評価基準は、定期試験 80%、小テスト10%、課題提出 10%である。 小テストは、予習・復習を含めた授業内容に関する内容である。
教科書	大庭潤平：作業療法管理学入門 第2版 医歯薬出版 2021
参考書	齋藤昭彦編：リハビリテーション管理学 羊土社 2020
履修上の注意	予習・復習をきちんと行うことを前提に授業を展開していく。そのため予習・復習各々に約2時間の授業外の学習時間を想定。卒業後にも必要な授業内容である。また、社会情勢とも関連する内容もあるので、社会の動きにも関心を持って授業に臨むこと。
オフィスアワー	水曜日 12時10分から13時

科目名	作業療法評価学概論		担当教員	山田 孝	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法の流れの中で重要な位置づけである「評価」について、「作業」の活用の観点から、評価方法だけではなく、作業療法治療学に結び付けられるよう、講義を通じて一連の流れを学び、演習形式により作業療法の流れとしてどのように作業療法による「治療・関わり」を考えるかについて主体的に解決できることを目標とする。また、作業療法の評価は最終的に統合することで、「その人」そのものの評価として、心身機能・身体構造の評価に偏ることなく、活動や参加、環境因子や個人因子の重要性についても理解できることを併せて目標とする。</p>
到達目標	<p>① 作業療法における「評価」の目的等の要点について説明できる</p> <p>② 作業療法と I C F との関連について説明できる</p> <p>③ 作業療法における基本的な「評価」の種類と方法の概略について説明できる</p> <p>④ 作業療法における対象領域別の「評価」の概略について説明できる</p> <p>⑤ 作業療法における「評価」と「治療・関わり」との関連について説明できる</p>

No.	テーマ		内容
1	作業療法評価学とは	授業内容	作業療法における「評価」の位置づけについて学ぶ
		予習	作業療法における「評価」の位置づけについて調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ「評価」の位置づけをまとめる
2	評価と理論	授業内容	作業療法における評価と「理論」について学ぶ
		予習	作業療法における「理論」には何があるか調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ評価と「理論」の関係等を整理しまとめる
3	作業療法の評価の目的と手順	授業内容	作業療法における「評価」の目的と手順について学ぶ
		予習	作業療法における「評価」の目的と手順を調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ「評価」目的と手順を整理しまとめる
4	評価とリーズニング	授業内容	作業療法における「リーズニング」について学ぶ
		予習	作業療法における「リーズニング」には何があるか調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ「リーズニング」の種類等を整理しまとめる
5	I C I D H と I C F	授業内容	I C I D H と I C F の基本的考え方や経過について学ぶ
		予習	I C I D H と I C F の基本的考え方や経過について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ I C F の基本的考え方を整理しまとめる
6	作業療法における面接	授業内容	作業療法における面接の方法について学ぶ
		予習	作業療法における面接の方法について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ面接の方法等をまとめる

7	作業療法における観察	授業内容	作業療法における観察の方法について学ぶ
		予習	作業療法における観察の方法について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ観察の方法等をまとめる
8	身体機能に関する基本的評価(1)	授業内容	作業療法における身体機能に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における身体機能に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ身体機能に関する基本的評価を整理しまとめる
9	身体機能に関する基本的評価(2)	授業内容	作業療法における身体機能に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における身体機能に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ身体機能に関する基本的評価を整理しまとめる
10	精神機能に関する基本的評価	授業内容	作業療法における精神機能に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における精神機能に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ精神機能に関する基本的評価を整理しまとめる
11	高次脳機能に関する基本的評価	授業内容	作業療法における高次脳機能に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における高次脳機能に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ高次脳機能に関する基本的評価を整理しまとめる
12	発達過程に関する基本的評価	授業内容	作業療法における発達過程に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における発達過程に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ発達過程に関する基本的評価を整理しまとめる
13	高齢期機能に関する基本的評価	授業内容	作業療法における高齢期機能に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における高齢期機能に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ高齢期機能に関する基本的評価を整理しまとめる
14	日常生活活動に関する基本的評価	授業内容	作業療法における日常生活活動に関する基本的評価の概略について学ぶ
		予習	作業療法における日常生活活動に関する基本的評価について調べておく
		復習	予習と授業内容を踏まえ日常生活活動の基本的評価を整理しまとめる
15	生活行為向上マネジメント	授業内容	生活行為向上マネジメントについて学ぶ
		予習	生活行為向上マネジメントについて調べておく
		復習	予習と授業を踏まえ生活行為向上マネジメントについて整理する

評価法基準	最終レポート 60%、授業内小レポート 40% 小レポートは、予習・復習を含めた授業内容に関するレポートで、毎回実施します。
教科書	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 (第3版)」能登真一他編・著 医学書院 2017年 「人間作業モデル 理論と応用 改定第5版」 Kielfhofer, G、山田孝監訳 協同医書出版社 2019.
参考書	なし
履修上の注意	予習・復習をきちんと行うことを前提に授業を展開していきます。予習・復習各々に約2時間の授業外の学習時間を想定しています。今後の作業療法の実践的な学習に向けての基本的授業科目ですので、確実に学習し理解を深めるようにして授業に臨んで下さい。
オフィスアワー	木曜 (12:10~13:00) 、6・9 研究室

科目名	身体機能作業療法評価学	担当教員	星 克司		
実務経験	臨床のほとんどを身体障害者の作業療法に関わり、回復期等の医学的リハビリテーションを中心に経験してきた。特に総合リハビリテーションセンターにおいては、重度障害者の社会復帰、就労等の支援も行ってきた。様々なライフスタイル、障害に対しても一人の人間として全体像を捉え、作業療法の必要性を導き出せるように様々な評価の意味を理解し、臨床に生かせる技術を身につけられるようにする。				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>身体機能に障害等を有する人に対する作業療法評価の目的と意義を学ぶ</p> <p>身体障害の概要と評価の関連を理解する</p> <p>生理機能測定、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力測定、感覚、脳神経検査、協調性、反射などの検査、上肢機能検査、高次脳機能検査などの講義により実践できるようにする</p>
到達目標	<p>身体機能領域で用いる作業療法評価の概要を理解し、説明できる</p> <p>各種評価方法を実施できる</p>

No.	テーマ		内容
1	評価の概要	授業内容	身体障害作業療法分野で用いられる評価の概要
		予習	基礎作業評価学概論を復習
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
2	形態計測、姿勢	授業内容	身長、体重、四肢長、周径、姿勢
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
3	全身状態	授業内容	全身状態、バイタルサイン
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
4	関節可動域	授業内容	関節可動域の測定（上肢）
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
5	関節可動域	授業内容	関節可動域の測定（下肢、体幹）
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
6	感覚	授業内容	表在感覚、深部感覚、複合覚
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
7	筋力	授業内容	徒手筋力測定（上肢）
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする

8	筋力	授業内容	徒手筋力測定（下肢）
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
9	筋力	授業内容	徒手筋力測定（体幹、頸部）
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
10	脳神経	授業内容	特殊感覚、眼球運動、顔面、構音、摂食嚥下
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
11	上肢機能	授業内容	リーチ、把握、巧緻動作、握力、簡易上肢機能検査
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
12	反射、筋緊張	授業内容	深部反射、表在反射、病的反射、筋トーン、不随意運動
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
13	片麻痺の機能回復	授業内容	Brunnstrom Recovery Stage、12段階片麻痺回復段階グレード
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
14	片麻痺の機能回復	授業内容	上肢機能
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする
15	姿勢反射、バランス、持久性	授業内容	姿勢反射、バランス、持久性
		予習	授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行う
		復習	授業内容を振り返り、繰り返し実技練習をする

評価法基準	定期試験 60%、実技試験 40%により総合的に判定する
教科書	「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」津山直一ら（訳） 協同医書出版社 2020 年 「ベッドサイドの神経の診かた 第 18 版」田崎義昭ら 南山堂 2016 年 「標準作業療法学 作業療法評価学 第 3 版」能登真一ら（編） 医学書院 2017 年
参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	

科目名	精神機能作業療法評価学		担当教員	埜崎 都代子	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法の評価過程の一連の流れ、各評価（情報収集・観察・面接）の意義とその関連性について、講義と演習を通して学習する。対象者の生育歴、これまでの経過と現在の I C F の把握、今後の目標設定・治療方針の検討のためには、横断的見方、縦断的見方を通じての各評価を実施することが求められる。そして、これらの評価結果を整理し、相互関係の影響を検討した上で作業療法においての標的問題を絞り込むことにより、今後の治療・援助計画立案が可能となる。</p> <p>この授業では、評価の基本的プロセス、各評価の視点と方法、評価結果の統合と解釈による全体像の把握、治療目標の設定までの一連の流れの習得を目標とする。また、精神領域の実際の評価で重要な観察・面接の質を左右する、その実施主体である学生自身の自己分析、コミュニケーションの特徴についても気づきを促すことを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神機能作業療法の評価過程の一連の流れを説明できる。 2. 精神機能作業療法における評価の項目を説明できる。 3. 各評価（情報収集・観察・面接）について、その目的、項目、方法、留意点を説明できる。 4. 観察・面接を実施する自己の特徴について説明できる。 5. 各評価結果の統合と解釈を行い対象者の全体像を把握し、その説明ができる。 6. 各精神疾患とその回復過程に応じた作業療法評価の視点について説明できる。

No.	テーマ		内容
1	精神機能作業療法評価学総論	授業内容	精神機能作業療法の評価について、その一連の過程の流れと要素を学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ疾患に対して、理解を深めるため予習をする。
		復習	講義内容を振り返るため、教科書を読み返し理解する。
2	評価の目的と手段	授業内容	評価の基本的プロセスの流れと各プロセスの目的とその手段を学ぶ。
		予習	前回の総論での評価過程の流れと要素を復習して臨む。
		復習	評価の基本的プロセス、各プロセスの目的と手段をまとめる。
3	評価① 情報収集	授業内容	情報収集の目的、項目、方法、他職種連携、留意点について学ぶ。
		予習	情報収集について教科書を読む。
		復習	基本的プロセスにおける情報収集の役割とその具体的な内容を理解する。
4	評価② 観察 1	授業内容	評価法の一つである観察法について、その目的、視点、方法を学ぶ。
		予習	観察法について教科書を読む。
		復習	観察の目的、視点、方法について教科書を再度読み直し理解を深める
5	評価③ 観察 2	授業内容	観察の構造、観察者である自身の関与・プロセスレコードの方法を含めた留意点などを学ぶ。
		予習	観察の目的、視点を復習して臨む。
		復習	観察の目的、視点、構造、方法、留意点など観察法を理解する。

6	評価④ 面接1	授業内容	評価法の一つである面接法について、その目的、方法、留意点を学ぶ。
		予習	面接法について教科書を読む。
		復習	面接の目的、方法、留意点などの理解を深める。
7	評価⑤ 面接2	授業内容	面接演習を通して、感じたこと、推察できたことを記録する。
		予習	観察、面接について復習し、その視点や留意点などを確認して臨む。
		復習	観察者・被観察者体験を通しての観察・面接、その考察をまとめる。
8	評価⑥ 検査法1	授業内容	精神障害領域における主要な検査・評価尺度について学び、演習する。
		予習	検査項目・評価尺度について教科書を読む。
		復習	各検査項目・評価尺度から得られる情報についてまとめる。
9	評価⑦ 検査法2	授業内容	精神障害領域における主要な検査・評価尺度について学び、演習する。
		予習	検査項目・評価尺度について教科書を読む。
		復習	各検査項目・評価尺度から得られる情報についてまとめる。
10	評価⑧ コミュニケーション	授業内容	学生各自の気がかり場面のプロセスレコードについて発表し、自らのコミュニケーションの特徴、よりよい対応について相互理解を深める。
		予習	4・5回で学習した内容について復習する。
		復習	集団に関する評価の視点・方法について復習する。
11	集団における評価①	授業内容	集団における評価（集団内個人・集団）の視点、方法について学ぶ。
		予習	心理学で学習した種々の治療理論について復習する。
		復習	集団に関する評価の視点・方法について復習する。
12	集団における評価②	授業内容	課題を通じて集団運営を実施し、観察・評価を演習する。
		予習	11回で学習した内容について復習する。
		復習	集団の評価について演習を通じて学習したことを整理し復習する。
13	統合失調症 の評価事例 検討①	授業内容	統合失調症の評価事例に対して、事例情報をICFの構造モデルに整理し、全体像のまとめ方を学習する。全体像から、事例対象者の問題点・長所（強味）、それらの優先順位の検討をし、長期目標・短期目標の設定をする。以上を通じて、評価の基礎的事項の理解、各期の回復過程の状態像とその事例の個性も視点に入れた上で、作業療法評価の統合と解釈について一連の流れを学習する。
		予習	12回までの復習をする。
		復習	事例情報の整理の仕方、目標設定に至る一連の流れについて復習する。
14	統合失調症 の評価事例 検討②	授業内容	統合失調症の新規事例について、13回で行った手順に基づき、ICFによる全体像・問題点・長所をまとめ、治療目標を設定することを学生各自が演習する。
		予習	13回の復習をする。
		復習	事例報告を作成し、まとめる。
15	統合失調症 の評価事例 検討③	授業内容	14回の実例の評価結果・治療目標について、発表し、学生相互の理解を深める。評価実習について、理解をふかめる。授業のまとめをする。
		予習	14回でまとめた事例の復習をする。
		復習	精神機能評価の一連の流れについて理解を深め、臨床実習への準備をする。

評価法基準	定期試験 80%、授業内レポート課題 20%
教科書	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」 医学書院
参考書	「標準理学療法・作業療法 精神医学 第4版」 医学書院 「作業療法学 ゴールドマスターテキスト 改訂第3版 精神障害作業療法学」 メディカルビュー社 その他参考文献、参考資料においては、適宜紹介、または配布する。
履修上の注意	精神疾患を有する対象者への評価の視点と方法を学ぶことは、自己理解、人間理解を深めることにも繋がる。対人援助職である作業療法士を目指す上で、治療的に自己を活用する基礎を作るためにも、講義・演習に対して常に問題探索的態度で参加すること。
オフィスアワー	木曜日 (12:10~12:50、17:50~18:10)、5-9 研究室

科目名	発達障害作業療法評価学		担当教員	佐々木 清子	
実務経験	小児専門の病院やで市区町村の発達支援センターの作業療法、通常学校、特別支援学級、保育園への訪問指導、家庭訪問指導を行ってききましたので、発達領域の作業療法、全般について即戦力となる力を身に付けられるように進めます。そのために、病院だけでなく学校や発達センターで役立つ幅広い知識と実践力を学べるようにします。また、子どもの全体像をイメージしながら学習できるよう動画を用いたり、実技を通して学習を進めます。				
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	発達領域の対象者の障害特徴を理解し、新生児期からの運動・精神等の発達段階に応じた機能の評価内容について、講義を通じて基本的理論を学ぶ。なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連の評価として理解できることを目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達領域の対象者の状態像の特徴を説明できる。 ・対象者に必要な評価項目を挙げることができる。 ・評価内容を理解し、実施できる。 ・評価結果から、対象者を ICF の観点からまとめ、問題点を列挙できる。

No.	テーマ		内容
1	発達障害領域の評価治療過程	授業内容	評価治療過程、対象、評価の目的と方法、種類、評価の選択について学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
2	発達障害児の評価の概要	授業内容	発達障害児の状態像を理解し、評価の概要を理解する。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
3	感覚統合機能の評価 1	授業内容	ミラー幼児発達スクリーニング検査・JPAN 検査、感覚統合臨床観察を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
4	感覚統合機能の評価 2	授業内容	日本感覚質問紙・センサープロファイルを学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
5	知的・精神機能の評価	授業内容	知的、精神機能(社会性を含む)の評価項目と実施、解釈について学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
6	姿勢・運動の評価	授業内容	脳性まひの特徴を知り、反射・筋緊張・姿勢反応・姿勢の評価を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う

7	上肢機能評価	授業内容	脳性まひの特徴を知り、エアハート上肢機能評価を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
8	視覚機能検査による評価	授業内容	エアハート視覚機能評価、人物画（グッドイナフ人物画知能検査）を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
9	重症心身障害児の評価 (姿勢・運動)	授業内容	事例を通して状態像を観察し、姿勢・手の機能の特徴を学び、対象者の評価を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
10	視覚機能検査による評価	授業内容	視覚機能、視知覚機能の評価方法を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
11	日常生活動作の発達評価	授業内容	対象者の特徴を知り、セルフケアの評価方法を学ぶ。(乳幼児発達指導演法)
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
12	食事機能評価	授業内容	対象者の特徴を知り、食事動作に必要な口腔・上肢機能の評価方法を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
13	更衣動作機能の評価	授業内容	対象者の特徴を知り、更衣動作機能の評価方法を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
14	発達スクリーニングテストによる評価	授業内容	日本版デンバー式発達スクリーニング検査、遠城寺式乳幼児分析発達検査・乳幼児精神発達診断法について学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	ワークシートにて振り返りを行う
15	評価のまとめ	授業内容	心身機能・身体構造、活動や参加、環境因子から評価のまとめ方を学ぶ。
		予習	教科書の該当部分を読んでおく
		復習	事例をまとめ提出し、コメントをもとに修正を行う。

評価法基準	定期試験 80%、授業内レポート（ワークシート）提出 20%
教科書	「イラストでわかる発達障害の作業療法」医歯薬出版株式会社 上杉雅之 監修 辛島千恵子編集 2019年
参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	高齢期作業療法評価学		担当教員	山田 孝	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	高齢期の加齢によって起こる認知機能低下の特徴や高齢期分野でよくみられる疾患についての基礎知識をつける。また、さまざまな認知機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、理論と実技の統合を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の疾患や心身機能について説明できる。 2. 高齢期の認知機能障害について説明できる。 3. 高齢期の認知機能障害の作業療法評価について列挙できる。 4. 高齢期の認知機能障害の評価を説明し、実施することができる。

No.	テーマ		内容
1	高齢期の概要	授業内容	日本の現状と制度について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
2	高齢者に対する作業療法の知識①	授業内容	高齢者の作業療法に必要な医学的知識を理解すること
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
3	高齢者に対する作業療法の知識②	授業内容	高齢者の作業療法に必要な福祉と心理・社会的知識を理解すること
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
4	高齢者に対する作業療法の過程	授業内容	作業療法の過程、理論とモデル、リーズニングなどについて学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
5	高齢期作業療法の評価①	授業内容	作業療法以外の領域の評価法について理解すること
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
6	高齢期作業療法の評価②	授業内容	作業療法以外の領域の評価法について理解すること
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
7	高齢期作業療法の評価③	授業内容	作業療法における自己評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
8	高齢期作業療法の評価④	授業内容	作業療法における観察に基づく評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること

9	高齢期作業療法の評価 ⑤	授業内容	作業療法における面接の評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
10	高齢期作業療法の評価 ⑥	授業内容	作業療法における収集法を結びつけた評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
11	高齢期作業療法の実際 ①	授業内容	事例(脳卒中)を通して高齢期の評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
12	高齢期作業療法の評価 ②	授業内容	事例(脳卒中)を通して高齢期の評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
13	生活行為向上マネジメント	授業内容	生活行為向上マネジメントについて学ぶ
		予習	生活行為向上マネジメントについて調べておく
		復習	予習と授業を踏まえ生活行為向上マネジメントについて整理する
14	高齢期作業療法の評価 ③	授業内容	事例(認知症)を通して高齢期の評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること
15	高齢期作業療法の評価 ④	授業内容	事例(認知症)を通して高齢期の評価の方法について学ぶ
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生は講義内容を振り返って、まとめをすること

評価法基準	定期試験 60%、授業内小レポート 40% 小レポートは、予習・復習を含めた授業内容に関するレポートで、毎回実施します。 文献の写しではなく、自分の考えを含めて下さい。
教科書	「高齢期領域の作業療法、第2版」山田孝監修 中央法規 2016
参考書	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」能登真一他編著 医学書院 2017 (1年時の評価法概論で用いたものです。)
履修上の注意	予習・復習各々に約2時間の授業外の学習時間を想定しています。予習・復習をきちんと行うことを前提に授業を展開していきますので、確実に学習し理解を深めるようにして授業に臨んで下さい。
オフィスアワー	月曜 (12:10~13:00) 6-9 研究室

科目名	高次脳機能作業療法評価学	担当教員	坂本 俊夫		
実務経験	担当講師は、大学病院をはじめリハビリテーションセンター、リハビリテーション専門病院にて高次脳機能に問題を抱える対象者に急性期から回復期、維持期、終末期における作業療法実践をした経験を持っています。本講義においてはこれらの経験を十分に加味した内容を提供する予定です。				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	高次脳機能は、その人らしい生活を送るための重要な運動や感覚をコントロールする役割を担う。本講義では、高次脳機能の基礎を学び、その障害について説明できることを目指す。また、高次脳機能障害の症状を理解した上で、画像評価、高次脳機能評価の必要な基本的知識と作業療法の過程を学ぶ。さらに、症状に応じた評価の選択と評価の実施から結果の解釈までの一連の過程を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①高次脳機能とその発達およびその障害について説明できる。 ②脳画像と症状との関連について説明できる。 ②高次脳機能障害の症状に対応する評価方法を列挙することができる。 ③高次脳機能の評価の目的と意義、実施方法を説明することができる。 ④高次脳機能の評価結果から対象者の生活に生じている諸課題について理解することができる。

No.	テーマ	内容	
1	高次脳機能 総論	授業内容	高次脳機能とその発達および障害の特徴を学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」第1章を一読すること
		復習	高次脳機能とその発達の概要をまとめる
2	脳解剖と画 像診断 ①脳解剖	授業内容	脳解剖について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 「II 脳解剖と画像診断」を一読すること
		復習	高次脳機能の関連する脳の解剖についてまとめる
3	脳解剖と画 像診断 ②画像診断	授業内容	脳の画像診断について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能障害マエストロシリーズ」第1章/第2章を一読すること
		復習	脳画像と症状との関連についてまとめる
4	高次脳機能 障害の評価 過程	授業内容	高次脳機能障害の評価過程について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 III 評価と治療の流れを一読すること
		復習	高次脳機能障害の評価目的と手段、評価プロセスについてまとめる
5	包括的な 評価	授業内容	高次脳機能全般を包括的に捉える検査法について学ぶ
		予習	教科書「作業療法評価学（第3版）」446頁「包括的な評価」を一読すること
		復習	授業で学んだ検査の意義と方法とその解釈についてまとめる
6	注意障害の 評価	授業内容	全般性注意障害の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」第2章 I 注意障害を一読すること
		復習	注意障害の症状とその評価法と解釈をまとめる

7	記憶障害の 評価	授業内容	記憶障害の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 II 記憶障害 を一読すること
		復習	記憶障害の症状とその評価法と解釈をまとめる
8	失語症の評 価	授業内容	失語症の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 III 失語 を一読すること
		復習	失語症の症状とその評価法と解釈をまとめる
9	行為の障害 の評価	授業内容	失行, その他の行為の障害の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 IV 失行 を一読すること
		復習	失行症の分類および症状とその評価法と解釈をまとめる
10	失認の評価	授業内容	失認の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 V 失認 (対象認知の障害) を一読すること
		復習	失認の分類および症状とその評価法と解釈をまとめる
11	半側空間無 視の評価	授業内容	半側空間無視の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 VI 半側空間無視 を一読すること
		復習	半側空間無視の症状とその評価法と解釈をまとめる
12	遂行機能障 害の評価	授業内容	遂行機能障害の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 VII 遂行機能障害 を一読すること
		復習	遂行機能障害の症状とその評価法と解釈をまとめる
13	社会的行動 障害の評価	授業内容	社会的行動障害の評価法について学ぶ
		予習	教科書「高次脳機能作業療法学」 VIII 社会的行動障害 を一読すること
		復習	社会的行動障害の症状とその評価法と解釈をまとめる
14	高次脳機能 評価の実際 ①	授業内容	事例を通して高次脳機能の評価の選択と実施の過程を学ぶ
		予習	事前に指定する資料を読み, 情報を整理すること
		復習	事例を通して高次脳機能の評価の選択と実施の過程についてレポートを作成
15	高次脳機能 評価の実際 ②	授業内容	事例を通して高次脳機能の評価の選択と実施の過程を学ぶ
		予習	事前に指定する資料を読み, 情報を整理すること
		復習	事例を通して高次脳機能の評価の選択と実施の過程についてレポートを作成

評価法基準	定期試験 80%、授業内課題レポート 20%
教科書	「高次脳機能作業療法学」能登真一他編 医学書院 2012 「作業療法評価学(第3版)」能登真一他編 医学書院 2017 「高次脳機能障害マエストロシリーズ(2)画像の見かた・使いかた」 三村将他著 医歯薬出版 2006
参考書:	「高次脳機能障害の作業療法」鎌倉矩子 三輪書店 2010 「高次脳機能障害(改訂第3版)、作業療法学全書5」渕雅子編 協同医書出版 2011 「高次脳機能障害作業療法学 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト5」鈴木孝治 編 メジカルビュー社 2012 「高次脳機能障害学(第2版)」石合純夫著 医歯薬出版 2012

履修上の注意	高次脳機能障害の症状と発現機序を理解するために、これまで学んだ解剖学、生理学、心理学等の基礎知識の復習をして積極的に授業へ臨んでください。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、3-10 研究室

科目名	日常生活活動作業療法評価学	担当教員	井口 佳晴		
実務経験	これまで、身体領域ではリハビリテーションセンターや国立病院機構、高齢期領域では介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどの施設で作業療法を実践してきました。これらの施設での対象者は、中枢神経疾患をはじめ、整形疾患、神経難病などの疾患を有し、さらに日常生活動作上の問題も多種多様でした。授業では、教科書に記載されている基本的事項に加えて、実践から学んだ経験や支援技術について解説します。				
学科	作業療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	日常生活活動としての基本動作と活動に関する評価について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 また、日常生活活動等を支援するための福祉用具、義肢装具、住宅改修等に関する評価の基本的事項についても講義を通じて学び、理解することを目標とする。
到達目標	① ADL 評価表の特徴について理解する。 ② FIM と Barthel Index の採点方法について理解する。 ③ 福祉用具（義肢装具・自助具を含む）、環境整備の関連した評価について理解する。

No.	テーマ		内容
1	日常生活活動の概念について	授業内容	日常生活活動の概念、及び範囲について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
2	ICF と ADL について	授業内容	ICF(国際生活機能分類)と ADL の関連について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
3	ADL 評価の特徴について①	授業内容	ADL 評価の特徴について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
4	ADL 動作の構成要素について①	授業内容	ADL 動作の構成要素について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
5	BI について①	授業内容	Barthel Index について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
6	FIM について①	授業内容	FIM について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

7	FIMについて②	授業内容	FIMについて講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
8	事例検討①	授業内容	事例を FIM にて評価ことでさらに理解を深める。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
9	事例検討②	授業内容	事例を FIM にて評価ことでさらに理解を深める。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
10	環境因子と生活支援	授業内容	ICF の環境因子としての環境調整の考え方、生活の中の上肢機能
		予習	ICF の内容について
		復習	講義に基づいた環境調整について
11	義肢と ADL・IADL	授業内容	義肢の種類・構造と ADL・IADL 等
		予習	義肢について
		復習	講義内容のまとめ
12	装具と ADL・IADL	授業内容	装具の種類・構造と ADL・IADL 等
		予習	装具について
		復習	講義内容のまとめ
13	福祉用具と ADL・IADL①	授業内容	セルフケアの福祉用具について
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
14	福祉用具と ADL・IADL②	授業内容	家事動作の福祉用具について
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
15	環境調整と ADL・IADL	授業内容	移動目的の福祉用具と環境調整との関係について
		予習	環境調整（主に住宅改修）について
		復習	講義のまとめ

評価法基準	定期試験 100%
教科書	「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版」伊藤利之、鎌倉矩子監修 医学書院
参考書	なし
履修上の注意	事前に教科書の妥当箇所を読んでおくこと。
オフィスアワー	水曜日（12:10～12:50）、3-23 研究室

科目名	身体機能作業療法治療学 I		担当教員	星 克司	
実務経験	臨床経験のほぼ全てにわたり身体障害者の作業療法に関わり、回復期等の医学的リハビリテーションを中心に脳血管障害、頸髄損傷の作業療法を経験してきた。また総合リハビリテーションセンターにおいては、重度障害者の社会復帰、環境調整、復学、復職等の支援にも関わってきた。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>本授業では身体機能の障害をもたらす代表的な中枢神経系の疾患である脳血管障害と頭部外傷における作業療法（評価から治療アプローチの計画立案および実施の過程）について学習する。</p> <p>授業では作業療法の基礎となる治療の枠組みを学び、それぞれの疾患の特性に合わせた評価・治療について、演習形式でその内容の一部を経験する。作業療法の展開は、ICF による考え方にに基づき、対象者の諸側面の全てに着目できるように学習する。また病期（急性期・回復期・生活期）や生活の場（病院・施設・自宅等など）など、多角的視点を持つことを目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系の構造・機能、脳血管障害の病態が理解できること。 2. 脳血管障害・頭部外傷など中枢神経系疾患と作業療法評価の関連が説明できること。 3. 脳血管障害者の代表的な作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。 4. 頭部外傷の代表的な作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。 5. 脳血管障害による心身機能・身体構造と活動・参加の制限の関連を説明できること。

No.	テーマ		内容
1	授業オリエンテーション	授業内容	身体障害における作業療法
		予習	教科書<身体障害>「イントロダクション」「第1章」を熟読すること。
		復習	課題「身体障害における作業療法」ノートを作成すること。
2	身体障害作業療法治療学概論 1	授業内容	身体障害における治療・援助 1
		予習	教科書<身体障害>「第1章 治療学概論」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
3	身体障害作業療法治療学概論 2	授業内容	身体障害における治療・援助 2
		予習	教科書<身体障害>「第1章 治療学概論」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
4	中枢性疾患のリハビリテーション	授業内容	中枢神経疾患、治療、リハビリテーション
		予習	教科書<身体障害>「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
5	脳血管障害の作業療法評価 (1)	授業内容	脳血管障害の作業療法評価 1
		予習	教科書<身体障害>「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
6	脳血管障害の作業療法評価 (2)	授業内容	脳血管障害の作業療法評価 1
		予習	教科書<身体障害>「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく

7	脳血管障害 の作業療法 治療（1）	授業内容	脳血管障害の作業療法治療（1）
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
8	脳血管障害 の作業療法 治療（2）	授業内容	脳血管障害の作業療法治療（2）
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
9	脳血管障害 の作業療法 治療（3）	授業内容	脳血管障害の作業療法治療（3）
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章 1. 脳血管障害」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
10	脳血管障害 の作業療法 の実際	授業内容	脳血管障害の作業療法の実際：事例学習（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	事前に指定した資料を熟読しておくこと。
		復習	授業内容を復習しておく
11	脳血管障害 の作業療法 の実際	授業内容	脳血管障害の作業療法の実際：事例学習（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	事前に指定した資料を熟読しておくこと。
		復習	レポート：事例分析 脳血管障害の作業療法の実際
12	頭部外傷の 作業療法評 価	授業内容	頭部外傷の作業療法治療（1）心身機能障害・身体構造障害
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章Ⅱ頭部外傷」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
13	頭部外傷の 作業療法治 療	授業内容	頭部外傷の作業療法評価（2）活動参加
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章Ⅱ頭部外傷」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく
14	頭部外傷の 作業療法 の実際	授業内容	頭部外傷の作業療法の実際：事例学習
		予習	事前に指定した資料を熟読しておくこと。
		復習	レポート：事例分析 頭部外傷の作業療法の実際
15	中枢性疾患 作業療法ま とめ	授業内容	中枢性疾患作業療法のまとめ
		予習	教科書＜身体障害＞「第2章」を熟読すること。
		復習	授業内容を復習しておく

評価法基準	評価方法は、定期試験、レポート提出により総合的に行う。 ・評価基準は以下の通り配分する。 定期試験 70%、レポート提出 30%
教科書	長崎重信 編集：身体障害作業療法学，メジカルビュー，東京，2015
参考書	福井紈彦 他編：脳卒中最前線 第4版，医歯薬出版，東京，2009 酒井ひとみ 編集：日常生活活動，作業療法全書 改訂第3版，協同医書，東京，2009
履修上の注意	本授業では、授業の予習として、教科書は熟読しておくこと。 中枢神経系の解剖学および循環器系の生理学などすでに学習した科目を復習すること。
オフィスアワー	

科目名	身体機能作業療法治療学実習 I	担当教員	佐藤 淳矢		
実務経験	作業療法士として急性期の身体障害領域において 19 年の臨床経験があります。疾患においては中枢神経疾患をはじめ、神経筋疾患、骨関節疾患、循環器疾患、呼吸器疾患と多岐にわたり関わってきています。また、実際の臨床現場での患者さんとの関わりだけでなく、臨床研究も行ってきています。作業療法に必要な医学的根拠に基づいた実践を伝えていきたいと考えています。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法で多く関わる中枢神経疾患の中心となる脳血管障害について身体機能作業療法治療学 I で学んだ疾患の概要を把握したうえで適切な作業療法評価が円滑かつ実際的に実施できるよう手技や方法を学び、実践する。さらに得られた評価結果から統合解釈、障害構造の把握、問題点の列挙、目標設定、作業療法プログラム立案までの一連の流れを確認したうえで様々な作業療法アプローチの意義や具体的方法を学び、実際に手技を実践していく。
到達目標	①脳血管障害の概要を理解したうえで適切な評価項目を挙げ、円滑に実践できる ②評価結果の統合解釈、ICF で障害構造の把握、問題点列挙、目標設定などをしたうえで適切な作業療法プログラムを立案し、その意義や方法、注意点、問題点との対応などが説明できる ③実際に作業療法プログラムを実践できる

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	脳血管障害においての一連の作業療法過程(身体機能作業療法治療学 I の復習)
		予習	身体機能作業療法治療学 I の内容を復習しておく
		復習	配布資料を再度見直す
2	疾患概要	授業内容	脳血管障害における疾患概要について
		予習	身体機能作業療法治療学 I の内容を復習しておく
		復習	配布資料を再度見直す
3	評価概要 【画像評価 ①】	授業内容	脳血管障害における画像の診かたについて
		予習	事前資料を確認しておく
		復習	配布資料を再度見直す
4	評価概要 【画像評価 ②】	授業内容	脳血管障害における画像の診かたについて
		予習	事前資料を確認しておく
		復習	配布資料を再度見直す
5	評価と介入 方法【運動 障害①】	授業内容	脳血管障害における運動麻痺、筋緊張、反射の検査についての意義、方法の確認、実技指導
		予習	作業療法評価学テキスト 第 2 章 VII 反射検査, IX 筋緊張検査 第 3 章 身体機能評価 I 脳血管障害の評価を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する

6	評価と介入 方法【運動 障害②】	授業内容	脳血管障害における運動障害に対する介入方法(ROM 練習, 上肢機能練習)
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
7	評価と介入 方法【運動 障害③】	授業内容	脳血管障害における運動障害に対する介入方法(上肢機能練習, 手指巧緻動作練習)
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
8	評価と介入 方法【感 覚, 協調性 ①】	授業内容	脳血管障害における感覚検査、協調性検査についての意義、方法の確認、実技指導
		予習	作業療法評価学テキスト 第2章 VI感覚検査, X協調性検査を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
9	評価と介入 方法【感 覚, 協調性 ②】	授業内容	脳血管障害における感覚障害、協調性障害に対する介入方法について
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
10	評価と介入 方法【基本 動作①】	授業内容	脳血管障害における姿勢反射検査についての意義、方法の確認、実技指導
		予習	作業療法評価学テキスト 第2章 VIII姿勢反射検査を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
11	評価と介入 方法【基本 動作②】	授業内容	脳血管障害における基本動作(寝返り, 起き上がり, 起立)に対する介入方法について
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
12	評価と介入 方法【姿 勢】	授業内容	脳血管障害における姿勢(座位姿勢, ポジショニング)に対する介入方法について
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
13	評価と介入 方法【脳神 経】	授業内容	脳血管障害における脳神経検査についての意義、方法の確認、実技指導および介入方法について
		予習	作業療法評価学テキスト 第2章 XI脳神経検査を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
14	評価と介入 方法【日常 生活動作】	授業内容	脳血管障害における日常生活動作について評価の意義、方法の確認、実技指導および介入方法について
		予習	身体障害作業療法学テキスト 疾患別作業療法(中枢神経系)を熟読する
		復習	配布資料を再度見直す 実技内容を実際に再度確認する
15	まとめ	授業内容	総括
		予習	今までの資料を確認しておく
		復習	今までの内容を確認する

評価法基準	評価方法 定期試験 50% レポート 50%
教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学(改訂第2版)(メジカルビュー社)

参考書	<p>作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害(協同医書)</p> <p>標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学(医学書院)</p> <p>病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版(メディックメディア)</p>
履修上の注意	<p>脳血管障害における疾患概要と一連の作業療法過程を理解したうえで評価や治療手技を実践していくこととなるため、身体機能作業療法治療学Ⅰの講義内容を十分理解しておくこと。</p> <p>実技が中心となるため動きやすい服装で受講すること。</p>
オフィスアワー	<p>火曜 (12:10~12:50)、3-24 研究室</p>

科目名	身体機能作業療法治療学Ⅱ		担当教員	坂本 俊夫	
実務経験	担当講師は、大学病院をはじめリハビリテーションセンター、リハビリテーション専門病院にて身体機能領域の対象者に急性期から回復期、維持期、終末期における作業療法実践をした経験を持ちます。本講義においてはこれらの経験を十分に加味した内容を提供する予定です。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>本授業では主として運動器疾患（外傷を含む）における作業療法の治療学を学ぶ。運動器疾患における作業療法（評価から治療アプローチの計画立案および実施の過程）について学習する。</p> <p>授業では作業療法の基礎となる治療の枠組みを学び、それぞれの疾患の特性に合わせた評価・治療について、演習形式でその内容の一部を経験する。作業療法の展開は、ICF による考え方にに基づき、対象者の諸側面の全てに着目できるように学習する。また病期（急性期・回復期・生活期）や生活の場（病院・施設・自宅等）など、多角的視点を持つことを目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の構造・機能、運動器疾患の病態が理解できること。 2. 一般整形外科疾患(骨折等)と作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。 3. 脊髄損傷の代表的な作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。 4. 関節リウマチの代表的な作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。 5. 切断の代表的な作業療法評価・治療の方法を理解し実施できること。

No.	テーマ		内容
1	運動器疾患 に対する作 業療法	授業内容	運動器疾患に対する作業療法治療学概論について
		予習	教科書<身体障害作業療法学>「イントロダクション第1章」を読むこと。
		復習	課題：治療学概論についてノートを作成すること。
2	骨折（1） 橈骨遠位端 骨	授業内容	橈骨遠位端骨折と作業療法：評価と治療の流れについて
		予習	教科書<身体障害作業療法学>「第3章3手の骨折」を読むこと。
		復習	課題：橈骨遠位端骨折の作業療法についてノートを作成すること。
3	骨折（2） 上腕骨近位 端骨折	授業内容	上腕骨近位端骨折と作業療法：評価と治療の流れ
		予習	関連する部位の解剖学、運動学の教科書を読むこと。
		復習	レポート：「骨折の作業療法について」
4	脊髄損傷 （1）	授業内容	脊髄損傷の臨床像とリハビリテーション（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	教科書<臨床につながる整形外科学>「第13章 脊髄損傷」を読むこと。
		復習	レポート：「損傷部位と機能レベルについて」
5	脊髄損傷 （2）	授業内容	脊髄損傷と作業療法：全身状態・身体障害への支援（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	教科書<身体障害作業療法学>「第3章1脊髄損傷」を読むこと。
		復習	課題：全身状態および身体障害への支援についてノートを作成すること。

6	脊髄損傷 (3)	授業内容	脊髄損傷と作業療法：日常生活活動への支援（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章1 脊髄損傷」を読むこと。
		復習	課題：髄節レベルの日常生活支援についてノートを作成すること。
7	脊髄損傷 (4)	授業内容	脊髄損傷と作業療法：社会参加への支援（訪問リハビリテーションを含む）
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章1 脊髄損傷」を読むこと。
		復習	レポート：脊髄損傷の作業療法についてノートを作成すること。
8	関節リウマチ (1)	授業内容	関節リウマチの臨床像とリハビリテーション
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第4章2 関節リウマチ」を読むこと。
		復習	課題：関節リウマチの臨床像と治療についてノートを作成すること。
9	関節リウマチ (2)	授業内容	関節リウマチと作業療法：関節保護とエネルギー保存の原則
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第4章2 関節リウマチ」を読むこと。
		復習	課題：自己の関節保護法の実施記録をノートに記録すること。
10	関節リウマチ (3)	授業内容	関節リウマチと作業療法：関節変形への作業療法技術
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第4章2 関節リウマチ」を読むこと。
		復習	課題：関節変形の機序と作業療法支援についてノートを作成すること。
11	関節リウマチ (4)	授業内容	関節リウマチと作業療法：日常生活活動および余暇活動への支援
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第4章2 関節リウマチ」を読むこと。
		復習	レポート：関節リウマチと作業療法について
12	上肢切断 (1)	授業内容	切断の臨床像とリハビリテーション
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章7 切断」を読むこと。
		復習	課題：切断分類・切断レベルと義肢の特徴についてノートを作成すること。
13	上肢切断 (2)	授業内容	前腕切断および上腕切断の作業療法：作業療法評価について
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章7 切断」を読むこと。
		復習	課題：義手の適合チェック法についてノートを作成すること。
14	上肢切断 (3)	授業内容	前腕切断および上腕切断の作業療法：断端基本動作訓練について
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章7 切断」を読むこと。
		復習	課題：断端基本訓練についてノートを作成すること。
15	上肢切断 (4)	授業内容	前腕切断および上腕切断の作業療法：義手使用訓練について
		予習	教科書＜身体障害作業療法学＞「第3章7 切断」を読むこと。
		復習	レポート：前腕切断と作業療法について

評価法基準	<p>評価方法は、定期試験、課題提出物について行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準は以下の通り配分する。 <p>定期試験 60%、課題提出物 40%</p>
教科書	<p>長崎重信 編集：身体障害作業療法学第3版，メジカルビュー，東京，2022</p> <p>筋骨格障害学 理学療法学科・作業療法学科の整形外科学（コメディカル専門基礎科目シリーズ），理工図書東京，2019</p>
参考書	<p>矢谷 令子監修，身体機能作業療法学 第4版，標準作業療法学 専門分野，医学書院，東京，2021</p>
履修上の注意	<p>本授業では、授業の予習として、教科書および配布資料は熟読しておくこと。</p> <p>解剖学、運動学および整形外科学など、すでに学習した科目を復習すること。</p> <p>評価および治療の演習と並行した講義ため、予習・復習を通して講義内容を演習での実践に活かせるように準備を進めること。（予習時間目安 45分・復習時間目安 45分）</p>
オフィスアワー	<p>月曜（12:10～12:50）、3-10 研究室</p>

科目名	身体機能作業療法治療学実習Ⅱ	担当教員	井川 大樹		
実務経験	回復期リハビリテーション病院で身体障害・老年期障害のリハビリテーションを経験し、その後、訪問看護ステーションで生活維持期におけるリハビリテーションに携わりました。対象疾患は、脳血管障害・整形疾患・呼吸器疾患・神経難病・小児疾患など、幅広い疾患の患者さんへの作業療法を行いました。学生さんが、自分の力で考えて、一人一人の患者さんに合わせた作業療法を行えるよう、知識と技術を伝えていきたいと思います。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	本授業では、身体機能作業療法治療学Ⅱの講義・演習を踏まえて、はじめに運動器疾患および傷害に対する身体機能作業療法治療学実習Ⅱの概要について説明する。そして、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案したうえで、その内容を実習体験する。また、その実習体験内容を発表、フィードバックすることで次の実習体験に活用する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.運動器疾患および外傷に対する作業療法のまとめ、統合と解釈、考察が立案できる。 2.運動器疾患および外傷に対する作業療法の目標設定、治療立案ができる。 3.運動器疾患および外傷に対する作業療法計画を実施することができる。 4.運動器疾患および外傷に対する作業療法の発表および事例検討ができる。

No.	テーマ		内容
1	概要	授業内容	運動器疾患に対する作業療法治療学の概論について
		予習	なし
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
2	骨折①	授業内容	骨折症例の作業療法評価のまとめ、統合と解釈、考察
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
3	骨折②	授業内容	骨折症例の作業療法目標設定、治療立案、計画
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
4	骨折③	授業内容	骨折症例の発表および事例検討
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
5	関節 リウマチ①	授業内容	関節リウマチ症例の作業療法評価のまとめ、統合と解釈、考察
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
6	関節 リウマチ②	授業内容	関節リウマチ症例の作業療法目標設定、治療立案、計画
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する

7	関節 リウマチ③	授業内容	関節リウマチ症例の発表および事例検討
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
8	手の末梢神 経損傷①	授業内容	手の末梢神経損傷症例の作業療法評価のまとめ、統合と解釈、考察
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
9	手の末梢神 経損傷②	授業内容	手の末梢神経損傷症例の作業療法目標設定、治療立案、計画
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
10	手の末梢神 経損傷③	授業内容	手の末梢神経損傷症例の発表および事例検討
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
11	脊髄損傷①	授業内容	脊髄損傷症例の作業療法評価のまとめ、統合と解釈、考察
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
12	脊髄損傷②	授業内容	脊髄損傷症例の作業療法目標設定、治療立案、計画
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
13	脊髄損傷③	授業内容	脊髄損傷症例の事例検討
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
14	切断①	授業内容	切断症例の作業療法評価のまとめ、統合と解釈、考察、目標設定、治療立案、計画
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
15	切断②	授業内容	切断症例の発表および事例検討
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する

評価法基準	定期試験 (50%)、レポート (50%)
教科書	「作業療法学ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 (改定第2版)」長崎重信 メジカルレビュー社 2015
参考書	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版」矢谷令子監修, 山口昇/玉垣努編集 医学書院 2016 「標準整形外科学 第13版」中村利孝 医学書院 2017
履修上の注意	実習、演習に臨むにあたり、作業療法学生として相応しい身なり、態度で参加すること。実習で必要な知識と技能の復習は各自が主体的に行うこと。実習および演習、発表や討論には能動的に参加し、知識・技能・態度の側面について振り返りを行うこと。
オフィスアワー	水曜 (12:10~13:00)、3-21 研究室

科目名	身体機能作業療法治療学Ⅲ		担当教員	坂本 俊夫	
実務経験	担当講師は、大学病院をはじめリハビリテーションセンター、リハビリテーション専門病院にて身体機能領域の対象者に急性期から回復期、維持期、終末期における作業療法実践をした経験を持ちます。本講義においてはこれらの経験を十分に加味した内容を提供する予定です。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法の対象のうち、主として内部疾患（循環器・呼吸器など）及びその他の疾患・疾病・外傷等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることができることを目標とする。</p> <p>なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といった ICF による考え方や急性期・回復期・生活期などの継時的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点を含む内容とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部障害の範囲と特徴、作業療法の対象を理解する。 2. 内部障害者に対する作業療法の流れ（評価から治療の過程など）を理解する。 3. 内部障害者に対する MTDLP について理解する。 4. 喀痰吸引に関連した基本手技を理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション、内部障害の範囲と特徴、作業療法の対象
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
2	内部障害に対する作業療法の流れ	授業内容	内部障害者に対する作業療法の概要
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
3	循環器疾患の作業療法の流れ	授業内容	循環器疾患による対象者への作業療法
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
4	呼吸器疾患の作業療法の流れ	授業内容	呼吸器疾患による対象者への作業療法、喀痰吸引とその関連事項（管理と手順）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
5	代謝疾患等の作業療法の流れ	授業内容	代謝疾患等による対象者への作業療法
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
6	重複疾患の作業療法の流れ	授業内容	重複疾患による対象者への作業療法
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする

7	循環器疾患	授業内容	内部障害の対象者に対する MTDLP の概要（循環器疾患）
	作業療法の	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	実際	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
8	呼吸器疾患	授業内容	内部障害の対象者への作業療法（MTDLP）①（呼吸器疾患）
	作業療法の	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	実際	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
9	代謝疾患等	授業内容	内部障害の対象者への作業療法（MTDLP）②（代謝疾患等）
	作業療法の	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	実際	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
10	がん対象者	授業内容	がんの対象者への作業療法①（周術期を中心に）
	への作業療	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	法の流れ①	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
11	がん対象者	授業内容	がんの対象者への作業療法②（寛解期を中心に）※訪問リハビリテーションを含む
	への作業療	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	法の流れ②	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
12	神経難病の	授業内容	神経難病（主にパーキンソン病等）の対象者への作業療法 ※訪問リハビリテーションを含む
	作業療法の	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	流れ	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
13	神経難病の	授業内容	神経難病（主に ALS 等）の対象者への作業療法 ※訪問リハビリテーションを含む
	作業療法の	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	流れ	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
14	終末期対象	授業内容	終末期の対象者への作業療法
	者の作業療	予習	テキストの該当部分を一読のこと
	法の流れ	復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする
15	まとめ	授業内容	内部障害の対象者への作業療法（全体のまとめ）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする

評価法基準	定期試験：60%、課題提出物40%
教科書	長崎重信 編集：身体障害作業療法学第3版，メジカルビュー，東京，2022
参考書	矢谷 令子監修，身体機能作業療法学 第4版，標準作業療法学 専門分野，医学書院，東京，2021 上月正博 編著：新編内部障害のリハビリテーション第2版，医歯薬出版社
履修上の注意	呼吸循環などは生理学を、運動負荷については運動学や運動生理学の内容を復習しておくこと
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、3-10 研究室

科目名	身体機能作業療法治療学実習Ⅲ		担当教員	佐藤 淳矢、井川 大樹	
実務経験	<p>(佐藤)</p> <p>作業療法士として急性期の身体障害領域において19年の臨床経験があります。疾患においては中枢神経疾患をはじめ、神経筋疾患、骨関節疾患、循環器疾患、呼吸器疾患と多岐にわたり関わってきています。また、実際の臨床現場での患者さんとの関わりだけでなく、臨床研究も行ってきています。作業療法に必要な医学的根拠に基づいた実践を伝えていきたいと考えています。</p> <p>(井川)</p> <p>回復期リハビリテーション病院で身体障害・老年期障害のリハビリテーションを経験し、その後、訪問看護ステーションで生活維持期におけるリハビリテーションに携わりました。対象疾患は、脳血管障害・整形疾患・呼吸器疾患・神経難病・小児疾患など、幅広い疾患の患者さんへの作業療法を行いました。学生さんが、自分の力で考えて、一人一人の患者さんに合わせた作業療法を行えるよう、知識と技術を伝えていきたいと思います。</p>				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>内部障害の作業療法の概要を理解し、代表的な疾患に対する作業療法実践過程を理解する。対象疾患は、呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌代謝疾患、悪性腫瘍等である。これらの対象疾患をもつ対象者に対する作業療法について、模擬事例をもとに評価から治療・指導・援助計画までの一連の流れを立案し、その内容を実習体験する。その実習内容を発表し、学生および教員からのフィードバックと討論を通じて、次の実習体験に活用できるようリフレクションを行う。また、他の学生の発表内容を共有することで幅広く作業療法の流れを理解し、問題解決していく能力を向上させることを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に応じた評価項目および評価方法を選択することができる 2. 模擬事例に対して、面接、観察、検査測定を実施し、実施上の留意点に気づくことができる 3. 評価結果を ICF の概念を活用して整理し、対象者の全体像を把握し、利点と問題点を抽出することができる 4. 対象者のニーズや状態に応じた適切な作業療法目標を設定し、その根拠を述べるることができる 5. 作業療法目標に応じた作業療法計画を立案することができる 7. 記録・報告ができる 8. 計画に基づいてプログラムを実施し、振り返りにより改善点を見出し、解決策を考えることができる

No.	テーマ	内容	
1	内部障害とは	授業内容	オリエンテーション、基礎知識の確認
		予習	なし
		復習	実習内容のまとめ
2	呼吸器疾患に対する作業療法	授業内容	呼吸器疾患に対する基礎知識
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する

3	呼吸器疾患 に対する作 業療法②	授業内容	呼吸器疾患患者に対する作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
4	SCD に対す る作業療法	授業内容	SCD に対する基礎および作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
5	ALS に対す る作業療法 の実際	授業内容	ALS に対する基礎および作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
6	循環器疾患 に対する作 業療法	授業内容	循環器疾患患者に対する基礎知識
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
7	循環器に対 する作業療 法②	授業内容	循環器患者に対する作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
8	循環器疾患 に対する作 業療法③	授業内容	循環器患者に対する作業療法②
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
9	代謝疾患等 に対する作 業療法	授業内容	代謝疾患患者に対する基礎と作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
10	パーキンソ ン病に対す る作業療法	授業内容	パーキンソン病患者に対する基礎知識
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
11	パーキンソ ン病に対す る作業療法 ②	授業内容	パーキンソン病患者に対する作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
12	重複疾患に 対する作業 療法	授業内容	重複疾患患者に対する基礎と作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
13	がんに対す る作業療法	授業内容	がん患者に対する基礎と作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する
14	終末期対象 者に対する 作業療法	授業内容	終末期対象者に対する基礎と作業療法
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する

15	全体のまとめ	授業内容	内部障害の対象者に対する作業療法(まとめ)
		予習	テキスト該当部分を一読する
		復習	テキストおよび配布資料を再度確認する

評価法基準	定期試験 (50%)、レポート (50%)
教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学(改訂第2版)(メジカルビュー社)
参考書	矢谷令子監修, 山口昇/玉垣努編集: 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版, 医学書院, 2016. 上月正博 編著; 新編内部障害のリハビリテーション第2版, 医歯薬出版社
履修上の注意	実習、演習に臨むにあたり、作業療法学生として相応しい身なり、態度で参加すること。実習で必要な知識と技能の復習は各自が主体的に行うこと。実習および演習、発表や討論には能動的に参加し、知識・技能・態度の側面について振り返りを行うこと。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	精神機能作業療法治療学		担当教員	埜崎 都代子	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>精神科作業療法を実施するために必要な一連の知識について学習する。</p> <p>① 目標設定、治療計画立案、治療実施のため、作業療法の治療・援助構造とその設定、治療・援助の場、治療的役割、治療技術、対応などについて学習する。</p> <p>② 疾患別の作業療法治療の特徴、各回復過程における作業療法評価、治療、援助の実際を学習する。</p> <p>③ 精神障害を有する対象者が地域で主体的な生活者として過ごすための視点・他職種連携・各種社会資源・制度利用の選択などについて学習する、</p> <p>④ 対象者の今後の方向性について多角的に検討し、自らの考えを述べられることも目標とする。</p>
到達目標	<p>1. 精神機能作業療法の治療構造・援助構造、その設定を説明できる。</p> <p>2. 精神機能作業療法の治療的役割を説明できる。</p> <p>3. 作業療法評価による統合と解釈、目標設定、作業療法治療計画立案、治療実施の一連の流れについて説明できる。</p> <p>4. 疾患別、回復過程における作業療法治療の要点を説明できる。</p> <p>5. 疾患別作業療法の事例について、その評価結果から目標を設定し、治療計画を立案できる。</p> <p>6. 精神疾患を有する対象者が利用できる社会資源・制度について説明できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	精神機能 作業療法 治療学総 論	授業内容	精神機能作業療法の治療・援助構造、治療・援助の場、治療的役割を学ぶ。
		予習	精神機能作業療法評価学で学んだ評価のプロセス、各評価内容、方法などを復習する。
		復習	治療・援助構造、治療の場、役割についてまとめることを通して理解する。
2	精神機能 作業療法 治療学総 論 2	授業内容	精神機能作業療法の治療・援助構造、治療・援助の場、治療的役割を学ぶ。
		予習	精神機能作業療法評価学で学んだ評価のプロセス、各評価内容、方法などを復習する。
		復習	治療・援助構造、治療の場、役割についてまとめることを通して理解する。
3	てんかん	授業内容	てんかんの作業療法評価、治療、対応、留意点について学ぶ。
		予習	精神医学で学んだてんかんの疾患特徴と基本的障害像について復習する。
		復習	てんかんの作業療法評価、治療、対応、留意点をまとめる。
4	依存症候 群	授業内容	精神作用物質使用による精神および行動障害の作業療法評価、治療、対応、留意点を学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ依存症候群の特徴と基本的障害像について復習する。
		復習	依存症候群の作業療法評価、治療、対応、留意点をまとめる。

5	統合失調症 1	授業内容	統合失調症の症状、各回復過程における評価の視点、治療の流れを学ぶ。
		予習	統合失調症の症状、回復過程、作業療法評価について復習する。
		復習	評価から治療への流れについて理解を深めるためにまとめる。
6	統合失調症 2	授業内容	統合失調症の評価事例を通して、目標設定、治療計画立案をまとめる。
		予習	2回、3回で学んだ統合失調症の作業療法について復習する。
		復習	統合失調症の作業療法の評価から治療計画立案までの流れを復習する。
7	気分障害 1	授業内容	気分障害の疾患特性、対応、治療構造の設定、作業選択について学ぶ。
		予習	気分障害の症状、回復過程、作業療法評価について復習する。
		復習	気分障害の作業療法について理解を深めるためにまとめる。
8	気分障害 2	授業内容	気分障害の評価事例を通して、目標設定、治療計画案をまとめる。
		予習	5回で学んだ気分障害の作業療法について復習する。
		復習	気分障害の作業療法の評価から治療計画立案までの流れを復習する。
9	神経症性障害	授業内容	不安障害、強迫性障害、解離性障害、転換性障害、身体表現性障害の作業療法評価、治療、対応、留意点について学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ神経症の各疾患の基本的障害像について復習する。
		復習	神経症性障害の作業療法の評価、治療、対応、留意点をまとめる。
10	人格障害	授業内容	人格障害の作業療法評価、治療、対応、留意点について学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ人格障害の疾患特徴と基本的障害像について復習する。
		復習	人格障害の作業療法評価、治療、留意点をまとめる。
11	摂食障害	授業内容	摂食障害の作業療法評価、治療、対応、留意点について学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ摂食障害の疾患特徴と基本的障害像について復習する。
		復習	摂食障害の作業療法評価、治療、対応、留意点についてまとめる。
12	成人の自閉症スペクトラム	授業内容	成人の自閉症スペクトラムに対して、そのライフステージに応じた評価、目標設定と治療的関わり、支援方法について学ぶ。
		予習	精神医学で学んだ自閉症スペクトラムの特徴と状態像について復習する。
		復習	成人の自閉症スペクトラムの特徴の理解と支援方法をまとめる。
13	社会資源・制度	授業内容	精神障害者が利用できる各種社会資源・制度について学ぶ。
		予習	社会福祉関連の講義で学んだ社会資源・制度について復習する。
		復習	現段階の社会資源・福祉制度についてその内容をまとめる。
14	病院における作業療法	授業内容	精神科病院における病棟作業療法、外来作業療法、デイケアなどの各部門の機能と役割、プログラム内容、他職種連携における作業療法士の役割について学ぶ。
		予習	精神科病院における作業療法について、教科書などを用いて調べる。
		復習	精神科の病院における作業療法の機能や役割、プログラム、他職種連携やチームアプローチの在り方などを検討してみる。
15	地域における作業療法	授業内容	精神障害を有する対象者に対して、地域における支援（生活支援、就労・定着支援など）の実際と今後作業療法士に求められる役割について学ぶ。
		予習	地域における精神障害分野の作業療法士の役割について調べる。
		復習	現状を知ることにより、今後地域における精神障害分野の作業療法士としての可能性について検討し、その私見をまとめる。

評価法基準	評価法：定期試験 80%、レポート課題 20%
教科書・参考書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版 メディカルビュー社 標準理学療法・作業療法 精神医学 第4版改訂版 医学書院 昼田源四郎 統合失調症患者の行動特性 第3版 金剛出版
参考書	その他参考文献、参考資料においては、適宜紹介、または配布する。
履修上の注意	精神症状などを含めた専門用語、各疾患の特徴については教科書、参考書などを利用して自ら調べ理解するように努めること。疾患別の作業療法の評価・治療、関わり方の基本を理解し、その上でライフステージに沿った地域での生活支援の視点、情報も併せ持つことを期待する。
オフィスアワー	月曜（12:10～12:50）、5-9 研究室

科目名	精神機能作業療法治療学実習	担当教員	齋藤 久恵、埜崎 都代子		
実務経験	大学病院の精神科医局に所属し、様々な精神疾患を抱える主に若年層の方々への急性期の作業療法、多職種連携を実施することで、退院促進支援、復学・復職・就労支援などの実践、経験を重ねてきた。その後、精神科病院でのデイケア立ち上げ、クリニックにおいて就労支援事業所の立ち上げに携わり、現在はクリニックのデイケア、併設の就労支援事業所に勤務し、成人の発達障害・精神障害者に対しての生活支援、就労支援を実践している。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>本科目は、評価学と治療学で学習した知識の復習・定着および臨床実習で生かせる実践力の向上を目的とし、以下①～③を学習する。</p> <p>①模擬症例を通じて「観察」「面接」「情報収集」「リーズニング」「治療・援助計画の立案」をグループワークで事例検討して発表を行うことにより、多角的な価値観を学び、対象者の主体性と生活支援、生活構築への多面的な介入方法を検討する。</p> <p>②精神科系臨床の概要や、病院・施設などで必要とされる他職種との情報共有と連携、報告・発表・グループ運営を行うための技術も身に付ける。</p> <p>③基本的知識の復習と定着をはかる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価学で学んだ知識を模擬症例に用いることができ、その目的を説明することができる。 ・評価結果のデータから模擬症例の強みと問題点を焦点化することができる。 ・評価学、治療学で学んだ知識から、対象者への生活、思いを理解した上で治療、援助方法を想起し、列挙することができる。 ・上記の内容について資料を作成し、他者にその内容を適切に説明することができる。 ・基礎知識を復習し、体得できる。

No.	テーマ		内容
1	概要	授業内容	オリエンテーション「本授業の概要と資料作成、発表方法について」
		予習	なし
		復習	実習内容のまとめ
2	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅰ「統合失調症 長期入院事例」症例検討、評価（グループワーク）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
3	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅰ「統合失調症 長期入院事例」焦点化、目標設定（個人課題） 模擬症例Ⅱ「統合失調症 長期入院事例」治療計画立案（グループワーク）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
4	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅰ「統合失調症 長期入院事例」発表（全体）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

5	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅱ「統合失調症 急性期事例」症例検討、評価（グループワーク）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
6	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅱ「統合失調症 急性期事例」焦点化、目標・治療計画（個人課題）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
7	統合失調症	授業内容	模擬症例Ⅱ「統合失調症 急性期事例」発表（全体）
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
8	作業療法実技の計画と実施①	授業内容	各種作業指導・レクリエーション実施について、小グループで企画・運営の計画をたて準備する。
		予習	関連授業の復習をする。
		復習	発表・実施内容の確認
9	作業療法実技の計画と実施②	授業内容	各グループで計画した作業・レクリエーションについて実際に発表・実施し、学生相互の理解と実践力を高める。
		予習	発表・実施内容の確認
		復習	作業・レクリエーションの実践について気づいたことをまとめる
10	各種疾患の基礎知識の復習	授業内容	気分障害について基礎知識を復習する。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	授業内容の復習
11	各種疾患の基礎知識の復習①	授業内容	アルコール・薬物依存症について基礎知識を復習する。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	授業内容の復習
12	各種疾患の基礎知識の復習② b	授業内容	神経症・人格障害・摂食障害について基礎知識を復習する。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	授業内容の復習
13	各種疾患の基礎知識の復習③	授業内容	知的障害・発達障害について基礎知識を復習する。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	授業内容の復習
14	各種疾患の基礎知識の復習④	授業内容	てんかん・認知症について基礎知識を復習する。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	実授業内容の復習
15	各種疾患の基礎知識の復習⑤	授業内容	10~14回授業の復習と定着の確認およびまとめをする。
		予習	関連授業の資料の整理と復習
		復習	全授業内容の復習

評価法基準	<p>課題提出 60% (各模擬症例における焦点化・目標設定のレポート課題、および各種疾患の知識の整理と復習レポートなど)</p> <p>発表・運営実施 40% (課題発表、作業・レクリエーションの運営実施など)</p>
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 2. 作業療法学 ゴールド・マスターズ・テキスト 精神障害作業療法学 メジカルビュー社 3. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院 4. 配布資料
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験問題解説 2022 クエスチョンバンク 作業療法士専門問題 第13集：編集 医学情報科学研究所：発行 メディックメディア 2. 国家試験問題解説 2022 クエスチョンバンク 作業療法士共通問題 第14集：編集 医学情報科学研究所：発行 メディックメディア
履修上の注意	<p>授業内での演習が授業の主要部分を占めるため、自発的参画が期待される。また、資料作成、課題の提出・運営・実施、症例検討の発表など、規定の課題を随時行っていくことが期待される。</p>
オフィスアワー	<p>埜崎：月曜（16:10～16:50）、5-9 研究室</p> <p>齋藤：水曜（12:10～12:50）、3-16 研究室</p>

科目名	発達障害作業療法治療学		担当教員	佐々木 清子	
実務経験	小児専門の病院やで市区町村の発達支援センターの作業療法、通常学校、特別支援学級、保育園への訪問指導、家庭訪問指導を行ってききましたので、発達領域の作業療法、全般について即戦力となれる力を身に付けられるように進めます。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	胎児期、新生児期から児童・少年・青年期等の時期の疾患に対する作業療法の計画立案・治療とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を経験し、理解を深める。作業療法の計画立案・治療は、心身機能・身体構造、活動・参加や環境因子や個人因子といった ICF による考え方や急性期・回復期・生活期などの継時的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点を含む内容とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害領域の主な疾患の作業療法の実際を学び、理解できる。 ・事例を通して発達段階や疾患の特徴を踏まえた評価および支援目標や内容を説明できる。 ・ICF の観点から治療目標をあげ、治療プログラムを立案できる。

No.	テーマ		内容
1	発達障害領域の作業療法の理論	授業内容	発達障害の治療概念、枠組み、理論、評価—治療過程を理解する。
		予習	教科書の該当を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
2	発達障害児の作業療法 1	授業内容	学習障害児、自閉症スペクトラム症等の特徴を知り作業療法の実際を学ぶ。
		予習	教科書の該当を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
3	発達障害児の作業療法 2	授業内容	感覚運動遊具を分析し、対象疾患の特徴を学ぶ。
		予習	自分が体験した屋外での運動遊びをあげておく
		復習	復習ワークシートを行う
4	ダウン症への作業療法の実際	授業内容	ダウン症児の特徴と作業療法の実際を、ビデオ視聴を通して学ぶ。
		予習	ダウン症について調べておく
		復習	復習ワークシートを行う
5	知的障害児の作業療法の実際	授業内容	事例を通して上肢操作・知的発達を促す活動分析を行う。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく。
		復習	復習ワークシートを行う
6	整形外科疾患への作業療法の実際 1	授業内容	2 分脊椎症児の特徴と作業療法の実際を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく。
		復習	復習ワークシートを行う
7	整形外科疾患への作業療法の実際 2	授業内容	筋ジストロフィー症児の特徴と作業療法の実際を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく。
		復習	復習ワークシートを行う

8	身体機能障害への作業療法の実際 1	授業内容	姿勢介助方法を学習する(姿勢変換、移乗動作介助)。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
9	身体機能障害への作業療法の実際 2	授業内容	姿勢の特徴と分析し、上肢機能を促す姿勢介助方法を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
10	身体機能障害への作業療法の実際 3	授業内容	玩具を作成し活動を分析し、運動機能障害への遊びの治療的活用を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
11	摂食機能障害に対する作業療法の実際	授業内容	摂食機能が困難な疾患を学ぶ。摂食介助方法を学ぶ。
		予習	教科書の該当箇所を読んでおく
		復習	復習ワークシートを行う
12	脳性麻痺への作業療法の実際 1	授業内容	痙直型四肢麻痺児・両麻痺児の特徴と作業療法の実際を学ぶ。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	学習計画の見直し
		復習	復習ワークシートを行う
13	脳性麻痺への作業療法の実際 2	授業内容	不随運動型・低緊張型の特徴と作業療法の実際を学ぶ。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	学習計画の見直し
		復習	復習ワークシートを行う
14	脳性麻痺への作業療法の実際 3	授業内容	痙直型片麻痺児と重症心身障害児・者の特徴と作業療法の支援内容の実際を知る。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	学習計画の見直し
		復習	復習ワークシートを行う
15	重症心身障害児・者の作業療法の実際	授業内容	重症心身障害児・者の作業療法の実際を、事例を通して学ぶ。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	学習計画の見直し
		復習	復習ワークシートを行う

評価法基準	筆記試験(90%) ・ レポート提出(10%)
教科書	「イラストでわかる発達障害の作業療法」上杉雅之監修、辛島千恵子編集
参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	授業の前後に受け付ける

科目名	発達障害作業療法治療学実習		担当教員	佐々木 清子、畠山 久司	
実務経験	<p>(佐々木)</p> <p>小児専門の病院や市区町村の発達支援センターの作業療法、通常学校、特別支援学級、保育園への訪問指導、家庭訪問指導を行って来ましたので、発達領域の作業療法、全般について即戦力となれる力を身に付けられるように進めます。</p> <p>(畠山)</p> <p>私は、療育センター、児童発達支援、放課後等デイサービス、教育センター、保育園や幼稚園への地域巡回、特別支援学校外部専門家など、子どもを専門に作業療法を実施してきました。対象としてきた疾患も、肢体不自由、発達障害、知的障害、難病など、多岐に渡っています。本実習を通じて、子どもを評価し、治療を行うという作業療法の一連のプロセスの理解を深めていきます。</p>				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	「発達障害作業療法治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通して計画を立案したうえで、その内容を実習体験する。また、その実習体験を発表、フィードバックすることで、次の実習体験に活用する。なお、他者の発表内容から幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して問題解決していく能力を向上させる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の場面の中で、発達障害を持つ子どもの観察と評価ができる。 ・実際の場面で、治療場を設定し、実践できる。 ・幅広い疾患を観察評価し治療の流れを理解し、ケースについて治療プログラムまで報告書を作成できる。

No.	テーマ		内容
1	企画書作成に向けてのオリエンテーション	授業内容	発達障害の評価—治療過程の確認企画書作成に必要な内容、手順と様式、機器の貸し出し方法と予算請求方法と期限について説明。
		予習	なし
		復習	実習内容のまとめ
2	障害者の方の情報提供	授業内容	障害者の方の情報提供、対象者の動画を見ながら、実習前に対象者について観察評価を行う。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
3	企画書の作成 1	授業内容	グループ討議を行う。内容は、発達障害の評価—治療過程の確認、企画書作成に必要な内容、手順と様式、機器の貸し出しと予算請求に関して作成、動画から観察された情報から、実習時に確認する評価項目を列挙しまとめ、実習時の評価方法を確認する。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ

4	企画書の作成2	授業内容	発達障害の評価—治療過程の確認、企画書作成に必要な内容、手順と様式、機器の貸し出しと予算請求に関して作成、動画から観察された情報から、実習時に確認する評価項目を列挙する。評価方法を確認する。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
5	企画書のフィードバック	授業内容	提出した企画書について教員よりフィードバックを受ける。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
6	学内実習のシミュレーション1	授業内容	提出した企画書に基づき、模擬的に実習を行い、教員よりフィードバックを受ける。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
7	学内実習のシミュレーション2	授業内容	提出した企画書に基づき、模擬的に実習を行い、教員よりフィードバックを受ける。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
8	学内実習のシミュレーション3	授業内容	助言を受け提出した企画書に基づき、模擬的に実習を行い、教員よりフィードバックを受ける。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
9	学内実習のシミュレーション4	授業内容	助言を受け提出した企画書に基づき、模擬的に実習を行い、教員よりフィードバックを受ける。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
10	学内実習1(障害者の方を招いて)	授業内容	企画書にそって校内実習(1)担当患者以外は、観察評価を行う。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
11	学内実習2(障害者の方を招いて)	授業内容	企画書にそって校内実習(2)担当患者以外は、観察評価を行う。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
12	情報の共有化・レポート作成に向けての指導	授業内容	学内実習のまとめと情報の共有化を行う。 評価項目をまとめ、問題点を列挙する方法、レポート作成のポイントを説明する。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
13	グループ討議	授業内容	担当患者に関してICFに基づいて、評価内容、評価のまとめと考察、問題点、目標、治療プログラムの立案を行う。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ

14	グループ討 議	授業内容	担当患者に関して ICF に基づいて、評価内容、評価のまとめと考察、問題点、目標、治療プログラムの立案を行う。
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
15	発表	授業内容	症例発表を行う
		予習	学習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ

評価法基準	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内活動の関与状況：10 パーセント ・ケースの観察・評価状況：20 パーセント ・観察評価のためのレポート作成：10 パーセント ・担当ケースのレポート作成：60 パーセント
教科書	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害第6巻：社団法人日本作業療法協会監修、協同医書出版、2010. ・Eva Bower 著、上杉 雅之訳：脳性麻痺児の家庭療育 原著第4版：医学書院、2014. ・土田玲子監修、石井考弘編、岡本武巳編：感覚統合QA 第2版：協同医書出版、2013. ・陣内一保著：子どものリハビリテーション医学：医学書院、2008. ・神作一実編：作業療法学 ゴールドマスターテキスト発達障害作業療法学 改訂第2版、メジカルビュー社、2015. ・東嶋美佐子編：摂食・嚥下障害への作業療法アプローチ、医歯薬出版株式会社、2015.
履修上の注意	実習中は、服装は動きやすいものにし、髪型に注意し、髪は束ねるなど注意する。
オフィスアワー	授業の前後に受け付ける

科目名	高齢期作業療法治療学	担当教員	秋元 美穂		
実務経験	急性期病院における作業療法から、介護老人保健施設の入所とデイケア、特別養護老人ホームの入所とデイサービス、有料老人ホーム、グループホーム、訪問リハビリテーション、障害者支援施設とこれまで様々なサービス形態の現場を経験しています。一人の患者が病気を発症しその後地域で生活するまでを各サービスの特徴と連携を考え、家族や地域を巻き込んだ作業療法について学生と一緒に考える教育を行いたいと思います。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	我が国における高齢者を取り巻く環境と加齢によって起こりうる疾患の特徴を理解する。高齢期の認知機能障害の中でも代表的な疾患を中心に、理解し評価方法の提案と具体的な予防治療学や作業療法を提案・実践できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の疾患や心身機能について説明できる 2. 高齢期の認知機能障害についての評価を理解し、説明できる 3. 高齢期の認知機能障害に対する治療と治療計画の立案、具体的な援助方法を提案できる 4. 1～3 までの内容を実践できる

No.	テーマ		内容
1	高齢期の概論	授業内容	高齢期のライフスタイルについて理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
2	高齢期の疾患と認知機能 1	授業内容	高齢期に起こりやすい疾患（廃用症候群）の特徴と認知機能について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
3	高齢期の疾患と認知機能 2	授業内容	高齢期に起こりやすい疾患（整形疾患）の特徴と認知機能について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
4	高齢期の疾患と認知機能 3	授業内容	高齢期に起こりやすい疾患（中枢神経疾患）の特徴と認知機能について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
5	高齢期の疾患と認知機能 4	授業内容	高齢期に起こりやすい疾患（認知症①）の特徴と認知機能について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
6	高齢期の疾患と認知機能 5	授業内容	高齢期に起こりやすい疾患（認知症②）の特徴と認知機能について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。

7	認知機能障害の評価1	授業内容	認知機能障害における評価について理解し、実践する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
8	認知機能障害の評価2	授業内容	認知症に対する作業療法と事例検討
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
9	認知機能障害の治療1	授業内容	高齢者のリスク管理について理解する
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
10	認知機能障害の治療2	授業内容	整形疾患に対する作業療法と事例検討
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
11	認知機能障害の治療3	授業内容	健康寿命の延伸（廃用症候群に対する作業療法）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
12	認知機能障害の治療4	授業内容	健康寿命の延伸（ロコモティブシンドロームに対する作業療法）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
13	認知機能障害の治療5	授業内容	健康寿命の延伸（フレイルに対する作業療法）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
14	認知機能障害の治療6	授業内容	健康寿命の延伸（集団活動と作業療法）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。
15	まとめ	授業内容	健康寿命の延伸（ICFの活動・参加と作業療法）
		予習	テキストの該当部分を一読のこと
		復習	学生自身で講義内容の振り返りとまとめをする。

評価法基準	評価：レポート100% 基準：課題レポートは文献の写しではなく、自分の考えを述べたものであること。
教科書	「高齢期領域の作業療法 第2版」山田孝監修 中央法規 2016年
参考書	「認知症の作業療法第2版」ソーシャルインクルージョンをめざして 小川・竹田編 医歯薬出版 2016年 「標準作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版」 大内尉義編 2020年
履修上の注意	2学年で受講する各評価法の理解が必要
オフィスアワー	水曜（12:10～12:50）、3-19 研究室

科目名	高齢期作業療法治療学実習	担当教員	秋元 美穂		
実務経験	急性期病院における作業療法から、介護老人保健施設の入所とデイケア、特別養護老人ホームの入所とデイサービス、有料老人ホーム、グループホーム、訪問リハビリテーション、障害者支援施設とこれまで様々なサービス形態の現場を経験しています。一人の患者が病気を発症しその後地域で生活するまでを各サービスの特徴と連携を考え、家族や地域を巻き込んだ作業療法について学生と一緒に考える教育を行いたいと思います。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	高齢者を取り巻く現状を把握し、加齢による心身機能面の低下及び、高齢期分野でよくみられる疾患についての基礎知識をつける。また、高齢者のリハビリテーションで行う ICF の視点に基づいたアセスメント、多職種協働でのカンファレンス、プログラムの立案、実際の作業療法と生活リハビリの提案までの一連の流れを理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く現状と基礎疾患について理解する 2. 認知症高齢者を理解し、多職種が行うケアについて理解する 3. 高齢期における作業療法の役割と具体的なアプローチを理解する。 4. 高齢期における報酬も含めた作業療法士としての仕事をイメージできる

No.	テーマ		内容
1	高齢期のリハビリテーション：総論	授業内容	高齢者を取り巻く現状、高齢者の社会制度、リハビリテーションにおける報酬について理解する
		予習	なし
		復習	実習内容の振り返り
2	高齢期における疾患の特徴	授業内容	一般高齢者の加齢による変化と高齢期の代表的な疾患を理解する 高齢期の特殊な疾患を理解する
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
3	認知症ケアに必要な基礎知識	授業内容	見当識、近似記憶障害、実行機能障害、こだわり等、認知機能障害を理解する BPSD を理解する
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
4	認知症ケアの実際	授業内容	経過に伴う BPSD のケア・認知症患者への環境調整と福祉用具の活用
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
5	身体合併症への対応	授業内容	認知症に合併しやすい病態と内科系、外科・脳神経系外科、整形外科疾患に対するケアを理解する
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

6	認知症のリハビリテーション1	授業内容	高齢期における評価方法について 精神機能面評価 高齢期における評価方法について 身体機能面評価
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
7	認知症のリハビリテーション2	授業内容	高齢期における評価方法について ADL・IADL 評価
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
8	認知症のリハビリテーション3	授業内容	高齢期における作業療法の目標設定について
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
9	認知症のリハビリテーション4	授業内容	高齢期における作業療法の治療計画について 高齢期における生活リハビリの提案について
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
10	個別リハの基礎知識	授業内容	高齢期の個別リハビリテーションについて
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
11	集団リハの基礎知識	授業内容	高齢期の個別リハビリテーションについて
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
12	個別リハの実際	授業内容	医療保険下（急性期・回復期等）での実際の個別リハビリテーション 介護保険下（自宅・施設等）での実際のリハビリテーション
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
13	集団リハの実際	授業内容	医療保険下（急性期・回復期等）での実際の個別リハビリテーション 介護保険下（自宅・施設等）での実際のリハビリテーション
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
14	高齢期作業療法における介入1	授業内容	高齢期作業療法における個別リハビリテーションへの介入、グループワーク 高齢期作業療法における集団リハビリテーションへの介入、グループワーク
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

15	高齢期作業療法における介入2	授業内容	高齢期作業療法におけるリハビリテーションへの介入 発表
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

評価法基準	評価：レポート(70%)、グループ学習・プレゼンテーション (30%) により評価する。 基準：課題レポートは文献の写しではなく、自分の考えを述べたものであること。発言内容等を評価する。
教科書	「高齢期領域の作業療法 第2版」山田孝監修 中央法規 2016年
参考書	「認知症の作業療法第2版」ソーシャルインクルージョンをめざして 小川・竹田編 医歯薬出版 2016年 「標準作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版」 大内尉義編 2020年
履修上の注意	2学年で受講する各評価法と3学年で受講する高齢期作業療法治療学の理解が必要
オフィスアワー	金曜 (12:10~12:50)、3-19 研究室

科目名	高次脳機能作業療法治療学	担当教員	近野 智子		
実務経験	高齢者の急性期病院及び県立のリハビリテーションセンターに勤務し、身体障害領域における急性期・回復期のリハビリテーションに従事しました。また、更生援護施設における身体障害者・高次脳機能障害者の就労・地域生活支援に携わりました。その後教員として専門学校で勤務し、専門職大学に異動となり現在に至っています。大学勤務の傍ら週に1回病院の外来部門で、脳血管障害や難病の方を対象とした臨床に従事してきました。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	脳疾患や脳外傷は様々な脳機能障害をもたらす。脳血管疾患、外傷性脳損傷、脳の変性疾患等に起因する高次脳機能障害は、ひとの作業遂行や社会生活に大きな影響を与える。高次脳機能障害のあるひとの各症状に対する作業療法介入、日常生活及び社会生活に対する支援について学習する。また、病期による作業療法の役割について理解するとともに、高次脳機能障害のあるひと個人のみならず、家族・職場などの環境に対する支援や社会資源・制度の活用等の幅広い視点で作業療法士の役割と介入・支援の内容を学び、問題解決能力を高める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 高次脳機能障害の治療原則及び治療理論を述べることができる。 ② 全般性注意障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ③ 半側空間無視の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ④ 失語症の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ⑤ 記憶障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ⑥ 行為の障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ⑦ 遂行機能障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ⑧ 社会的行動障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 ⑨ 脳血管疾患、外傷性脳損傷、認知症及び他の変性疾患に対する作業療法介入を述べることができる。 ⑩ 高次脳機能障害と自動車運転難さと評価・介入方法を述べることができる。 ⑪ 高次脳機能障害のあるひとの地域生活、職業生活の支援及び社会資源・制度の活用方法を述べることができる。

No.	テーマ		内容
1	高次脳機能障害の治療理論	授業内容	高次脳機能障害の治療原則及び治療理論を学ぶ。
		予習	高次脳機能作業療法評価学で学んだ概念及び症状を復習する。
		復習	高次脳機能障害の治療原則及び治療理論についてまとめる。
2	全般性注意障害の治療	授業内容	全般性注意障害の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	全般性注意障害の発現メカニズム、症状及び作業遂行上の問題について復習する。
		復習	全般性注意障害の治療原則及び治療理論についてまとめる。

3	半側空間無視の治療	授業内容	半側空間無視の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	半側空間無視の発現メカニズム、症状及び作業遂行上の問題について復習する。
		復習	半側空間無視の治療原則及び治療理論についてまとめる。
4	失語症の治療	授業内容	失語症の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	失語症の概念と分類、発現メカニズム、症状及び作業遂行上の問題について復習する。
		復習	失語症の治療原則及び治療理論、介入における留意点をまとめる。
5	記憶障害の治療	授業内容	規則障害の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	記憶障害の発現メカニズム、症状及び作業遂行上の問題を復習する。
		復習	記憶障害の治療原則及び治療理論についてまとめる。
6	失認の治療	授業内容	視覚失認及び関連症状の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	視覚失認及び関連症状の概念と分類、発現メカニズム、症状及び作業遂行上の問題を復習する。
		復習	視覚失認及び関連症状の治療原則及び治療理論についてまとめる。
7	失行の治療	授業内容	失行症の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	失行症の概念、症状、発現メカニズム及び作業遂行上の問題を復習する。
		復習	失行症の治療原則及び治療理論についてまとめる。
8	遂行機能障害の治療	授業内容	遂行機能障害の治療原則及び治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	遂行機能障害の概念、発現メカニズム、症状、作業遂行上の問題を復習する。
		復習	遂行機能障害の治療原則及び治療理論についてまとめる。
9	社会的行動障害の治療	授業内容	社会的行動障害の治療原則と治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	社会的行動障害の概念、発現メカニズム、症状、作業遂行上の問題を復習する。
		復習	情動及び意欲、社会的行動障害の治療原則と治療理論をまとめる。
10	脳血管障害に対する作業療法介入	授業内容	脳血管疾患に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	脳血管疾患に起因する高次脳機能障害の症状、発現メカニズム、作業遂行上の問題を復習する。
		復習	脳血管疾患に起因する高次脳機能障害の作業療法介入についてまとめる。
11	外傷性脳損傷に対する作業療法介入	授業内容	外傷性脳損傷に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入の方法、制度の活用を学ぶ。
		予習	外傷性脳損傷に起因する高次脳機能障害の症状、発現メカニズム、作業遂行上の問題を復習する。
		復習	外傷性脳損傷に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入の方法、制度の活用についてまとめる。
12	認知症や脳変性疾患に対する作業療法介入	授業内容	認知症や他の脳変性疾患に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入の方法を学ぶ。
		予習	認知症や他の脳変性疾患に起因する高次脳機能障害の症状、発現メカニズム、作業遂行上の問題を復習する。
		復習	認知症や他の脳変性疾患に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入についてまとめる。

13	自動車運転の支援	授業内容	高次脳機能障害のひとの自動車運転に関連する評価と支援について学ぶ。
		予習	高次脳機能障害のひとの自動車運転に関する問題について資料を読む。
		復習	高次脳機能障害のひとの自動車運転に関連する評価と支援、制度についてまとめる。
14	就労及び地域生活の支援	授業内容	高次脳機能障害のひとの就労及び地域生活に対する作業療法介入の方法、制度の活用を学ぶ。
		予習	高次脳機能障害の就労・地域生活上の問題について資料を読む。
		復習	高次脳機能障害のひとの就労及び地域生活に対する作業療法介入、制度の活用についてまとめる。
15	まとめ	授業内容	これまでの授業の振り返り
		予習	これまでの授業に関する疑問点を挙げる。
		復習	授業内容のまとめを行う。

評価法基準	定期試験 80%、課題レポート 20%
教科書	能登真一 他 編：高次脳機能作業療法学（第2版）. 医学書院, 2021. 能登真一 他 編：作業療法評価学（第3版）. 医学書院, 2017.
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉矩子：高次脳機能障害の作業療法. 三輪書店, 2010. ・瀧雅子 編：高次脳機能障害（改訂第3版）. 作業療法学全書 作業治療学 5, 協同医書出版, 2011. ・鈴木孝治 編：高次脳機能障害作業療法学. 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 5, メジカルビュー社, 2012 ・Glen Gillen 編著, 清水一 他 監訳：脳卒中のリハビリテーション 生活機能に基づくアプローチ（原著第3版）. 三輪書店, 2015. ・石合純夫 著：高次脳機能障害学（第2版）. 医歯薬出版, 2012.
履修上の注意	高次脳機能障害の症状と発現機序を理解するためには、これまで学んだ解剖学、脳科学、神経内科学、臨床心理学等の基礎知識が不可欠です。これらの科目で得た知識を復習し、本科目の授業内容と関連づけながら理解するようにしてください。また、授業テーマに関して十分な学修をおさめるためには、授業前後にそれぞれ 90 分程度の予習及び復習が必要となります。
オフィスアワー	木曜（12:10～12:50）、3-3 研究室

科目名	高次脳機能作業療法治療学実習	担当教員	近野 智子		
実務経験	高齢者の急性期病院及び県立のリハビリテーションセンターに勤務し、身体障害領域における急性期・回復期のリハビリテーションに従事しました。また、更生援護施設における身体障害者・高次脳機能障害者の就労・地域生活支援に携わりました。その後教員として専門学校で勤務し、専門職大学に異動となり現在に至っています。大学勤務の傍ら週に1回病院の外來部門で、脳血管障害や難病の方を対象とした臨床に従事してきました。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	「高次脳機能作業療法評価学」及び「高次脳機能作業療法治療学」の内容を踏まえて、高次脳機能障害者を対象とする作業療法評価から作業療法計画、実施までの一連の流れを模擬事例の検討を通じて体験する。また、模擬事例の検討内容を発表し相互にフィードバックを行うことで、対象者の作業ニーズに対する問題解決能力の向上を図ることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者のニーズや症状に応じた評価計画を立案することができる。 2) 症状に応じた神経心理学的検査を実施することができる。 3) 画像所見や神経心理学的検査、面接・観察の評価結果に基づいて解釈を述べることができる。 4) 対象者のニーズに応じた作業療法計画を立案することができる。 5) 治療原則や理論に基づいた介入方法の選択と模擬的实施ができる。 6) 作業療法評価・介入において、対象者の安全に配慮した行動を行うことができる。 7) 事例検討においてグループディスカッションに参加し、協調的な行動をとることができる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション 模擬事例の 検討①-1	授業内容	授業内容、実習の実施方法についてオリエンテーションを行う。模擬事例を提示する。 脳梗塞 模擬事例①：評価計画の立案と実施準備
		予習	高次脳機能作業療法評価学、高次脳機能作業療法治療学で学んだ内容を復習しておく。
		復習	模擬事例の資料を読み、事例の評価及び介入を検討するために必要な知識を確認する。
2	模擬事例の 検討①-2	授業内容	脳梗塞 模擬事例①：評価計画の立案と実施準備
		予習	模擬事例①についての資料を読み、評価及び治療原則を復習する。
		復習	模擬事例の資料を読み、事例の評価及び介入を検討するために必要な知識を確認する。
3	模擬事例の 検討①-3	授業内容	脳梗塞 模擬事例①：評価実施と結果の解釈、介入計画立案の検討
		予習	評価実施ができるように、検査方法の復習と準備を行う。
		復習	評価結果の解釈について、文献等を読みまとめる。

4	模擬事例の 検討①-4	授業内容	脳梗塞 模擬事例①：介入計画の一部を実施しプレゼンテーションを行う。
		予習	計画した介入の実演とプレゼンテーションの準備を行う。
		復習	実習内容の振り返りを行う。
5	模擬事例の 検討①-5	授業内容	脳梗塞 模擬事例①：グループ発表の振り返りとまとめ。
		予習	実習内容の振り返りをまとめる。
		復習	事例についての復習を行う。
6	模擬事例の 検討②-1	授業内容	脳梗塞 模擬事例②：評価計画の立案と実施準備
		予習	模擬事例②についての資料を読み、評価及び治療原則を復習する。
		復習	模擬事例の資料を読み、事例の評価及び介入を検討するために必要な知識を確認する。
7	模擬事例の 検討②-2	授業内容	脳梗塞 模擬事例②：評価実施と結果の解釈、介入計画立案の検討
		予習	評価実施ができるように、検査方法の復習と準備を行う。
		復習	評価結果の解釈について、文献等を読みまとめる。
8	模擬事例の 検討②-3	授業内容	脳梗塞 模擬事例②：介入計画の一部を実施しプレゼンテーションを行う。
		予習	計画した介入の実演とプレゼンテーションの準備を行う。
		復習	実習内容の振り返りを行う。
9	模擬事例の 検討②-4	授業内容	脳梗塞 模擬事例②：グループ発表の振り返りとまとめ。
		予習	実習内容の振り返りをまとめる。
		復習	事例についての復習を行う。
10	模擬事例の 検討③-1	授業内容	模擬事例を提示する。 頭部外傷 模擬事例③：評価計画の立案と実施準備
		予習	模擬事例③についての資料を読み、評価及び治療原則を復習する。
		復習	模擬事例の資料を読み、事例の評価及び介入を検討するために必要な知識を確認する。
11	模擬事例の 検討③-2	授業内容	頭部外傷 模擬事例③：評価実施と結果の解釈、介入計画立案の検討
		予習	評価実施ができるように、検査方法の復習と準備を行う。
		復習	評価結果の解釈について、文献等を読みまとめる。
12	模擬事例の 検討③-3	授業内容	頭部外傷 模擬事例③：介入計画の一部を実施しプレゼンテーションを行う。
		予習	計画した介入の実演とプレゼンテーションの準備を行う。
		復習	実習内容の振り返りを行う。
13	模擬事例の 検討③-4	授業内容	頭部外傷 模擬事例③：グループ発表の振り返りとまとめ。
		予習	実習内容の振り返りをまとめる。
		復習	事例についての復習を行う。
14	事例検討	授業内容	視覚失認の評価と介入の事例検討
		予習	基礎知識の復習、文献を読みまとめる。
		復習	事例についての復習を行う。

15	事例検討	授業内容	変性疾患における高次脳機能の評価と介入の事例検討
		予習	基礎知識の復習、文献を読みまとめる。
		復習	事例についての復習を行う。
評価法基準	① 課題レポート (40%) ②小テスト (30%) ③口頭発表 (30%)		
教科書	能登真一 他 編：高次脳機能作業療法学 (第2版)。医学書院, 2021. 能登真一 他 編：作業療法評価学 (第3版)。医学書院, 2017.		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉矩子：高次脳機能障害の作業療法。三輪書店, 2010. ・渕雅子 編：高次脳機能障害 (改訂第3版)。作業療法学全書 作業治療学 5, 協同医書出版, 2011. ・鈴木孝治 編：高次脳機能障害作業療法学。作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 5, メジカルレビュー社, 2012 ・Glen Gillen 編著, 清水一 他 監訳：脳卒中のリハビリテーション 生活機能に基づくアプローチ (原著第3版)。三輪書店, 2015. ・石合純夫 著：高次脳機能障害学 (第2版)。医歯薬出版, 2012. 		
履修上の注意	検査の実技に臨むにあたり、作業療法学生として相応しい身なり、態度で臨むこと。必要な知識、技能の復習は各自が責任を持って行うこと。この授業は体験に基づくリフレクションと、他者からのフィードバック、討論を通して理解を深め、問題解決能力の向上を図ることが重要であるため、能動的に授業に参加することを期待する。授業内容に関して十分な学修成果をおさめるためには、授業前後に45分程度の予習・復習が必要となる。		
オフィスアワー	木曜 (12:10~12:50)、3-3 研究室		

科目名	日常生活活動作業療法治療学	担当教員	井口 佳晴		
実務経験	これまで、身体領域ではリハビリテーションセンターや国立病院機構、高齢期領域では介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどの施設で作業療法を実践してきました。これらの施設での対象者は、中枢神経疾患をはじめ、整形疾患、神経難病などの疾患を有し、さらに日常生活動作上の問題も多種多様でした。授業では、教科書に記載されている基本的事項に加えて、実践から学んだ経験や支援技術について解説します。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な作業療法の目的や計画を立案するまでの過程を学習する。
到達目標	① 動作観察や動作分析の方法について説明できる。 ② 基本的な介助方法が説明できる。 ③ 各種疾患の病態や障害を理解し、適切な指導の方法を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	日常生活活動の総論①	授業内容	日常生活活動の概念について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
2	日常生活活動の総論②	授業内容	日常生活活動の構成要素について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
3	日常生活活動の総論③	授業内容	日常生活活動の範囲について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
4	日常生活活動と国際生活分類について	授業内容	日常生活活動と国際生活分類との関係について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
5	ADLの運動学的分析①	授業内容	運動学の知識を基礎として、ADL 動作を分析する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
6	ADLの運動学的分析②	授業内容	運動学の知識を基礎として、ADL 動作を分析する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
7	基本動作と介助方法①	授業内容	基本動作の介助方法について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

8	基本動作と 介助方法②	授業内容	基本動作の介助方法について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
9	障害別日常生活活動訓練の実際 (片麻痺①)	授業内容	片麻痺の方を対象とした治療について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
10	障害別日常生活活動訓練の実際 (片麻痺②)	授業内容	片麻痺の方を対象とした治療について講義する。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
11	障害別日常生活活動訓練の実際 (脊髄損傷①)	授業内容	脊髄損傷の方を対象とした治療について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
12	障害別日常生活活動訓練の実際 (脊髄損傷②)	授業内容	脊髄損傷の方を対象とした治療について講義する。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
13	障害別日常生活活動訓練の実際 (パーキンソン病)	授業内容	パーキンソン病の方を対象とした治療について講義する。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
14	障害別日常生活活動訓練の実際 (神経難病)	授業内容	神経難病の方を対象とした治療について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
15	障害別日常生活活動訓練の実際 (神経難病)	授業内容	神経難病の方を対象とした治療について講義する。(訪問リハビリテーションを含む)
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

評価法基準	筆記試験(100%)
教科書	伊藤利之 鎌倉矩子 監修：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版. 医学書院.
参考書	なし

履修上の注意	なし
オフィスアワー	月曜 (12:10~12:50)、3-23 研究室

科目名	日常生活活動作業療法治療学実習	担当教員	井口 佳晴		
実務経験	これまで、身体領域ではリハビリテーションセンターや国立病院機構、高齢期領域では介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどの施設で作業療法を実践してきました。これらの施設での対象者は、中枢神経疾患をはじめ、整形疾患、神経難病などの疾患を有し、さらに日常生活動作上の問題も多種多様でした。授業では、教科書に記載されている基本的事項に加えて、実践から学んだ経験や支援技術について解説します。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	日常生活活動作業療法治療学実習では、姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活に関わる動作を理解し、それらの介助方法を学ぶ。また、各疾患の特性を踏まえ、対象者に対して、適切な動作指導や介助技術を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① ADL 指導に必要な基本的動作について理解できる。 ② 動作指導・運動学習の視点から適切な介助法を理解し、安全に実践することができる。 ③ 各疾患患者に対する介助方法を理解し、模倣することができる。 ④ 各疾患患者に対する動作指導を理解し、説明することができる。 ⑤ 車椅子や歩行補助具の特性を理解し、安全に操作することができる。

No.	テーマ		内容
1	起居動作と介助方法について①	授業内容	起居動作の理解と介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
2	起居動作と介助方法について②	授業内容	起居動作の理解と介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
3	立ち上がり・移乗動作の理解と介助方法について①	授業内容	立ち上がり・移乗動作の理解と介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
4	立ち上がり・移乗動作の理解と介助方法について②	授業内容	立ち上がり・移乗動作の理解と介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
5	車椅子操作方法について	授業内容	車椅子操作方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

6	歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助方法	授業内容	歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
7	片麻痺患者のADL指導①	授業内容	片麻痺患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
8	片麻痺患者のADL指導②	授業内容	片麻痺患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
9	脊髄損傷患者のADL指導①	授業内容	脊髄損傷患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
10	脊髄損傷患者のADL指導②	授業内容	脊髄損傷患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
11	関節リウマチ患者のADL指導	授業内容	関節リウマチ患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
12	パーキンソン病患者のADL指導	授業内容	パーキンソン病患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
13	神経難病患者のADL指導	授業内容	神経難病患者のADL指導について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
14	福祉機器を利用した移乗介助方法について①	授業内容	福祉機器を利用した移乗介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
15	福祉機器を利用した移乗介助方法について②	授業内容	福祉機器を利用した移乗介助方法について実習を通して理解する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	実習内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

評価法基準	提出課題(30%)、筆記試験(70%)
教科書	伊藤利之 鎌倉矩子 監修：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版. 医学書院. 石川 朗 種村留美 総編集：理学療法・作業療法テキスト ADL・実習. 中山書店.

参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	月曜（12:10～12:50）、3-23 研究室

科目名	日常生活活動支援治療学		担当教員	星 克司	
実務経験	臨床経験のほぼ全てにわたり身体障害者の作業療法に関わり、回復期等の医学的リハビリテーションを中心に生活を支援する作業療法の重要な手段となる福祉用具、自助具、環境調整を経験してきた。また、県立の福祉用具展示場の相談員として福祉用具に関する相談、普及、啓蒙活動も行った。				
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	作業療法のうち、日常生活活動・日常生活関連活動、社会参加等を支援するための福祉用具・義肢装具・住宅改修・その他の環境調整等に関する内容等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を経験することで理解を深めることができることを目標とする。なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といった ICF による考え方や急性期・回復期・生活期などの継時的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点を含む内容とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICF の環境因子の活用からみた自立支援・介護負担軽減のための作業療法の治療・指導・援助を理解する。 2. 福祉用具（義肢装具・自助具を含む）、住宅改修等の環境整備の関連した治療・指導・援助について理解する。① 目的、② 方法・手順、③ 結果とその記録、④結果の解釈、他 3. 評価結果から作業療法の治療・指導・援助につなげるアセスメントと実際の治療・指導・援助について理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション、ICF の要素とその関係、環境因子としての支援、他
		予習	日常生活活動支援評価学の復習、ICF について
		復習	ICF の内容について
2	環境因子と生活支援	授業内容	ICF の環境因子としての環境調整の考え方、生活の中の上肢機能
		予習	ICF の内容について
		復習	講義に基づいた環境調整について
3	自助具と ADL・IADL①	授業内容	自助具と ADL・IADL 等
		予習	自助具について
		復習	講義内容のまとめ
4	自助具と ADL・IADL②	授業内容	自助具と ADL・IADL 等
		予習	自助具について
		復習	講義内容のまとめ
5	義肢と ADL・IADL	授業内容	義肢の種類・構造と ADL・IADL 等
		予習	義肢について
		復習	講義内容のまとめ

6	装具と	授業内容	装具の種類・構造と ADL・IADL 等
	ADL・	予習	装具について
	IADL	復習	講義内容のまとめ
7	福祉用具と	授業内容	姿勢保持・移動目的の福祉用具①
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL①	復習	講義内容のまとめ
8	福祉用具と	授業内容	姿勢保持・移動目的の福祉用具②
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL②	復習	講義内容のまとめ
9	福祉用具と	授業内容	食事目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL③	復習	講義内容のまとめ
10	福祉用具と	授業内容	排泄目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL④	復習	講義内容のまとめ
11	福祉用具と	授業内容	入浴目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL⑤	復習	講義内容のまとめ
12	福祉用具と	授業内容	更衣、整容目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL⑥	復習	講義内容のまとめ
13	福祉用具と	授業内容	調理・洗濯等の IADL 目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL⑦	復習	講義内容のまとめ
14	福祉用具と	授業内容	コミュニケーション、遊具・就学や学習目的の福祉用具
	ADL・	予習	福祉用具について
	IADL⑧	復習	講義内容のまとめ
15	まとめ	授業内容	障害と福祉用具、ADL 等の自立・介護負担軽減のための考え方、他
		予習	障害別による福祉用具の適用と禁忌について
		復習	事例等による適応の理解

評価法基準	定期試験 70%、課題提出物 30%
教科書	「作業療法学全書第 10 巻 福祉用具の使い方・住環境整備」木之瀬隆 協同医書出版社 2009 年
参考書	「作業療法学全書第 9 巻 義肢装具学」古川宏 協同医書出版社 2009 年 「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会 医学書院 2021 年 「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版」伊藤利行 医学書院 2016 年
履修上の注意	なし
オフィスアワー	

科目名	日常生活活動支援治療学実習		担当教員	猪股 英輔	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	「日常生活活動支援治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の評価実習や総合実習につなげる。なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ICF の環境因子の活用からみた自立支援・介護負担軽減のための作業療法の評価から治療・指導・支援を、実技実習を通じて理解する。 福祉用具（義肢装具・自助具を含む）、住宅改修等の環境整備に関連した作業療法の評価から治療・指導・支援を、実技実習を通じて理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 目的、② 方法・手順、③ 結果とその記録、④結果の解釈、他 評価結果から作業療法の治療・指導・支援につなげるアセスメントと実際について、作業療法の評価から治療・指導・支援を、実技実習を通じて理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション、ICF の要素とその関係、環境因子としての支援、他
		予習	日常生活活動支援評価学・日常生活活動支援治療学の復習、ICF について
		復習	ICF の内容について
2	環境因子と生活支援	授業内容	ICF の環境因子としての環境調整の考え方、生活の中の上肢機能
		予習	ICF の内容について
		復習	講義に基づいた環境調整について
3	自助具①	授業内容	自助具の製作と体験
		予習	自助具について
		復習	講義内容のまとめ
4	自助具②	授業内容	自助具の発表
		予習	自助具について
		復習	講義内容のまとめ
5	義肢装具①	授業内容	義肢と装具の製作と体験
		予習	義肢について
		復習	講義内容のまとめ
6	義肢装具②	授業内容	義肢装具の発表
		予習	装具について
		復習	講義内容のまとめ

7	福祉用具①	授業内容	姿勢保持・移動目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
8	福祉用具②	授業内容	食事目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
9	福祉用具③	授業内容	排泄目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
10	福祉用具④	授業内容	入浴目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
11	福祉用具⑤	授業内容	更衣目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
12	福祉用具⑥	授業内容	整容目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
13	福祉用具⑦	授業内容	調理・洗濯等の IADL 目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
14	福祉用具⑧	授業内容	遊具・就学や学習目的の福祉用具の製作と体験
		予習	福祉用具について
		復習	講義内容のまとめ
15	まとめ	授業内容	福祉用具の発表と全体のまとめ
		予習	障害別による福祉用具の適用と禁忌について
		復習	事例等による適応の理解

評価法基準	定期試験（実技試験）50%、課題提出物50%
教科書	①「福祉用具の使い方・住環境整備 作業療法学全書 第3版」 OT 協会 協同医書出版 2009年 ②「義肢装具と作業療法—評価から実践まで」大庭潤平・他 医歯薬出版 2017年
参考書	「ADLとその周辺—評価・指導・介護の実際 第3版」伊藤利之・鎌倉矩子 医学書院 2016年
履修上の注意	実習時間は、材料加工で汚れてもよい服装、エプロン着用などの準備をお願いします。 作業場所の安全確保に努め、福祉用具や工具の取り扱いは使用上の注意を守ってください。
オフィスアワー	月曜日（16:20～17:10）、3-22 研究室

科目名	健康寿命の延伸		担当教員	星 克司、秋元 美穂、井口 佳晴、小野寺 哲夫、佐久間 肇	
学科・専攻	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>我が国は、世界トップクラスの平均寿命の国でありながら健康寿命との乖離が大きく、健康寿命を延伸させ「寿命と健康寿命の差を限りなく縮める」ことが課題である。このためには、健康増進、介護予防のための様々な活動を生活の全ての場面で取り入れることが必要である。そして、作業療法士の有する知識、技能やその役割は、障害を有する人の社会復帰に留まることなく、その原因となる疾患を予防し、多くの人が健康である社会を構築することにも役立てるべきである。健康とは世界保健機関（WHO）の健康の定義に謳っているように、身体的、精神的、社会的など人間を取り巻くあらゆる方向から考えることであり、作業療法士がどんな役割を担えるかを考える必要がある。</p> <p>この科目では、これまでに学修してきた作業療法に関わる知識、技能や、展開科目で学んだ内容をも基盤にして、多角的に健康について考え、全ての人々が共生出来る社会の実現のために活躍できる能力を身に付けることを目標とする。その結果として、作業療法の範囲を超えて、健康寿命の延伸のために広く活動できる人材を育むことを目指す。</p>
到達目標	<p>① 健康および健康寿命の概念について多角的に説明することができる</p> <p>② 健康寿命の延伸のための課題について多角的に説明できる</p> <p>③ 健康寿命の延伸のために作業療法士ができることを説明し、企画・実践することができる</p>

No.	テーマ		内容
1	健康の概念と健康寿命	授業内容	オリエンテーション 健康の概念と健康寿命延伸のための課題
		予習	特になし
		復習	受講した内容についてまとめておくこと
2	公衆衛生と健康	授業内容	公衆衛生的視点からの健康寿命延伸のための課題
		予習	公衆衛生学と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
3	疾病予防と健康 (1)	授業内容	疾病予防と健康の維持・増進のための課題と対応 (1)
		予習	生活習慣病と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
4	疾病予防と健康 (2)	授業内容	疾病予防と健康の維持・増進のための課題と対応 (2)
		予習	脳血管疾患と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容について調べておくこと
5	自治体・事業所と健康寿命	授業内容	自治体・事業所における健康寿命延伸のための課題と対応
		予習	健康寿命延伸における自治体の役割について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく

6	高齢期における健康 (1)	授業内容	高齢期における健康寿命延伸のための課題と対応 (1)
		予習	認知症と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
7	高齢期における健康 (2)	授業内容	高齢期における健康寿命延伸のための課題と対応 (2)
		予習	「フレイル」について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
8	高齢期における健康 (3)	授業内容	高齢期における健康寿命延伸のための課題と対応 (3)
		予習	運動器疾患と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
9	「こころ」と健康 (1)	授業内容	こころの健康と健康寿命延伸のための課題と対応 (1)
		予習	「こころ」と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
10	「こころ」と健康 (2)	授業内容	こころの健康と健康寿命延伸のための課題と対応 (2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
11	「活動・参加」と健康 (1)	授業内容	活動と参加に焦点を当てた健康寿命延伸のための課題と対応 (1)
		予習	活動や参加と健康との関係について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
12	「活動・参加」と健康 (2)	授業内容	活動と参加に焦点を当てた健康寿命延伸のための課題と対応 (2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
13	社会資源と健康 (1)	授業内容	地域社会における社会資源の活用と健康寿命の延伸への対応 (1)
		予習	健康寿命の延伸のための社会資源について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
14	社会資源と健康 (2)	授業内容	地域社会における社会資源の活用と健康寿命の延伸への対応 (2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	これまで学習した内容について復習しておく
		復習	この科目で学んだ内容をまとめておく

評価法基準	演習レポート (60%) 筆記試験 (40%)
教科書	適宜プリント配付 これまで受講した科目の中で当該科目に関連する科目のテキストを使う場合があります。
参考書	なし
履修上の注意	事前に予習すべき内容について指示します。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	在宅医療・介護の推進		担当教員	佐々木 清子、猪股 英輔、坂本俊夫、井口 佳晴	
学科・専攻	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>超高齢社会の中で、住んでいる地域社会において医療、福祉サービスを受けられる体制を整備することが重要であり、その中心となっているのが地域包括ケアシステムの導入であろう。ここでは、本人や家族の選択の上で、介護予防、介護支援、医療や看護、リハビリテーションなどの要素を組み合わせて、地域社会における多角的な支援を目指している。作業療法士は、このシステムの中で、全ての要素に関わりをもち、在宅医療や介護予防、介護支援の中心として活動すべき職種である。この科目では、これまでに学修してきた作業療法士に関わる知識、技能や、展開科目で学んだ内容をも基盤にして、在宅医療、介護予防・介護支援について総合的かつ体系的に学び、リハビリテーション専門事業だけではなく、対象者の背景や環境など多様な側面を考慮して、在宅や地域における問題を解決するために活動できる能力を身に付けることを目指す。</p>
到達目標	<p>① 在宅医療や介護についての現状と課題について説明することができる</p> <p>② 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割について説明することができる</p> <p>③ 在宅医療や介護予防・介護支援について作業療法士の役割について説明することができる</p>

No.	テーマ		内容
1	在宅医療・介護と社会動向	授業内容	オリエンテーション 在宅医療・介護をめぐる社会動向と課題
		予習	在宅医療・介護と社会動向との関連について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
2	在宅医療・介護における留意事項	授業内容	在宅医療・介護における接遇とリスクマネジメント
		予習	在宅医療・介護におけるリスクマネジメントについて調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
3	中枢神経疾患患者と在宅医療・介護 (1)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“中枢神経疾患” (1)
		予習	中枢神経疾患の在宅医療・介護について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
4	中枢神経疾患患者と在宅医療・介護 (2)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“中枢神経疾患” (2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
5	運動器疾患患者と在宅医療・介護 (1)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“運動器疾患” (1)
		予習	運動器疾患の在宅医療・介護について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく

6	運動器疾患 患者と在宅 医療・介護 (2)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“運動器疾患”(2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
7	内部疾患患 者と在宅医 療・介護(1)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“内部疾患”(1)
		予習	内部疾患の在宅医療・介護について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
8	内部疾患患 者と在宅医 療・介護(2)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“内部疾患”(2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
9	認知症者と 在宅医療・介 護(1)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“認知症”(1)
		予習	認知症の在宅医療・介護について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
10	認知症者と 在宅医療・介 護(2)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“認知症”(2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
11	障がい児・者 と在宅医療・ 介護(1)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“障がい児・者”(1)
		予習	障がい児・者の在宅医療・介護について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
12	障がい児・者 と在宅医療・ 介護(2)	授業内容	在宅医療・介護支援の実際“障がい児・者”(2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
13	家族介護者 への支援(1)	授業内容	家族介護者への介助技術・健康支援(1)
		予習	家族介護者への支援について調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
14	家族介護者 への支援(2)	授業内容	家族介護者への介助技術・健康支援(2)
		予習	前回の講義内容を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	これまで学習した内容について復習しておく
		復習	この科目で学んだ内容をまとめておく

評価法基準	演習レポート(50%) 課題発表(50%)
教科書	新版 日常生活活動(ADL)第2版—評価と支援の実際
参考書	なし
履修上の注意	事前に予習すべき内容について提示します。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	生活行為を支援するための環境整備		担当教員	田中 克一	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	選択	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>本科目は、作業療法が対象とする生活行為を支援するために必要な機器の適合や住環境整備等の環境因子からの働きかけを理解するために、講義・演習形式でその理論的背景と支援の実際を理解する。</p> <p>具体的には、日常生活活動や・手段的日常生活活動・日常生活関連活動を中心に、各種の補装具・日常訓練機器・福祉機器と住宅改修等を活用した支援方法論について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法と生活行為について理解する。 2. ICF おける環境因子の内容と「心身機能と身体機能」「活動と参加」の関係を理解する。 3. ADL と IADL の内容と環境因子による治療・指導・援助の方法を理解する。 4. 環境因子の適合の考え方を理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	科目の概要説明、作業療法と生活行為、ICF の概要
		予習	ICF の復習
		復習	生活行為とは、ICF の構成要素の関係のまとめ
2	環境による支援方法の考え方	授業内容	ADL・IADL とは、動作・行為の障害と環境からの支援の考え方
		予習	ADL・IADL の復習、動作分析・工程分析の復習
		復習	環境からの支援方法の考え方のまとめ
3	活動に対する支援①	授業内容	基本動作（寝返り、起き上がり、移動など）への環境からの支援
		予習	基本動作・動作分析の復習、関連する環境（機器等）を調べること
		復習	基本動作に対してどのような環境支援があるか（まとめ）
4	活動に対する支援②	授業内容	ADL①（入浴、排せつ）への環境からの支援
		予習	入浴、排せつに関連する動作分析の復習、関連する環境を調べること
		復習	入浴、排せつに対してどのような環境支援があるか（まとめ）
5	活動に対する支援③	授業内容	ADL②（食事・更衣・整容）への環境からの支援
		予習	食事・更衣・整容に関連する動作分析の復習、関連する環境を調べること
		復習	食事・更衣・整容に対してどのような環境支援があるか（まとめ）
6	活動に対する支援④	授業内容	コミュニケーションへの環境からの支援
		予習	コミュニケーションの障害の復習、関連する環境を調べること
		復習	コミュニケーションに対してどのような環境支援があるか（まとめ）
7	参加に対する支援①	授業内容	住宅改修による支援
		予習	住宅改修について調べること
		復習	住宅改修に対してどのような環境支援があるか（まとめ）

8	参加に対する支援②	授業内容	家事・就労・就学と関連する活動への環境からの支援
		予習	家事の動作分析と障害の復習。関連する環境を調べること
		復習	家事・就労・就学と関連する活動に対してどのような環境支援があるか（まとめ）
9	心身機能と身体構造に対する支援	授業内容	心身機能と身体構造への環境からの支援（機能代償・機能訓練を含む）
		予習	心身機能と身体構造の障害の復習、関連する環境を調べること
		復習	心身機能と身体構造に対してどのような環境支援があるか（まとめ）
10	グループ演習（検討） ①	授業内容	演習のための事例紹介、グループ演習作業（発表製作）①
		予習	本科目のこれまでのまとめの復習
		復習	グループ演習作業（発表製作）
11	グループ演習（検討） ②	授業内容	グループ演習作業（発表製作）②
		予習	グループ演習（発表製作）①の振り返り
		復習	グループ演習作業（発表製作）
12	グループ演習（検討） ③	授業内容	グループ演習作業（発表製作）③
		予習	グループ演習（発表製作）①②の振り返り
		復習	グループ演習作業（発表製作）と発表準備
13	グループ演習（発表） ①	授業内容	グループ演習作業（発表）①
		予習	グループ演習作業（発表製作）の振り返り
		復習	グループ演習作業（発表）の振り返り
14	グループ演習（発表） ②	授業内容	グループ演習作業（発表）②
		予習	グループ演習作業（発表製作）の振り返り
		復習	グループ演習作業（発表）の振り返り
15	まとめ	授業内容	関連する制度等、環境整備の今後の課題と展望、まとめ
		予習	発表含めた全体の振り返り
		復習	まとめ

評価法基準	<ul style="list-style-type: none"> ●レポート提出 60% ●グループ演習作業発表内（発表内容、発表資料、他の発表に対する質疑など） 40%
教科書	特に指定せず、授業時に配布する資料と参考資料を紹介する。
参考書	他科目で使用する動作分析・工程分析、ADL、IADL、生活行為向上マネジメント等の教科書や参考図書
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○他の作業療法評価学や作業療法治療学の内容を復習しておくこと ○生活行為向上マネジメントの内容を復習しておくこと ○身の回りで使用する道具や機器、狭義の環境（段差や住環境）について注意しておくこと
オフィスアワー	授業の前後に受け付ける

科目名	緩和ケアと作業療法		担当教員	吉澤 いづみ	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	選択	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>「緩和ケア」は対象者とその家族の「トータルペイン（全人的苦痛）」に焦点を当て、その苦痛の予防、緩和を図り QOL 向上を図るためのアプローチをいう。緩和ケアの対象疾患は、「がん」のみならず、難病、認知症、呼吸器疾患、心疾患、小児慢性特定疾患等幅広い。</p> <p>作業療法士は、これらの対象者に対して機能障害・活動制限の改善や社会参加を図り、その人らしい生活を取り戻すことを目的として関わるが、終末期に至り機能や活動・参加レベルの改善が難しい場合であっても、緩和ケアという視点から、対象者と家族の「全人的苦痛」に焦点を当てることにより、QOL 向上に貢献することができる。</p> <p>本科目では、緩和ケアの概念と緩和ケアにおける作業療法士の役割を学び、症状に対する評価と対応、ADL 能力の維持、QOL 向上、環境調整と福祉用具の選定、対象者と家族の心理的サポート等の緩和ケアの実践に必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>また、がん治療後の後遺症としてみられるリンパ浮腫についても実践を踏まえて学ぶ。その他、緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ケア、デイ・ホスピス等における緩和ケアの実践例や多職種連携について学習する。</p>
到達目標	<p>① 緩和医療・ケアについて理解し説明ができる</p> <p>② 緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーションについて理解し説明ができる</p> <p>③ 緩和ケアが主体となる時期の作業療法士の役割について理解し説明ができる</p> <p>④ リンパ浮腫について理解し説明ができる</p>

No.	テーマ		内容
1	緩和ケアの概念	授業内容	緩和医療・ケアの概要
		予習	緩和医療・ケアについて理解を深めておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーション	授業内容	前緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーション
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	緩和ケアが主体となる時期の作業療法	授業内容	緩和ケアが主体となる時期の作業療法
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	進期・終末期のリハビリテーション①	授業内容	進期・終末期のリハビリテーション 総論
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

5	進行期・終末期のリハビリテーション②	授業内容	疾患・病態別アプローチ（骨転移・脳転移・乳癌等）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	緩和ケアが主体となる時期の心理・社会的ケア	授業内容	緩和ケアが主体となる時期の心理・社会的ケアについて
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	緩和ケアにおけるチーム医療の実際	授業内容	緩和ケアにおけるチーム医療や在宅緩和ケアの実際
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	リンパ浮腫と予防指導	授業内容	リンパ浮腫予防指導と複合的理学療法について
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
9	リンパ浮腫実践	授業内容	用手的リンパドレナージについて
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
10	リンパ浮腫実践	授業内容	圧迫療法について（多層包帯法）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
11	リンパ浮腫実践	授業内容	圧迫療法について（弾性着衣・圧迫素材）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
12	リンパ浮腫実践	授業内容	圧迫下での運動療法と終末期にみられる浮腫への対応とタッチケアについて
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
13	がん・緩和ケアの作業療法の研究	授業内容	がん・緩和ケアの作業療法の臨床研究および症例提示
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
14	症例検討	授業内容	病期に合わせた作業療法の実践（グループディスカッション）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
15	症例検討	授業内容	病期に合わせた作業療法の実践（発表）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	<p>定期試験（筆記試験）50%、授業内レポート15%、口頭発表15%、実技20%</p> <p>基準：レポートは課題に対する理解度や完成度を評価する。口頭発表は学内でのグループワークの取り組み姿勢、発言を評価する。実技は学内での実技実習の取り組み姿勢、手技の完成度を評価する。</p>
教科書	なし（講義資料を準備）
参考書	がんと緩和ケアの作業療法 緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーション
履修上の注意	授業では講義のほか、リンパ浮腫治療における実技研修（用手的リンパドレナージ・圧迫療法等）を行う。
オフィスアワー	メール yoshi-416@jikei.ac.jp 又は授業前後

科目名	地域作業療法学		担当教員	猪股 英輔	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	近年、作業療法士が対象とする領域は、医療機関から地域へと広がっている。本講義では介護保険をはじめとする諸制度との関わりや地域作業療法の評価・プログラムの立案・実践過程について学習する。また、他職種との連携やさまざまな施設での実践事例について紹介する。
到達目標	① 地域作業療法を実践する上で必要な知識・技術について理解することができる。 ② 介護保険をはじめとする制度や社会資源について説明することができる。

No.	テーマ		内容
1	地域リハビリテーションについて	授業内容	地域リハビリテーションの概念について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
2	制度について①	授業内容	社会保障制度について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
3	制度について②	授業内容	介護保険制度について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
4	社会生活支援①	授業内容	支援のためのニーズ把握について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
5	社会生活支援②	授業内容	地域ネットワーク(フォーマル・インフォーマル)の形成について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
6	住環境整備について	授業内容	住環境整備に必要な知識について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
7	地域における連携・協働①	授業内容	連携・協働を成功させるポイントについて講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
8	地域における連携・協働②	授業内容	他職種の業務と役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
9	地域包括ケアについて	授業内容	地域包括ケアの概念について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

10	対人支援技術について	授業内容	対人支援法として、コミュニケーション技法について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
11	地域作業療法の実践事例①	授業内容	病院(身体機能領域)の作業療法士の役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
12	地域作業療法の実践事例②	授業内容	病院(精神機能領域)の作業療法士の役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
13	地域作業療法の実践事例③	授業内容	介護老人保健施設の作業療法士の役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
14	地域作業療法の実践事例④	授業内容	通所介護施設の作業療法士の役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。
15	地域作業療法の実践事例⑤	授業内容	訪問作業療法の作業療法士の役割について講義する。
		予習	教科書の該当箇所を事前に読み、まとめる。
		復習	講義内容と教科書に記載されている内容を整理し、理解する。

評価法基準	筆記試験(100%)
教科書	「標準作業療法学 地域作業療法学 第3版」大熊明・加藤朋子 医学書院 2017年
参考書	「高齢期領域の作業療法 第2版」山田孝 中央法規 2016年
履修上の注意	地域包括ケアシステムにおける作業療法実践をレポートする体験学習があります。 新しい領域の作業療法を学びますので、パイオニア精神をもって臨むことを期待します。
オフィスアワー	火曜(18:30~19:00)、3-22 研究室

科目名	就労支援論	担当教員	星 克司		
実務経験	臨床経験のほぼ全てにわたり身体障害者の作業療法に関わり、回復期等の医学的リハビリテーションを中心に脳血管障害、頸髄損傷の作業療法を経験してきた。また総合リハビリテーションセンターにおいては、重度障害者、高次脳機能障害者などの社会復帰、環境調整、復学、復職等の支援にも関わってきた。				
学科	作業療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>作業療法が対象とする障害のうち、就労を必要とする対象者へ作業療法を提供するために、講義を通じて基本的な就労支援のあり方などを学び、事例による就労の計画立案等により理解を深める。</p> <p>なお、初めての就労に対する支援から、再就職、配置転換などいろいろな場面が考えられることから、ICF の参加という側面だけではなく、環境因子の調整などを含めて就労に至る過程を理解することを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労の基本的事項について理解する。 2. 障害者の就労の諸制度、過程について理解する。 3. 障害別の就労について、事例から理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション、職業関連活動概説
		予習	特になし
		復習	講義内容のまとめ
2	就労支援	授業内容	障害者と職業
		予習	教科書<第1章、第2章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
3	就労支援	授業内容	職業関連活動における作業療法
		予習	教科書<第3章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
4	就労支援	授業内容	作業療法評価
		予習	教科書<第3章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
5	就労支援	授業内容	作業療法治療過程
		予習	教科書<第3章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
6	就労支援の実際	授業内容	精神障害者の就労支援
		予習	教科書<第4章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ

7	事例	授業内容	精神障害者の就労支援の実際 1
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
8	事例	授業内容	精神障害者の就労支援の実際 2
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
9	就労支援の 実際	授業内容	身体障害者の就労支援
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
10	事例	授業内容	脳血管障害者、脊髄損傷者の就労支援
		予習	脳血管障害者の就労状況や就労の過程等について調べておくこと
		復習	講義内容のまとめ
11	就労支援の 実際	授業内容	発達障害者の就労支援
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
12	就労支援の 実際	授業内容	高次脳機能障害者の就労支援①
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
13	事例	授業内容	高次脳機能障害者の就労支援②
		予習	教科書<第 4 章>を読んでおく
		復習	講義内容のまとめ
14	就労支援の 実際	授業内容	高齢者の就労支援
		予習	高齢者の就労状況や就労の過程等について調べておくこと
		復習	講義内容のまとめ
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	全体の復習をしておくこと
		復習	全体のまとめ

評価法基準	定期試験 70%、課題提出等 30%
教科書	「作業療法学全書改訂第 3 版職業関連活動」平賀昭信ら編 協同医書出版社 2009 年
参考書	「職業リハビリテーション学 改訂第 2 版」松為信雄ら編 協同医書出版社 2006 年
履修上の注意	なし
オフィスアワー	

科目名	生活環境学		担当教員	猪股 英輔	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>地域での作業療法を展開する際に必要な、ICF にある環境因子のうち「サービス」「制度」「政策」を含めて、講義を通じて「まちづくり」について学ぶ。さらに、いくつかのまちづくりの事例からまちづくりとそこに住む人々の関係の理解を深めることを目標とする。</p> <p>可能であれば、災害復興からのまちづくりなども含めることで、災害時に作業療法にできることはなにかを考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちを取り巻く「環境」の安全性、快適性等について、制度を含めて理解する。 2. 居住空間（住宅環境）の安全性・快適性等と住まう人との適合について、理解する。 3. 外出に関わる安全性・快適性等と対象者の適合について、理解する。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション、私たちの生活を取り巻く環境とは
		予習	自分の身の回りの安全性、快適性等について考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
2	制度等	授業内容	バリアフリー法等、国内外の制度について
		予習	身近なバリアフリーについて考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
3	居住空間①	授業内容	居住空間（住宅環境）の基本的知識
		予習	身近な居住環境について考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
4	居住空間②	授業内容	住まう人に合わせた居住空間（生活環境）の設計、他
		予習	自分の居住空間（住宅環境）の便利さ、不便さについて考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
5	居住空間③	授業内容	住まう人に合わせた居住空間（住宅環境）への改造・改修等と制度
		予習	自分の居住空間（住宅環境）がどのようにしたら便利になるか、考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
6	居住空間外①	授業内容	道路、交通機関、その他の居住空間外の環境について
		予習	身近な街並みの中で環境について考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
7	居住空間外②	授業内容	その地域の特性等に合わせた居住空間外の設計、その他の基本的考え方
		予習	身近な街並みの地域特性について考えてくること
		復習	講義内容のまとめ
8	居住空間外③	授業内容	海外の事例①
		予習	北欧を中心とする街づくりの環境について調べてくること
		復習	講義内容のまとめ

9	居住空間外 ④	授業内容	海外事情②
		予習	北欧を中心とする街づくりの環境について調べてくること
		復習	講義内容のまとめ
10	災害復興①	授業内容	災害時の環境の変化と復興の過程（避難所、仮設住宅等）
		予習	災害時の生活環境の変化と復興の過程を調べること
		復習	講義内容のまとめ
11	災害復興②	授業内容	災害からの復興①（神戸市のように災害から期間を経た災害時と現状等）
		予習	神戸市の災害復興の施策とその過程を調べること
		復習	講義内容のまとめ
12	災害復興③	授業内容	災害からの復興② 大規模災害からの復興（例えば、陸前高田市、大槌町等）
		予習	東日本大震災による災害地の現状を調べること
		復習	講義内容のまとめ
13	災害復興④	授業内容	災害からの復興③ 大規模災害からの復興（例えば、岡山県の洪水、広島県の土砂災害等）
		予習	災害地の現状を調べること
		復習	講義内容のまとめ
14	地域整備の 計画	授業内容	身近な地域での都市整備計画について
		予習	東京都の地域整備計画、都市開発などの施策について調べること
		復習	講義内容のまとめ
15	まとめ	授業内容	作業療法士として生活環境をどのように考えていくか
		予習	今までの内容を、作業療法士としてどのように活用できるのかを考えてみること
		復習	講義内容のまとめ

評価法基準	定期試験60%、小テスト20%、課題提出物20%
教科書	「標準作業療法学 地域作業療法学 第3版」大熊明・加藤朋子 医学書院 2017年
参考書	「ADLとその周辺—評価・指導・介護の実際 第3版」伊藤利之・鎌倉矩子 医学書院 2016年 「福祉用具の使い方・住環境整備 作業療法学全書 第3版」OT協会 協同医書出版 2009年
履修上の注意	身近な生活環境に関心をもち、普段、何気なく過ごしている環境について考えます。 地域の課題を理解するために調査の手法も学習します。
オフィスアワー	火曜日（14:00～14:30）、3-22 研究室

科目名	地域作業療法学実習		担当教員	河邊 宗知、井川 大樹、 佐藤 淳矢、畠山 久司	
学科	作業療学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	45 時間	回数	1 回

授業概要	その地域で暮らす、住み慣れた場所で生活する人々を支援する作業療法について、実際の現場での支援を体験・実習することで、どのようなことができるのかについて、課題解決できることを目標とする。対象は在宅高齢者に限らず、障害者や障害児、その家族をどのように作業療法が支援できるのかに焦点を置き、さまざまな視点からその実際を体験する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2.作業療法の視点を必要としている、または今後に必要なさまざまな地域におけるサービスで、どのように作業療法が活用できるのかを考察する 3.現場指導者の指導の下で、提供されているサービスの企画立案・運営等の一部を体験する 4.地域共生社会を構築する際に必要となる作業療法の提供の方法や仕組みについて考える 5.記録報告を行う

授業内容	
<p>地域作業療法学実習では、臨床実習で学ぶ作業療法が実践されている場に限ることなく、臨床実習の対象として含まれていない作業療法士が勤務する実践現場や作業療法士が求められている、また作業療法の考えや視点が必要とされている地域で生活する人々の社会生活を支援する現場において、その業務の見聞や体験を通して、作業療法士として支援すべき課題とその解決方法について考え、その一部を実践する。地域作業療法学実習の場と対象は幅広く、在宅のみならず地域の施設で暮らす高齢者、障がい者、障がい児やその家族や保健・医療・福祉等に限らず、生活をする場としての公共交通機関や商店、就労・就学としての職場や学校等を想定する。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的、スケジュール、課題等の説明を行う。実習前には、実習施設の概要や交通経路などを事前に調査し、実習の前提となる必要な情報を得ておく。地域作業療法実習においては、現場指導者の指導の下で、当該現場の業務を見聞または一部実践する。実習の内容は、作業療法士の業務に限定されず、多職種の業務や多職種および他施設が協働して行う業務のすべてを含む。実習では、作業療法固有の業務に限らず、幅広く地域での作業療法士の必要性や作業療法の考え方や視点の重要性について考え、今後作業療法士が地域のさまざまな場面で必要とされている作業療法が提供できるのかについて、どのような課題をどのように解決していくべきかを総合的、発展的に考察することを期待する。また、本実習では、多職種連携という国家資格との連携だけではなく、さまざまな職業人とのかかわりの実際を体験し、必要な対処技能やコミュニケーション技能を身につけることも重要な課題として位置づける。</p>	

評価法基準	<p>単位認定のためには、決められた実習日数の4/5以上の出席が必要である。</p> <p>最終評定は、実習指導者が報告する「地域作業療法学実習評価表」に基づく習得度の評価を参考にし、担当教員が実習終了後の学内報告及び議論を総合して行う。</p>
教科書	「臨床実習の手引き」(大学で作成した配布資料)

参考書	なし
履修上の注意	事前の実習オリエンテーションと事後の学内報告の出席を義務とする。実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で臨むこと。実習時は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に指導者に質問や指導を求めることが重要である。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける

科目名	障害児教育と作業療法		担当教員	白瀬 美弘	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	選択	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>障がい児は就学後に保健医療福祉の現場から疎遠になる経験をする人も少なくない。しかし、保健医療専門職の支援は引き続き重要な要素であり、障がい児教育の中での保健医療支援をどのように取り入れるかが課題である。現状としては、特別支援学校や特別支援学級において直接作業療法士が関わる場面は多くは無いが、障がい児教育について理解することは作業療法士には重要な素養の一つである。ここでは、障がい児を対象とした教育学の基本事項と、特に特別支援教育に関する教育方法論を理解し、作業療法士の知識や技能が障がい児教育現場にどのように活用できるのかを考察する。また、事例を用いて、自身の学ぶ専門職の専門性と障がい児教育の実際との関連を理解し、具体的にどのような連携が可能なのかを考察する。</p>
到達目標	<p>①障がいや特別支援教育についてその概要を理解し、説明ができる。</p> <p>②特別支援学校や特別支援学級等でどのような指導が行われているか説明できる。</p> <p>③各障害種別の教育方法論の特徴を分類できる。</p> <p>④作業療法士としての専門性を特別支援教育に応用できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	授業のオリエンテーション	授業内容	講座の目的、障害児教育と作業療法の関わり、特殊教育から特別支援教育へ転換
		予習	受講を選択した目的を整理しておく。自分と障がい者との関わり方の経験の有無
		復習	作業療法士が特別支援教育のどんな場面でどのように活動しているかまとめる
2	障がいと発達	授業内容	障害の理解。ICF（国際生活機能分類）の障害者観。発達の道筋
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	ICFの障害の捉え方の整理。発達の道筋の整理
3	特別支援教育とは	授業内容	教育とは何か。障害児教育の歴史。特別支援教育制度と現状。就学相談の実態
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	障害児教育の基本	授業内容	障害のある子どもの理解。特別支援教育の教育課程。授業づくりと教材
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	自立活動の指導と個別指導計画	授業内容	自立活動の目的。自立活動の内容。個別指導計画の作成
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	視覚・聴覚障がいの指導	授業内容	学習特性と指導法。教科指導。自立活動の実際
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと

7	知的障がい の指導	授業内容	学習特性と指導法。教科指導と合科。自立活動
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	肢体不自由 病弱の指導	授業内容	学習特性と指導法。教科指導と準ずる教育。自立活動実際
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
9	自閉症・情 緒障害の指 導	授業内容	学習特性と指導法。授業づくり。自立活動
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
10	LD・ADH D・高機能 障害の指導	授業内容	学習・行動特性と指導法。教科指導。特別支援教育コーディネーターの役割
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
11	特別支援学 級通級指導 教室の指導	授業内容	特別支援学級・通級指導教室の教育課程。交流教育及び共同学習
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
12	通常学級で の特別支援 教育	授業内容	気にかかる子ども。特別支援教育との連携、ユニバーサルデザインの授業づくり
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
13	学習指導案 の作成	授業内容	学習指導案とは
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
14	実践レポー トから学ぶ	授業内容	学校・学級・教室のレポートの事例から子ども理解、指導の意図等を学ぶ
		予習	事前に配布されたレポートを読んでおく
		復習	実践事例から感じた事をまとめる
15	特別支援教 育の課題と 今後の方向	授業内容	インクルーシブ教育
		予習	教科書の関連項目を調べておく
		復習	授業内容をまとめる。

評価法基準	評価表：定期試験（筆記試験）80％ 授業のまとめレポート 20パーセント 筆記試験は、択一式 50％ 記述式 50％ 授業のまとめレポートは、課題に対する理解度を評価する。
教科書	新版・キーワードブック特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識 編著者 玉村久二彦 黒田 学 平沼博将 清水貞夫 発行 株式会社クリエイツかもがわ
参考書	なし
履修上の注意	授業では、講義のほか、グループワークを行う。
オフィスアワー	授業の前後

科目名	発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法		担当教員	白木原 葉子	
学科	作業療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	選択	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>地域で暮らす成人期の発達障がい者は、社会生活力の低さ、失敗体験によるストレスによりうつ病などの精神疾患を合併することも多く、就学・就労が困難となり引きこもりになる事例も多い。</p> <p>本科目では、就学・就労の前段階として必要になる社会生活力に関する支援のあり方、特性や強みを活かし社会で自分らしく生活を送るための環境調整や活動の場の提供など、地域における発達・精神障がい者の生活力支援について検討する。</p> <p>内容としては、障害福祉サービスの利用や各事業所の現状を学び、生活面・身体面・心理面など広範囲な支援が求められる地域での作業療法の役割について、医学的知識に基づき疾患・障がい特性を把握した上で、当事者の多様なニーズにあわせた生活力に対する支援の分析・アプローチ、課題などを多面的に検討し、専門性への理解を深めることを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障がい者や成人発達障がい者が、地域で生活するために必要なことは何かを理解する。 2 障害福祉サービスの種類および利用方法を理解する。 3 その人らしく生きるとは何かを理解する。 4 グループワークにおいて、積極的に意見交換し、発想豊かに物事を多角的に捉えられるようにする。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーション 暮らしとは
		予習	暮らし 生活に必要なものを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
2	障害福祉サービス	授業内容	障害福祉サービスの種類 ①
		予習	障害福祉サービスについて考える
		復習	受講した内容をまとめておく
3	障害福祉サービス	授業内容	障害福祉サービスの種類 ②
		予習	障害福祉サービスについて考える
		復習	受講した内容をまとめておく
4	相談支援	授業内容	相談支援とは。障害福祉サービスを利用する
		予習	相談支援について考える
		復習	受講した内容をまとめておく
5	相談支援	授業内容	事例を通してアセスメントを行う
		予習	前回までの内容を振り返っておく
		復習	受講した内容をまとめておく
6	相談支援	授業内容	障害福祉サービスの選択
		予習	前回までの内容を振り返っておく
		復習	受講した内容をまとめておく

7	相談支援地域移行支援	授業内容	入院から地域生活へ
		予習	退院後、生活するときに必要なことを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
8	相談支援	授業内容	障害福祉サービス利用時の連携
		予習	前回までの内容を振り返っておく
		復習	受講した内容をまとめておく
9	就労支援	授業内容	働きたい希望の実現に向けての支援
		予習	障がいを持ちながら働くとはを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
10	就労支援	授業内容	働きたい希望の実現に向けての支援
		予習	障がいを持ちながら働くとはを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
11	就労定着支援	授業内容	働くことの継続の支援
		予習	就労を継続するために必要なことを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
12	就労定着支援	授業内容	働くことの継続の支援
		予習	就労を継続するために必要なことを考える
		復習	受講した内容をまとめておく
13	地域生活	授業内容	事例を通し生活を組み立てる
		予習	今までの受講内容を確認する
		復習	受講した内容をまとめておく
14	地域生活	授業内容	事例を通し生活を組み立てる
		予習	今までの受講内容を確認する
		復習	受講した内容をまとめておく
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	全体の復習をしておく
		復習	全体のまとめ

評価法基準	レポート 100%
教科書	なし
参考書	適宜紹介する 資料配布
履修上の注意	授業内でグループワークを行う 福祉関連の施設見学を予定しているが、変更し講義となる場合がある
オフィスアワー	授業前後

科目名	体験実習 I		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	1 単位	時間数	45 時間	回数	1 回

授業概要	<p>本実習は、入学後早期に、複数のさまざまな領域の作業療法の現場を見聞することにより、大学での学修の始めに、学生が広い視野で作業療法のしごとのイメージを持つことができるようにすることを目的とする。特徴の異なる施設・事業所を各施設につき 1 日程度、複数施設の見学を行う。入学早期にさまざまな作業療法士がはたらく現場を体験し、現場の作業療法士が「どのような対象に」「どのような作業療法を」「どうして」「どのくらい」実践しているのか、などの視点から作業療法のしごとを理解できることを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の対象領域、時期、対象者、目的、内容を理解する。 2. 学生として相応しい身だしなみ、態度、節度ある行動をとることができる。 3. 作業療法を学ぶ意欲や主体的な学習態度を身につける。 4. 施設における作業療法士の役割について理解できる。

授業内容
<p>体験実習 I では、実習期間中に、複数の保健医療分野におけるさまざまな作業療法の現場を見学する。実習施設は、一般病院・精神病院などの医療施設、介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・グループホームなどの入所施設、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション・認知症対応型通所介護などの在宅サービス、就労支援事業所、児童デイサービス・障害児通園施設などの小児を対象とした現場などである。これらの実習施設のうち、特徴の異なる施設・事業所を各施設につき 1 日程度、複数施設の見学を行う。見学では、作業療法士の指導・監督のもと、作業療法士の実践を見学し、説明を受ける。見学内容は、大学が指定する記録様式に則り記録する。また、体験実習での学習内容はポートフォリオにまとめる。</p> <p>【実習のオリエンテーション、事後の振り返りと報告会】</p> <p>○体験実習 I について、実習前にオリエンテーションを行う。実習後に、振り返りを行い報告会を実施する。実習のオリエンテーションでは、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価等の説明を行う。実習施設の見学に際しては、施設の概要、交通経路などを事前に調査し、見学の前提となる必要最小限の情報を得ておく。</p> <p>【施設実習】</p> <p>○実習時間 40 時間（8 時間×5 日間）、実習時間外の学修時間 5 時間</p> <p>○実習内容：作業療法士の指導・監督のもと、作業療法士の実践を見学し、説明を受ける。見学内容は、大学が指定する記録様式に則り記録する</p>

科目名	体験実習Ⅱ		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	1 単位	時間数	45 時間	回数	1 回

授業概要	本実習は、入学後一定の学びをした上で、作業療法士がはたらく現場を体験し、学生が作業療法のしごとの理解を深めることを目的とする。本実習では、実習期間中同一施設で実習を行い、当該施設の作業療法士が「どのような対象に」「どのような作業療法を」「どうして」「どのくらい」実践しているのか、などの視点から作業療法のしごとを理解できることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の対象領域、時期、対象者、目的、内容について理解する。 2. 作業療法学生としての倫理観や基本的態度を身につける。 3. 作業療法を学ぶ意欲や主体的な学習態度を身につける。 4. 見学した現場の作業療法について、リハビリテーションの中での位置づけと役割を理解する。 5. 施設における作業療法士の役割について理解できる。

授業内容
<p>体験実習Ⅱでは、実習期間中に同一の施設で作業療法の現場を見学する。実習施設は、一般病院・精神病院などの医療施設、介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・グループホームなどの入所施設、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション・認知症対応型通所介護などの在宅サービス、就労支援事業所、児童デイサービス・障害児通園施設などの小児を対象とした現場などである。これらの実習施設のうち、特定の施設の見学を行う。見学では、作業療法士の指導・監督のもと、作業療法士の実践を見学し、説明を受ける。見学内容は、大学が指定する記録様式に則り記録する。また、体験実習での学習内容はポートフォリオにまとめる。</p> <p>【実習のオリエンテーション、事後の振り返りと報告会】</p> <p>○体験実習Ⅱについて実習前に、オリエンテーションを行う。</p> <p>実習のオリエンテーションでは、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価等の説明を行う。実習施設の見学に際しては、施設の概要、交通経路などを事前に調査し、見学の前提となる必要最小限の情報を得ておく。</p> <p>実習後に振り返りを行い、報告会を実施する。</p> <p>【施設実習】</p> <p>○40 時間（8 時間×5 日間）、実習時間外の学修時間 5 時間</p> <p>○実習内容：作業療法士の指導・監督のもと、作業療法士の実践を見学し、説明を受ける。見学内容は、大学が指定する記録様式に則り記録する</p>

科目名	評価実習 I		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	3 単位	時間数	135 時間	回数	1 回

授業概要	<p>評価実習 I では、身体障害領域または精神障害領域の作業療法の現場において、学内での講義・実習で習得した評価手技を実際に体験し、評価結果の記録と論理的考察の過程を学ぶことを目的とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、面接、観察、検査・測定等の評価手技を体験し、評価結果を記録する。また、いくつかの内容について対象者の利点と問題点を抽出し、対象者の全体像またはその一部について論理的に考察することを目標とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、複数の対象者に対して基本的な評価手技を行い、評価の実施については、指導者の実践場面の見学から模倣、指導者の監視下での実施へと、学生の習熟度に応じて段階的に行う。実習前には、「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2. 対象者に応じた評価計画を立てることができる 3. 許容される範囲で評価を適切に実施し、対象者の全体像を把握できる 4. 対象者の全体像について、論理的に考察をすることができる 5. 実習内容について記録・報告をすることができる

授業内容	<p>評価実習 I では、身体障害領域または精神障害領域の医療・福祉分野の施設において、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、対象者に対する作業療法評価を実際に実施し、作業療法評価の過程を体験する。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。実習前には、「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。</p> <p>評価実習においては、臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ。具体的には、対象者に応じた評価計画の立案、情報収集、面接、観察、検査・測定の実施、評価結果の記録と報告を行う。また、評価結果に基づき、対象者の全体像を論理的に考察する。実習の過程においては、臨地実務実習指導者による指導のもとで、臨地実務実習指導者の基本的態度、臨床技能、臨床思考過程を観察し、模倣しながら学習し、臨地実務実習指導者の監視・指導下で主体的に実施できるように学習を積み重ねる。実習においては、対象者の人権を尊重し、守秘義務や安全管理に最大限の注意を払うとともに、対象者やその家族、施設の職員に対して敬意を持って接する。一連の実習過程を体験することにより、保健医療専門職としての高い倫理観と基本的態度を身につける。</p> <p>実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
------	--

【学外実習前】

- ・オリエンテーション

○1 コマ 90 分×1 回（評価実習Ⅱと共通）

実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。

- ・実技試験

○1 コマ 90 分×5 回（評価実習Ⅱと共通）

「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。

【施設実習】

○80 時間（8 時間×10 日間）

○実習内容：臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ

	8:30	12:00	13:00	17:30
1 日目	オリエンテーション・他	昼休み	CCS・他	
2 日目～9 日目	CCS・他		CCS・他	
10 日目	CCS・他		CCS・まとめ、振り返り・他	

※ 実習時間は、1 日 8 時間として、指導者の勤務時間や実習施設の特徴に応じる。

※ CCS（クリニカルクラークシップ）として、指導者の指導の下、診療参加型でさまざまな評価とその考察過程を学ぶ。

※ 最終日には、学生と指導者の相互の振り返りを行う。

【事後の振り返りとまとめ】

○1 コマ 90 分×4 回

実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

評価法基準	最終評定は、臨地実務実習指導者が報告する「評価実習評価表」に基づく習得度を評価し、臨地実務実習担当教員が実習終了後の学内報告及び議論や、実習前に行う技能評価等を総合して行う。
教科書	「臨地実務実習の手引き」（大学で作成した配布資料） 臨地実務実習ガイドライン
参考書	なし
履修上の注意	実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で臨むこと。実習は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に実習指導者に質問や指導を求めることが重要である。 履修要件：2 年次未までに配置されている必修科目（職業専門科目）を履修していること。また、事前評価として実施する実技試験に合格していること。 出席：決められた実習日数の 5 分の 4 以上の出席を評価の要件とする。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	評価実習Ⅱ		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	2 単位	時間数	90 時間	回数	1 回

授業概要	<p>評価実習Ⅱでは、評価実習Ⅰで経験した障害領域とは異なる、身体障害領域または精神障害領域の作業療法の現場において、学内での講義・実習で習得した評価手技を実際に体験し、評価結果の記録と論理的考察の過程を学ぶことを目的とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、面接、観察、検査・測定等の評価手技を体験し、評価結果を記録する。また、いくつかの内容について対象者の利点と問題点を抽出し、対象者の全体像またはその一部について論理的に考察することを目標とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、複数の対象者に対して基本的な評価手技を行い、評価の実施については、指導者の実践場面の見学から模倣、指導者の監視下での実施へと、学生の習熟度に応じて段階的に行う。実習前には、「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2. 対象者に応じた評価計画を立てることができる 3. 許容される範囲で評価を適切に実施し、対象者の全体像を把握できる 4. 対象者の全体像について、論理的に考察をすることができる 5. 実習内容について記録・報告をすることができる

授業内容	<p>評価実習Ⅱでは、身体障害領域または精神障害領域の医療・福祉分野の施設において、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、対象者に対する作業療法評価を実際に実施し、作業療法評価の過程を体験する。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。実習前には、「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。</p> <p>評価実習においては、臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ。具体的には、対象者に応じた評価計画の立案、情報収集、面接、観察、検査・測定の実施、評価結果の記録と報告を行う。また、評価結果に基づき、対象者の全体像を論理的に考察する。実習の過程においては、臨地実務実習指導者による指導のもとで、臨地実務実習指導者の基本的態度、臨床技能、臨床思考過程を観察し、模倣しながら学習し、臨地実務実習指導者の監視・指導下で主体的に実施できるように学習を積み重ねる。実習においては、対象者の人権を尊重し、守秘義務や安全管理に最大限の注意を払うとともに、対象者やその家族、施設の職員に対して敬意を持って接する。一連の実習過程を体験することにより、保健医療専門職としての高い倫理観と基本的態度を身につける。</p> <p>なお、評価実習Ⅱでは、臨地実務実習で経験すべきさまざまな障害、病期、年齢層を考慮し、評価実習Ⅰとは異なる経験ができる施設での実習とする。</p> <p>実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
------	--

【学外実習前】

- ・オリエンテーション

○1 コマ 90 分×1 回（評価実習 I と共通）

実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。

- ・実技試験

○1 コマ 90 分×5 回（評価実習 I と共通）

「事前評価」として実技試験を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。

【施設実習】

○80 時間（8 時間×10 日間）

○実習内容：臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ

	8:30	12:00	13:00	17:30
1 日目	オリエンテーション・他	昼休み	CCS・他	
2 日目～9 日目	CCS・他		CCS・他	
10 日目	CCS・他		CCS・まとめ、振り返り・他	

※ 実習時間は、1 日 8 時間として、指導者の勤務時間や実習施設の特徴に応じる。

※ CCS（クリニカルクラークシップ）として、指導者の指導の下で診療参加型でさまざまな評価とその考察過程を学ぶ。

※ 最終日には、学生と指導者の相互の振り返りを行う。

【事後の振り返りとまとめ】

○1 コマ 90 分×4 回

実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

○1 コマ 90 分×1 回

評価実習 I ・ II の総括

評価法基準	最終評定は、臨地実務実習指導者が報告する「評価実習評価表」に基づく習得度評価を参考にし、担当教員が実習終了後の学内報告及び議論や、実習前に行う技能評価等を総合して行う。
教科書	「臨地実務実習の手引き」（大学で作成した配布資料）
参考書	なし
履修上の注意	実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で臨むこと。実習は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に実習指導者に質問や指導を求めることが重要である。 科目履修要件：2 年次未までに配置されている必修科目（職業専門科目）を履修していること。また、事前評価として実施する実技試験に合格していること。 出席：決められた実習日数の 5 分の 4 以上の出席を評価の要件とする。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	総合実習 I		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	9 単位	時間数	405 時間	回数	1 回

授業概要	<p>総合実習 I では、保健医療における作業療法の現場において、学内での講義・実習で習得した評価手技を実際に体験し、評価結果の記録と全体像の考察、作業療法計画の立案とその実施および再評価を実践し、作業療法過程の体験と論理的考察のプロセスを学ぶことを目的とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、面接、観察、検査・測定等の評価手技を体験し、評価結果を記録する。また、いくつかの内容について対象者の利点と問題点を抽出し、対象者の全体像について論理的に考察し、作業療法目標に基づく治療・指導・援助の計画立案を行う。作業療法計画に基づいて治療・指導・援助を実施し、その効果判定のために必要な評価を実施し、作業療法の効果について考察する。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、指導者の実践場面の見学から模倣、指導者の監視下での実施へと、学生の習熟度に応じて段階的に行う。実習前には、「事前評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2.対象者に応じた評価計画を立てることができる 3.許容される範囲で評価を適切に実施し、対象者の全体像を把握できる 4.対象者の全体像について、論理的に考察をすることができる 5.対象者の作業療法計画を立案できる 6.対象者へ作業療法の治療・指導・援助を実施することができる 7.作業療法の成果を再評価にて確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる 8.実習内容について記録・報告をすることができる 9.管理・運営について理解することができる

授業内容	<p>総合実習 I では、身体障害領域または精神障害領域の保健医療分野の施設において、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、対象者に対する作業療法評価、全体像のまとめ、作業療法計画とその実施、再評価による効果の確認と作業療法計画の見直しを実際に体験し、作業療法臨床実践の過程を学習する。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。実習前には、「事前評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。総合実習においては、臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価から治療・指導・援助の実施、再評価に至る一連の実践過程を学ぶ。具体的には、対象者に応じた評価計画の立案、情報収集、面接、観察、検査・測定の実施、評価結果の記録と報告を行う。また、評価結果に基づき、対象者の全体像を論理的に考察し、作業療法計画を立案する。また許容された範囲で作業療法を実施し、その効果について再評価を行い、必要に応じて作業療法計画の見直しを行う。実習の過程においては、臨地実務実習指導者による指導のもとで、臨地実務実習指導者の基本的態度、臨床技能、臨床思考過程を観察し、模倣しながら学習し、臨地実務実習指導者の監視・指導下で主体的に実施できるように学習を積み重</p>
------	--

ねる。実習においては、対象者の人権を尊重し、守秘義務や安全管理に最大限の注意を払うとともに、対象者やその家族、施設の職員に対して敬意を持って接する。一連の実習過程を体験することにより、保健医療専門職としての高い倫理観と基本的態度を身につける。

実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

【学外実習前】

- ・オリエンテーション

○1 コマ 90 分×1 回

実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。

- ・OSCE（客観的臨床能力試験）

○1 コマ 90 分×4 回

「事前評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。

OSCE の評価基準は、習熟度の評定として、各 OSCE 項目得点率から S（90-100%）・A（80-89%）・B（70-79%）・C（60-69%）・D（59%以下）の 5 段階とする。

実習前の OSCE の各課題の評定に合わせて、復習の機会を与え、教員による習熟度の改善指導を実施する。

【施設実習】

○360 時間（8 時間×40 日間：5 日間×8 週間）

○実習内容：臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ

	8:30	12:00	13:00	17:30
1 日目	オリエンテーション・他	昼休み	CCS・他	
2 日目～	CCS・他		CCS・他	
20 日目前後	CCS・他		CCS・中間のまとめ、振り返り・他	
38 日目	CCS・他		CCS・他	
39・40 日目	CCS・まとめ・他		CCS・まとめ、振り返り・他	

※ 実習時間は、1 日 8 時間として、指導者の勤務時間や実習施設の特徴に応じる。

※ CCS（クリニカルクラークシップ）として、指導者の指導の下で診療参加型でさまざまな評価とその考察過程を学ぶ。また、加えて、作業療法の治療・指導・援助についても学ぶ。

※ 最終日前後には、学生と指導者の相互の振り返りを行う。

【事後の振り返りとまとめ】

○1 コマ 90 分×10 回

実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

評価法基準	決められた次週日数の 4/5 以上の出席を評価の要件とした上で、最終評定は、臨地実務実習指導者が報告する「総合実習指導者評価表」および担当教員が実習終了後の学内報告及び議論や、実習前に行う OSCE を総合して行う。
教科書	「臨地実務実習の手引き」(大学で作成した配布資料)
参考書	なし
履修上の注意	実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で挑むこと。実習は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に実習指導者に質問や指導を求めることが重要である。
オフィスアワー	

科目名	総合実習Ⅱ		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	9 単位	時間数	405 時間	回数	1 回

授業概要	<p>総合実習Ⅱでは、総合実習Ⅰと異なる施設で、特徴の異なる対象者に対して実習を行う。学内での講義・実習で習得した評価手技を実際に体験し、評価結果の記録と全体像の考察、作業療法計画の立案とその実施および再評価を実践し、作業療法過程の体験と論理的考察のプロセスを学ぶことを目的とする。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、面接、観察、検査・測定等の評価手技を体験し、評価結果を記録する。また、いくつかの内容について対象者の利点と問題点を抽出し、対象者の全体像について論理的に考察し、作業療法目標に基づく治療・指導・援助の計画立案を行う。作業療法計画に基づいて治療・指導・援助を実施し、その効果判定のために必要な評価を実施し、作業療法の効果について考察する。本実習では、臨地実務実習指導者の指導の下で、指導者の実践場面の見学から模倣、指導者の監視下での実施へと、学生の習熟度に応じて段階的に行う。</p> <p>実習前には、「事前評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2.対象者に応じた評価計画を立てることができる 3.許容される範囲で評価を適切に実施し、対象者の全体像を把握できる 4.対象者の全体像について、論理的に考察をすることができる 5.対象者の作業療法計画を立案できる 6.対象者へ作業療法の治療・指導・援助を実施することができる 7.作業療法の成果を再評価にて確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる 8.実習内容について記録・報告をすることができる 9.管理・運営について理解することができる

授業内容
<p>総合実習Ⅱでは、臨地実務実習指導者の指導の下で、対象者の同意を得て、対象者に対する作業療法評価、全体像のまとめ、作業療法計画とその実施、再評価による効果の確認と作業療法計画の見直しを実際に体験し、作業療法臨床実践の過程を学習する。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。</p> <p>総合実習においては、臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価から治療・指導・援助の実施、再評価に至る一連の実践過程を学ぶ。具体的には、対象者に応じた評価計画の立案、情報収集、面接、観察、検査・測定の実施、評価結果の記録と報告を行う。また、評価結果に基づき、対象者の全体像を論理的に考察し、作業療法計画を立案する。また許容された範囲で作業療法を実施し、その効果について再評価を行い、必要に応じて作業療法計画の見直しを行う。</p> <p>実習の過程においては、臨地実務実習指導者による指導のもとで、臨地実務実習指導者の基本的態度、臨床技能、臨床思考過程を観察し、模倣しながら学習し、臨地実務実習指導者の監視・指導下で主体的に実施できるように学習を積</p>

み重ねる。実習においては、対象者の人権を尊重し、守秘義務や安全管理に最大限の注意を払うとともに、対象者やその家族、施設の職員に対して敬意を持って接する。一連の実習過程を体験することにより、保健医療専門職としての高い倫理観と基本的態度を身につける。

なお、総合実習Ⅱでは、実習で経験すべきさまざまな障害、病期、年齢層を考慮し、総合実習Ⅰとは異なる経験ができる施設での実習とする。

実習終了後には、実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

実習後には、「事後評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習後評価」としての技術確認を行う。

【学外実習前】

- ・オリエンテーション

○1 コマ 90 分×1 回

実習の目的と意義、スケジュール、実習生の心得（個人情報取り扱い、安全管理を含む）、臨地実務実習指導者及び本学との連絡方法、到達目標と課題、臨地実務実習の評価課題等の説明を行う。

「事前評価」として OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、「臨地実務実習前評価」としての技術確認を行う。

【施設実習】

○360 時間（8 時間×40 日間：5 日間×8 週間）

○実習内容：臨地実務実習指導者の指導の下で、作業療法評価の実践過程を学ぶ

	8:30	12:00	13:00	17:30
1 日目	オリエンテーション・他	昼休み	CCS・他	
2 日目～	CCS・他		CCS・他	
20 日目前後	CCS・他		CCS・中間のまとめ、振り返り・他	
38 日目	CCS・他		CCS・他	
39・40 日目	CCS・まとめ・他		CCS・まとめ、振り返り・他	

※ 実習時間は、1 日 8 時間として、指導者の勤務時間や実習施設の特徴に応じる。

※ CCS（クリニカルクラクシップ）として、指導者の指導の下で診療参加型でさまざまな評価とその考察過程を学ぶ。また、加えて、作業療法の治療・指導・援助についても学ぶ。

※ 最終日前後には、学生と指導者の相互の振り返りを行う。

【事後の振り返りとまとめ】

○1 コマ 90 分×10 回

実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

- ・ OSCE（客観的臨床能力試験）

○1 コマ 90 分×4 回（事後の振り返りに含む）

実習後に再度 OSCE を実施し、臨床技能の習熟度を確認し、各段階に合わせて指導を行う。

OSCE の評価基準は、習熟度の評定として、各 OSCE 項目得点率から S（90-100%）・A（80-89%）・B（70-79%）・C（60-69%）・D（59%以下）の 5 段階とする。

実習後の OSCE の各課題の評定に合わせて、復習の機会を与え、教員によると習熟度の改善指導を実施する。

評価法基準	決められた次週日数の 4/5 以上の出席を評価の要件とした上で、最終評定は、臨地実務実習指導者が報告する「総合実習指導者評価表」および担当教員が実習終了後の学内報告及び議論や、実習後に行う技能評価等を総合して行う。
教科書	「臨地実務実習の手引き」(大学で作成した配布資料)
参考書	なし
履修上の注意	実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で臨むこと。実習は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に実習指導者に質問や指導を求めることが重要である。
オフィスアワー	

科目名	地域実習		担当教員	専任教員	
学科	作業療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	2 単位	時間数	90 時間	回数	1 回

授業概要	地域実習は、地域や住み慣れた場所で生活する人々の社会生活を支援する現場で、その支援を体験・実習し、その現場における支援の課題を解決できることを目標とする。地域実習の場と対象は、在宅高齢者、障がい者や障がい児、その家族などである。その支援の現場がもつ地域支援における役割を理解した上で、現場での支援の体験を通して、その現場で、作業療法士としてどのような課題に対してどのような支援ができるのかに焦点を置き、その実際を体験する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.職業人としての倫理観と基本的態度を身につける 2.地域における実習施設の役割を理解する 3.実習指導者の指導の下で、支援業務の一部を観察または実践する 4.実習施設において作業療法士として取組む課題と支援方法について考え、その一部を体験する 5.記録報告を行う

授業内容				
<p>地域実習では、地域で生活する人々の社会生活を支援する現場において、その支援業務の見聞や体験を通して、作業療法士として支援すべき課題とその解決方法について考え、その一部を実践する。地域実習の場と対象は幅広く、在宅のみならず地域の施設で暮らす高齢者、障がい者、障がい児やその家族である。本実習に先立ち、学内でオリエンテーションを行い、実習の目的、スケジュール、課題等の説明を行う。実習前には、実習施設の概要や交通経路などを事前に調査し、実習の前提となる必要な情報を得ておく。地域実習においては、実習指導者の指導の下で、当該施設の業務を見聞または一部実践する。実習の内容は、作業療法士の業務に限定されず、他職種の業務や多職種および他施設が協働して行う業務のすべてを含む。実習では、作業療法固有の業務に限らず、幅広く地域支援について学び、今後作業療法士として地域で活躍するために、どのような課題についてどのように解決していくべきかを総合的、発展的に考察することが期待される。また、本実習では、多職種連携の実際を体験し、必要な対処技能やコミュニケーション技能を身につけることも重要な課題として位置づけられている。</p>				
<p>【施設実習】</p> <p>○80 時間（8 時間×10 日間）</p> <p>○実習内容：実習指導者の指導の下で、当該施設の業務を見聞または一部実践する</p>				
	8:30	12:00	13:00	17:30
1 日目	オリエンテーション・他	昼休み	CCS・他	
2 日目～9 日目	CCS・他		CCS・他	
10 日目	CCS・他		CCS・まとめ、振り返り・他	
<p>※ 実習時間は、1 日 8 時間として、指導者の勤務時間や実習施設の特徴に応じる。</p> <p>※ CCS（クリニカルクラークシップ）として、指導者の指導の下で診療参加型でさまざまな地域成果の根差した評価やその考察過程等を学ぶ。</p> <p>※ 最終日には、学生と指導者の相互の振り返りを行う。</p>				

【事後の振り返りとまとめ】

○10 時間（1 日間）

実習内容の報告会を実施し、異なる対象・施設での経験を学生同士で共有し、作業療法士としての知見や理解を深める。

評価法基準	最終評定は、実習指導者が報告する「地域実習評価表」に基づく習得度の評価を参考にし、担当教員が実習終了後の学内報告及び議論を総合して行う。
教科書	「臨地実務実習の手引き」（大学で作成した配布資料）
参考書	なし
履修上の注意	事前のオリエンテーションの参加を義務とする。実習に際しては、学生としてふさわしい身だしなみ、服装、態度で臨むこと。実習時は、主体的に学ぶ姿勢を心がけ、自ら疑問を持ち、積極的に実習指導者に質問や指導を求めることが重要である。
オフィスアワー	